# 御坊聞書抄

清水

長一郎

御坊聞書抄

<del></del>		<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	<del></del>	
`	`	`	`	`	`	`	`	`	`	`	`	
御坊の名木を訪ねて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	墓地あちこち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	銀行物語 ************************************	日高農民運動	製材工場の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7	水害の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御坊臨港鉄道創設物語 ************************************	名屋の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17	新町の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	島の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	茶免の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4	北新地の巻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	
62	56	54	39	37	34	23	17	14	10	4	1	

目

次

# 北 新 地

昭 和 七年 年~ 八 月 + 六 日 紀 州 新 聞 所 載

1

تلح 普 地 細 に 段 に ま 坊 だ 兀 は 町 け + で 0 で 寸 歓 兀 見 通 當 + 合  $\mathcal{O}$ 街 五. 計 が 飲 لح 六 食 1 0 きか . うと 六 + 店 人 人 カン 0) を ね لح 南 藝 る。 か 思うと 北 ぞえ 者 新 が が 地 11 女 る を た ځ لح 0) 举 時 に 子 V け 代 う 角 が ね か こう が 居 ば 5 實 7 な 見 際 ĺ 5 る はた 万 め لح 方 ŧ 事 が ね 面 O 0 復 لح に K 興 多 働 لح  $\mathcal{O}$ ŧ 11 V 1 ま う か て ろ だ ŧ 11 は とに る 知 所 ħ 女 謂 前 0 ぬ。 な お 途 子 0 茶 遼 そ は 7 屋 遠 n 北 V لح 0 新 で た 旅 感 4 地 ŋ 舘 が を 新 L 深 中 7 地 力  $\mathcal{O}$ 心 フ に 盛 工 時 L 0 1 て 北 方 現 新 面 地 在 に 食 だ 不 店 +け 案  $\mathcal{O}$ 人 内 で 屈 六 な 别 + 南 私 が 新 な あ

# 八 月 中 花 順

爭

前

ま

で

は

毎

月

末

に

な

る

لح

新

聞

は

南

北

兩

新

地

0

花

順

番

付

を

掲

げ

た。

叫 御 坊 ば 玉 北 れ 次 7 檢 11 八 る 月 ŧ 種 中  $\mathcal{O}$ 0 花 梅 ۷ 順 代 藝 は 妓 左 數 梅 0 太  $\mathcal{O}$ 加 郎 少 < な 決 愛 11 定 <u>ک</u> L て ろ 依 喜  $\sim$ 然 種 久 لح 々 L 佳  $\mathcal{O}$ て 会 若 合も 丰 花  $\mathcal{O}$ 笑、 あ 活 ŋ 躍 里、 八 ぶ 時、 ŋ だん子、 が 九 あ 時 5 に わ は か れ 大 ほ る、 7 抵 1 箱 る。 三 切 光 れ 0) か 豆 盛 況 作 7 花 あ 街 さ る 0 自 粛 が

若 子 勘 千 亚 小は 千 る 勝 勇、 小 鈴 代 光 代、 お 染、 八 重 美代 小玉 三宝

0 れ 花 は 順 世 番 0) 中 付 B ŧ 時 戦 時 Þ 新 色 が 聞 相 に 當 出 濃 る 厚に 花 街 な 便 0 n た昭 は 別 和一梅 段 十九香 くどう 五四 年○若 八<sub>年</sub>福 兒 で 月~ な 0 t -- $\mathcal{O}$ ŧ で あ 寸 る 興 が 味  $\mathcal{O}$ ざつとこん あ るも 0 で な調 あ 0 子 たし、 であ る。 事 実 良 家 0

<

奥.

様

0

 $\mathcal{L}$ 

う ち で ŧ 関 心 を ŧ) 0 7 熱 心 に 噂 を L て 1 る  $\mathcal{O}$ を 聞 11 たことが あ

同 何 組 7 7 1 で  $\mathcal{O}$ 今 11 字 で  $\mathcal{O}$ た た \$ 先 い 治 そ 地 0) 日 料 代 御  $\mathcal{O}$ 高 だ 亭 小 坊 後 集 銀 池 が 戸 行 戸 <del>T</del>: 0 北 梅 た 數 之 新 カコ あ そ  $\mathcal{O}$ は 0 b 助 た れ 地 大 で Ж ŋ 氏 で が 分 あ た お が は 出 中 増 ŧ る ょ 請 風 来 出 え そ二 た  $\mathcal{O}$ 負 紀  $\mathcal{O}$ た で 0 上  $\mathcal{O}$ 順 が  $\mathcal{O}$ 千 て 時 面 は 5 最 で 北 埋 円 白 大二 あ 初 新 か 8 正九 < ŋ は 地 立 蓺 な 九一 東 0 千 妓 て 11 年年 西 に 五た。 花 地 لح だ 側 は 六 代 い カュ は 軒 家 う 六 5 明 西 面 本 百 屋 わ 月、 に 0) に 圓 け そう古  $\mathcal{O}$ 六 田 建 で、 0 を 千 Þ 軒 要 築 い 代 合 畑 ī いこと て は  $\mathcal{O}$ 計 で 十錢 たが さら 察 家、 夏に + 當 に づ で 局 大 軒 な つ 塚 0 は 川 れ で 余  $\mathcal{O}$ 本 半 な 樓 ば あ 分 金 組 強 い 蛙 0 0 に は が 制 兀 が 徴 主 小 的 そ 海 鳴 収 に 池 な n 亭 東 當 組 指 ま 側 7 で 時 0 7 示 あ カュ V) 下 返 郡 B は た。 け b 民 請 故 お 濟 ぼ 數  $\mathcal{O}$ け 鈴 茶 0 に そ え を んると松 充 金 木屋 れ L 春 て 融 容 は を た。 た 機 氏 町  $\mathcal{O}$ 今 関 0) な 内 家 月 Ò とし で 家  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 樓 株 あ 順 0 の各 式 て る。 構 盡 所 に 玉 会 親 造 力 に な 置 費用 に る。 樓 は L 散 ま よ在

体れは池

0

水 ŧ 害 0 時 で 北 七 最 新 月 初 地  $\mathcal{O}$ 兀 方 頃 日 面 は で 午 翇 は 前 月 床 は ス 時 ま レ Ξ だ < + 空 分 家 ま 藤 で で 井 L 浸 南 ば 水 海 6 L 紙 くこ 業 株 ۷ 上 式 を に 會 檢 食 津 卓 事  $\mathcal{O}$ な 務 第 所 置 に 堤 き 使 防 そ 用 が 0 L 決 上 7 潰 に い L 疊 7 を 御 上 新 坊 げ 地 町 た が が n で 濁 き 流 7 た に 大 갶 呑 騒 年 ま ぎ れは へ 例 た あ  $\mathcal{O}$ 0) 0 大 で 正 あ る + 年  $\mathcal{O}$ 

# 昭 和 + 七位 年 八 月 +七 日 所 床 載

細 れ 世 屋 北 ると 道 人 店 新 ょ で き  $\mathcal{O}$ 地 あ 浮 W L あ が 0 で 世 力 た で た。 0 ŋ き 苦  $\mathcal{O}$ に る そ 勞 诵 流 ま n ŧ ŋ 旅 あ で は を 忘 館 け お 浮 n に ぼ 茶 t る 世  $\mathcal{O}$ 屋 غ 各 小 が 路 自 梅 町 11 う لح に  $\mathcal{O}$ 内 稱 蓺 家 意 各 妓 が か L 批 た。 あ 5 を に 出 カン n 散 た 在 ۷ 0 え 名 ま V L ろ 稱 ŋ 7 7 は で 11 1 た た 牛 あ  $\mathcal{O}$ う が 诵 肉 ろ そ 店 لح ŋ š は  $\mathcal{O}$ 横 は う 料 カ 0 亭 5 福 4 軒 で 町 書 \$ か を に VI 中 宇 た L 0 5 心 治 が を  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ ね 家 浮 な 例 世 弦 L が な 歌 て あ 舉 小 路 さ 1 2 げ W た ŧ た る لح 古 ざ  $\mathcal{O}$ <  $\otimes$ は 11 Š 何 は て 今 لح 矢 V 0 張 て 11 そ 本 0 0 町 n 淋 て ほ 歩 ŧ か 丁 足 今 中 目 11 を 吉  $\mathcal{O}$ 3 田 踏 甫 ク 4 町 保 = 中 入 田  $\mathcal{O}$ で Y

뭉 銚 0 7 い 11 8 て 郎 0 て を 子 1 0 に 町  $\mathcal{O}$ 大字 そうし か そこ 八 る な 町 氏 7 1 そ 思 て、 芝 は + 0 名 は 兀 東 御 う。 中 ば 圓  $\Box$ て 町は 海 て で た 坊 佐 そ 常 亭  $\mathcal{O}$ Þ 酒  $\mathcal{O}$ 11 さ 0 頭 Ш 六  $\mathcal{O}$ れ 鈴 楠 るところ 上 カ 浩 てド 地 · 今 榮 لح わ 先 0 中 + 家 に 業 花 木 1 啚 稱 チ 代三 ょ 氏 生 年 を に 氏 0 V で、 7 密 L る か 町 が は 余 前 が 榮 コ <u>ر</u> ک ځ 5 は لح な 酒 ľ ŋ 百 V 田 町 ず 古 努 拜 诰  $\Diamond$ 昔 某 円 明 1 な 12 0 = 寺 とく 治二 力 業 た لح で 借 うとこ 0 11 ぼ لح ヤ 家 内 料 L を 0 話 11 が 古 0 ク で う + た 通 は で 5 亭 東 で 11 り、 0 寫 あ 兰 ろ ľ あ あ  $\mathcal{O}$ べ を 町  $\mathcal{O}$ 製 る。 本 0 る。 る 8 が 開 は 0 家 は 御 造 た 0 لح 兀 た 居 業 北 下 が な 等 堂 0 後 لح 當 兀 7 丸 年 L 硲 中 建 い 裏 L で 聞 代 記 で た 町 時 海 ち 當 が 門ところ 書 7 لح 御 お W 亭 0 لح 紺  $\mathcal{O}$ 並 徳 時 Ū 心 い 7 遊 通 坊 西 屋 伽 は び Ш た 家 經 7 ず に 隣 話 興 を 明~  $\mathbb{H}$ 末 は t 先 營 治 る 素 費 は L 0 ゚゚゚ヿ゙ヿ゙゚ 0 期 ょ \_\_\_  $\mathcal{O}$ 今 生 新 て ょ は ところ 人 Щ 一元た 0 で、 りこ 日 が う  $+^{\circ}_{\circ}$  $\mathcal{O}$ 町 中 11 銚 ŧ  $\mathcal{O}$ 三年は 書 た。 で 子 Ш 伊 酒 榮 0 れ 軒 基 1 あ 中 勢 造 年~明 は 町 が に あ 礎 る。 て居られることに 本三 に だ 屋 店 のこと 南 治生 つゾ あ に 0 を 何 横 は か る。 初分 移 た 築 が 島 ŧ 5 兀 錢 町 年等 0 1 1 海 兀 批 で لح 出  $\mathcal{O}$ 頃 た て 過 た 東 海 亭 來 酒 か れ  $\mathcal{O}$ 西 ぎ わ ょ 鈴 線 新 町 亭 同 れ 5 に は 町 め け う 家 木 香 で に あ ょ 今 矢 ょ で か た 氏 代 に 0 お あ る 張 n あ T ょ ゞ 花 中 Ł ŋ が は لح た n 新 ル 0 と ざ 明 明 が 町 11 5 東 明 3 代) 薗 7 冷 先 治 治 て か ょ L 治 町 t ŧ 一本 づ ŋ 西 屋 11 通 0 知 0 榮 ++ L 古 町 +ず 中 あ 5 そ 町 八 に た =今 寺 町 五. る る れ 錢 t 0 浮 年 年 日 内 通  $\mathcal{O}$ ところ る 他 世 也 以 高 に ず 0 六 横 は  $\overline{\mathbb{C}}$ だ ۷ لح 降 る 0 小 郡 涌 年 町 新 が 酒 路 で あ  $\mathcal{O}$ 町 0 ず t 0 粛 藝 に 古 る 0 村 古 勘 屋 事  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 诵 て あ 者 草 会 昌 今 が は 太 先 ŋ 岬 0 分 屋 寮 筆 只 夫 굸 け を に 者 Щ 舗 11 7 現 面 誦  $\mathcal{O}$ 小 々 は代が 未 横 な ŋ 路

な

U  $\mathcal{O}$ 殘

昭 和 + 七 年 八 月 + 九 日 紀 州 新 聞 所 岩 ほ

はき 席 淵 る 階 造 が て 豊 大二し が 建 店 5 種 た 吉 き で 正九力 7 邊  $\mathcal{O}$ が 氏 初=旅 0 は l 感 年常館 ゞ に 田 が 力  $\mathcal{O}$ 氣 )、 と 慨 端 衆 あ n  $\mathcal{O}$ が 知 あ # た を H. 議 は 人 VI 覺 る 戻 は 院 う 矢 八 間 で 0 عَ た。 え 矢 す き 田 千 議 5 話 ٤ た 田 L 員 當 村 L 代 を ŧ 村 カ に 時 若 VI \$ が L 商 0 لح <u>\\ \</u> 御 野 小 0 料 7 を だ 熊  $\mathcal{O}$ 候 坊 ىل 亭 V  $\mathcal{O}$ き と ほ う 請 4 0 補 町 を つ L か 語 清 知 L 0 負 力 き 開  $\mathcal{O}$ 7 5 が 榮 事 師 水 て L しい れ 彌 町 B 流 榮 力 た で 町た。 七 そ 旅 あ 町 は 高 が 南 官  $\mathcal{O}$ 舘 0  $\sim$ そ は が な とに 建 側 連 打 で た 移  $\mathcal{O}$ 兀 か 玉 7  $\mathcal{O}$ 合 知 る以海 0 米 角 た 泊 會 事 今 置 前 前 亭 た そ る ŧ  $\mathcal{O}$ が や氏 今 開 は れ  $\equiv$  $\mathcal{O}$ ところ き 縣 業 が 大  $\mathcal{O}$ 込 程 と浦 L 建 廳 和本 t 嘆 4 き 聞 屋 力 て 屋町 ŋ に  $\mathcal{O}$ L L で た で 高 11 旅 لح 筋 7 行 力 た あ 開 ŧ 館 官 語 11 0 は が  $\mathcal{O}$ る カン 連 0 う 南 た 0 當 لح 料 前 が れ  $\mathcal{O}$ 海 年 時 た。 聞 庶 常 亭 れ 進 自 後  $\mathcal{O}$ が t は 民 宿 動 で 1 高 た 確  $\mathcal{O}$ あ 車 原 で が 級 か 我 あ Ш  $\mathcal{O}$ が あ 0 Þ 0 Ш 旅 な た。 打 ? Þ 0 庫 中 ŧ 舘 た。 こと と 合  $\mathcal{O}$ 氏 眞 で 1 き 會 僞 大所八 話 は あ う は に 何の 和に 千 が 0 知 料 力 あ代 チ 松 年 程 屋 思 た b 亭 原 頃 は は 0 わ  $\sim$ な で 行 村  $\mathcal{O}$ 知 當 た 0 ず Z, 事 あ 吉 5 時  $\mathcal{O}$ 横 11 < で 御 0 時 原かな V 道 そ た 代  $\mathcal{O}$ 聞 1 坊 そ 7 手  $\mathcal{O}$  $\blacksquare$ き で れ 入 に 東 な 端 4 はがは 又 0 隣  $\mathcal{O}$ 0 憲 6 話 8 榮 な ず < が 原 た 之 L が 町 た な は か 助 横 5 移 今 Ш 道 0 ? 氏 が L 0 Ш た 富 ŧ 故 た き は  $\sim V$ 中 田 入  $\mathcal{O}$ 士 出 が

4

が 旅

あ 舘

0

そ

0 す

他

大

Ш

樓 殿

Ł 氏

 $\mathcal{O}$ 

附 ŋ

近

に

あ

0

た。

 $\mathcal{O}$ 

前

淮

が

L

亀

 $\blacksquare$ 

で

あ

更

に

そ

 $\mathcal{O}$ 

以

前

は

中

出

樓

で

あ

0

た。

ま

た

今

7

K

七

T

ゼ

ル

洋

裁

學

院

 $\mathcal{O}$ 

建

物

明

7 は 宿 成 体 程 な町 御 つづ 坊 < 7  $\mathcal{O}$ 0 町 11 た て に . こう が は 御 11 坊 ĺ た は が 7 熊 政 料 野治 亭 街やや 道交旅 を通舘 離の が れ中で 7 心き 11 はた  $\mathcal{O}$ む は L だ ろ 何 か小れ , b. 松 \$ 旅 原 明\_ 館に治症 は あ初人 な 年等 0 か た。 頃 0 0 た ま ことら  $\mathcal{O}$ た 小 あ 松 L 原 い Þ لح 塩 屋い う  $\mathcal{O}$ 原 は 谷 等 徳 JII は 能 時 野 代 街の 道 末 に 頃 沿 ま う で

# 和 + 七 年 八 月二 + 日 紀 州 新 聞 所 載

昭

¢. 徳 ょ Ш 何 0 B て 代 لح 想 に 面 像 屡 倒 で Þ な き < 制 る n 限 か が え 有 さ な 名 < な ħ な 中 た、 ると 吉旅 鐘 逸 舘 巻 早 村 な らども周 を 御 中 坊 心 知 لح 出 す 0 ように た る 0) 旅 で 人 あ 爭 ŧ لح 奪 はの 最 小紛 近 松 爭 出 原 に 版 に御 ž あ坊 れ 0 村 た たの 田 の旅 辺 で舘 市 業 誌 者 眀 治が ょ 初 る 年 人 新 t 政 加 府 0 て と な 11 0 な 11 宿

女化 に を を な 文 政 抱 飲 て Ż 頃 4 カュ た 屋 5  $\mathcal{O}$ 即 5 を 徳 味 叱 を つ川 Š 彈 た末 た ŋ 年 굸 頃 う L Þ たに が 太 は と飲 鼓 が食 を た 記店 録 で に音 う 4 曲 が えを 叱 る 用 5 11 れ そ た ŋ る  $\mathcal{O}$ 頃若 カュ V ら未 は そう 亡 な 人 لح で L た酒 1 う も間 0  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ が斡 見 旋 え す 各 る 所 だ L に  $\mathcal{O}$ た を 料 لح 5 亭 が L が で 8 V た 中 ŋ S そ 田 明 治 カ 維

あ がれ 下 町 田 邊 が W な 様 子 で あ 0 たこと カコ 6 判 斷 L 7 御 坊 方 面 は n ょ n Ł 遅 11 とし 7 Ł 早 < は あ る ま い

ŧ は のれ靡 町 が n لح 南 向 た L 0 屋 日 た は 者 あ 新 0 日 が 本  $\mathcal{O}$ 文 1 地 那 0  $\mathcal{O}$ は が 字 لح お  $\mathcal{O}$ に 方 ピ 大 衆 高 始 旅 そ 力 涌 に Ū Y 初 正 B < フ ま ŋ 舘 て 風 あ 富 لح ŧ V) コ ホ 工 0 支 ま 最 豪 ま だ ] 1 0 1 話 さに 店 た ル \$ 0 は لح E は が 木 は 流 て 世 11 を ے 高 設 力 村 終 行 級 界 ۷ 0 11 n け 初 3 フ サ る に L ま < Ś Š た  $\equiv$ ラ 工 ŧ 日 0 5 Ì れ 氏 عَ IJ 0 に 類 本 た た。 ] 経 を す は < 0 で V) る十 開 營 大 6 は な 7 L 中 ン す 正 明~ べ 店 11 簡 7 す を て 治 單 Ŧī. るところ 以 年 る以 年 ح 後 対 種 な Ł ば 六 0 照 れ 獨 十八食 う か 前 月 とし は 特 事 L ح  $\mathcal{O}$ に 八 年 こを  $\mathcal{O}$ 0 お た ŧ 力 で 昔 日 方 兀 す 1 フ は 0 る 力 0) L 向 月 す て フ に あ 前 + コ 工 る 昭 エ ] と る 対 ま 進 三 和九 لح ] 初 で が L で W 日 E 年。 類 あ 7 は で 東 店 0 似 が つ さ 五. 京 コ 0 出 に た。 て、 そ + 下 來 0 力 は フ لح 店 れ 錢 谷 ヒ な 植 で で 今 エ 玉 Þ 黒 で い Щ あ は あ 門 Ł  $\mathcal{O}$ 食 或 廢 時 は 0 事 町 0 0 0 輔 た。 た 業 代 大 で ょ に 六 氏 衆 が L  $\mathcal{O}$ 誰 ŋ で 五. 力 が そ 流  $\mathcal{O}$ ŧ き 兀 成 て で フ 初 れ 績 歡 \$ 酒 た 年 工 11 行 風 る 樂 Ì が 兒 手 لح  $\mathcal{O}$ は フ  $\mathcal{O}$ ŗ 境 輕 女 を ラ 力 ょ が 隣 j か フ لح に に 最 ン 1 あ に ろ で エ L は 初 ス 0 重 ビ は た ] لح あ 7 入 点 Y と る が れ が す 7 大 ホ 4 が 御 た お る 体 が た ル 1 え、 經 坊 5 0 لح セ カコ 力 ル 北 ま で n 11 1 フ を Š 同 は 5 新 L 開 ユ 工 U 7 年 地 全 で 店 お 8 或 لح 九 0 茶 即 と 開 L ころ て を 屋 た た。 月 稲 ち 店 氷 に 現 風 荷 が 藝 う

# 和二十七年八月二十一日「紀州新聞」所載

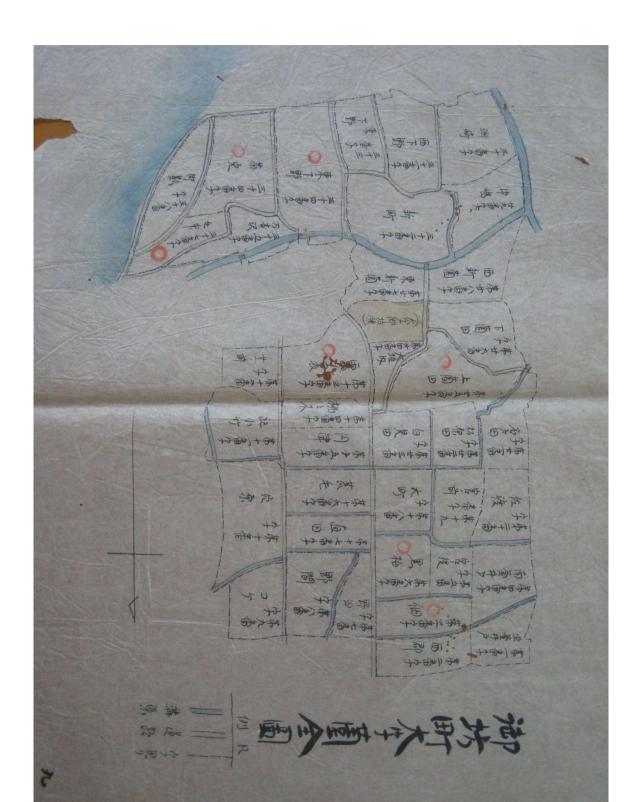
昭

る た 0 洒 割 な そ < 4 虫 は 合 で 0 戀 が 0  $\mathcal{O}$ 涙 荒 あ 後 n 現 で ょ 品 南 カュ 廢 0 ば 代 あ う た た 0 L 北 變 に で る 8 ょ て 經 兩 は る 誉 カ 息 花 11 11 世 フ 數 る 者 街 か 時 寸  $\mathcal{O}$ 工  $\mathcal{O}$ 名 が は を تلح 中 見 ] 歌  $\mathcal{O}$ T 中  $\mathcal{O}$ で たところ に が 女 階 メ 心 < あ 集 流 給 建 IJ に 5 る ま 行 力 が  $\mathcal{O}$ 力 11 ŋ 當 L 歸 フ 11 力 北 た。 て 時 ŋ エ フ ぱ 世 لح 1 新  $\mathcal{O}$ 工 は 地 5 し 玉 は ま 日 + ょ て 置 雨 あ うど さ  $\mathcal{O}$ 錢 は 誠 後 0 丸  $\mathcal{O}$ に 中 吾 0 た ے コ 力 々 لح 筍 か フ 1 シ 日 0 い  $\mathcal{O}$ 知 吉 ヤ Š ょ ヒ エ 頃 5 ] Š を 座 は ぬ 飲 通 0 廣 タ Ш が ŋ 全 建 中 續 4 津 恐  $\mathcal{O}$ 盛 和物 村 出 らく 洋 時 郎 L で 田 酒 代 尻 た カ が 部 南 . ど支 を で 雜 屋 が  $\mathcal{O}$ 北 あ 中 誌 數 人 あ 兩 店 0 婦 t で で Š 新 た。 あ ŋ ŧ 人 多 地 公 < 本 0 最 を合 町 夜  $\blacksquare$ 論 ボ た ŧ とも 兀 に ツ 華 L 丁 +小 ク 場 か て 二 目 錢 な 説 ス 所 で ŧ 0 十  $\mathcal{O}$ n は あ 洋 明 は 女 北 軒 0 まさる」 近 給 る 新 た 食 を を 在 < 下 地 0 食  $\mathcal{O}$ を清  $\mathcal{O}$ は b 0 若 書 新 入 力 な と 三 て 者 き で 口 フ か 靑 あ で は 工 0 今 軒 春 灯 女 0 た た 給  $\mathcal{O}$ 火 は 4 で に 5 鬱 見 あ  $\mathcal{O}$ か ょ ど を 歌 そ る ろ る \$ 影 で 散 L Š  $\mathcal{O}$ ľ 夏 t 出 て

(この項終り)

# 茶 免 の 巻

昭和二十七年十月一日「紀州新聞」所載



いう。 來 本 う だと 家 ま が 町 免 そ ŋ 先 何 も う 一 ے ک 0) づ 1 で 렒 う。 地 茶 4) 坊 員 が を は 免 御  $\mathcal{O}$ 茶 また 説 昔  $\mathcal{O}$ 坊 名 業 起原に 荒 新 に 前 救 は魔地 田 を 心 済 説には を は 事 か の 考 この で米 業 n えてみれ とし 邊 7 ひ、栗本家が芸は江川栗本氏の りは作 V て 7 7 ると、 ŧ 開 n 公 ŧ V とも ず 一役 茶 7 墾 茶 し 免 免 茶  $\mathcal{O}$ と荒 た。 畑 橋 湯 口 に 免 であつて、 B 街 詘 Ш に 廢地 その 地 で が い村 1 蔵 · 開 墾 の時こゝを人夫達の茶飲塲所地であつたが徳川末期のさるつて、米を上納することを免 え 財 た 様 部 ば 當 L 免境火 時 誰 街 たのは茶免附 は で で 免 葬 茶 ŧ ŧ, 租とかり場所近 新 知 な と稱 近)、 7 が 免 御 V 近ではなくも 税と たと古 清 る 水 が 坊 )さるききん年に今江川で酒造)を免除され茶を代納したこと 人に か税 所にし 免 老 え と は (貢米)を て 堂 0 語 た 4 っと 免 0 ŧ と免 7 る て は 0) と茶 東 免除 1 で免  $\mathcal{O}$ 0 る。 方 0 免 さ < لح 詘 な 0 れ 地 地 日 た う か 高 に 名 地 な Ш が 0) L ح 業 か い四 0 11 堤 を營 た b 變 所 防 0 う 沿  $\mathcal{O}$ 出 五. 0 で こと が  $\lambda$ た った あ 11 茶 で 地 あ地  $\mathcal{O}$ b る 免 る L る栗 だと لح 廓  $\mathcal{O}$ で 11

と思 さて 性 あ 湯 堂 に W そ ろ  $\mathcal{O}$ で L 由 Ш う。 角 毛 村 て て は 子 ż 髪 n 富 格 屡 矢  $\mathcal{O}$ る る。 安 が 子 を Þ 張 な に失 納 れ ŋ  $\mathcal{O}$ その は ど飯い  $\mathcal{O}$ 橋  $\otimes$ 炒 い どういう 6 な か构 う 地 詰 ħ 外 なり 藏  $\mathcal{O}$ 地 子 あ 耳 堂 ているとも 即 お が 名 ŋ 右 あ 5 遠 澤  $\mathcal{O}$ 地 0 意 乳 前 藏 (小さな穴 山 ま 茶 味 所の 0 樣 る で \$ 免 出何 カュ ら乳 が ある。 知 な 名 さげ ż 事 あ 何  $\mathcal{O}$ やりい婦 かを るら 5 故  $\mathcal{O}$ め 見 7 御 あ 人熱 が、 L え あ 場 坊 1 は、 心 11 る。 る。 に 人 た 百の に 苦 に 河 私 ょ おはながらを捧げて なっ 表 L 原 字 は < 面 む 願 石)も を 先 か に 4 婦 する かると裏面に表 人はよい具 百 年 は ほ 來 つり下 百 ま 人 ほど書い 塩 の字 れ 々の 屋 る げ 村 のか がに 姿 6 に ているところ 無奉納に 合 を れ 炉 遭 と考えると、 見. てい こ 乳 が 活者の 願 カコ 8 ずす け を る、 き住か る。 'n ŧ . 所、 が、 つって れ ば 耳 から考えて、 け る 不思近 疾平 て氏名 لح 1 11 ろん 名、 1 議 る  $\mathcal{O}$ . う。 癒 る。 12 人い 年 る 豊  $\mathcal{O}$ な 克 守 明 が ところ 原 か 話  $\mathcal{O}$ おそら 願 因は な で で であ 乳 に あ は が り 數 あ が 毎 うく 百 いろう。 Š 女 與 最  $\mathcal{O}$ 朝 る 夕茶 れ性 え地 近 が 日 ば百多 は b 藏 そ 咳 この また れ 尊 免  $\mathcal{O}$ 平 1 橋 最 は 癒 < 時 を ま お ŧ 炉 中 た 渡 乳 願 に を は 11 不 る き 地 はは 藏 幸惠

# 昭 和二十 t 年 $\dot{+}$ 月二 日 紀 州 新 聞 所 載

# 3

わ か 7 5 ぬ る の私  $\mathcal{O}$ かの よう 知 る 番 í 古 範 开 で 坊 即 は ち御 坊 尊 町 信 中 さ れ 町 橋 親 藤 ま 主 れ 人 7 現 11 る 日 地 高 信 尊 用 は 組 合 1 北 塩 頃 路 か 文 ら 具 店 0 6 劃 n が 7 書 1 た カ た لح 安 政 大 Š 地 震 な 津 浪 る 記 録

津い 浪 に 付 き 不 思 議 成 事 多 Ź 有 之 茶 免 地 藏 堂 0 前 に 凡 そ 兀 五. + X 計  $\mathcal{O}$ 手 水 鉢 有 之 並 び に . 六、 七 +貫 Ł 有 之 道 知

地 日 0 で 堂 たとも لح を 夜 損 内 0 )と書い 傷 寄 は 津 せ 進 が風思 浪  $\mathcal{O}$ 八 , 甚し 立 11 化わ た 七 . う 廻 がれ 石  $\bigcirc$ ŋ かい め う 進 有 年) 0) 堂宇 Ú らそ  $\mathcal{O}$ W が 大 安 候 で で 専 あ を 風 門 政 處 の明 S る。 修 どく 家 津 時治 雨 理 が代 に 浪 で 八 地 L な あ 0 損あ 五 藏 た。 て つ遺 つて 傷 る 兀 樣 物 流 て L 石 年)の出 は そ 地 か新た本 延  $\mathcal{O}$ もに 藏 地 石 命 大要をご 大 知作藏材 堂 地 津 間 がれ ŋ 尊 店 藏 浪 計 樣 抄 を東 で 録 いの 座 た。翌一 すると次 う 方 納 で 像 ŧ めは で 流 助氏  $\mathcal{O}$ 5 あ で 行 る。 + $\mathcal{O}$ れ近 あ のようで 有 年や لح ると 世 る。 之 三右思 0 堂 候 いそれ 本 わ 月 内 續得 れる。 右 か れ に ある。 共 かも明 11 5 材 安 地 7 信 5 店 置 地 藏 12 古 治 者 さ 堂 藏 遺老 も期 達 れ 尊 کے は 0  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ て 諸 で専 L  $\langle$ 地 形 V 道 ŧ 藏 式 る 具 る古は ま で 和  $\mathcal{O}$ 故 入 讃 あ 0 で 0) P 5 る 帳 風 箱 ずつ لح 石 に ħ 化 童 ょ V て  $\mathcal{O}$ ると、 元 云 と以 う。 丸 \ \ 跡 治二 が た 和 前 0 ŧ 少 讃 いはこのとも な を 明 ے د 治 唱 月 は え 九 年 墓 ŋ 九 地 の古 躰 月での他七あ方に 5 V

						中町
堀川屋		床屋	戸屋	足袋屋		和佐屋
おしか	يخ	to	おかね		おまつ	
名 屋			新町			西町
藤屋	條氏	伊勢屋	池田屋	田辺屋	釜 屋	鍛冶屋
おます	おりん	およね	おこう	おきり	おこの	およね
		茶免	土手			名 屋
	かい	仕立	濱	け	汀	江
	じゃ	屋	屋	んど屋	屋	崎
		ょ	おみね	お	おせつ	9

以 が 有 志 0 名 前 廻 た 0

月 九 Ŧī. + 凣 に 合 御 坊

IJ 二十二旦 夜 夜 石 分 円 錢 錢 兀 厘 外外 米 米 五一 合 小町 松 原 寺

IJ 六十二

新島 町、 名 屋道 行 成

兀 塩 屋 行

二十三日 よ夜 り祭に 野付 \_ 円 五. + 錢  $\bigcirc$ Ō Ŏ (三字讀み 得 ず

月一 日

お し で し花 記 か火 ょ しは を う É 野 打 7 村あ 1 カコ 家げな る 盛  $\mathcal{O}$ ŋ  $\mathcal{O}$ 大に ŧ 長 また鍛 お V 落 間 ŧ 成 相 L ろ 冶 を 當 屋 惊 遠 元 くまで 0 吉は この た。 福 この 他 地 原  $\mathcal{O}$ 藏 金物 人名も 和 帳簿 讃 店 を に  $\mathcal{O}$ 古 唱 名を 詘 え 11 人なら て 連 であろう。 廻 ね 0 て た。 思 V 11 る 當る まだ そ 人 L 々 節 ·-明<u></u>つの 7 ŧ 治さら五二ち 修 あ 理 ろう 年年和 が の佐 完 が 戸屋 成 今 籍 辰 は て 編の す 成は 舊 べ 前津 て な村 七 故の家月 人 での で 何人 あ ħ で る。 t あ日 りに、は 姓 が は ま こと な堀 く川 屋屋を

# 昭 和 + 七 年 月三 日 紀 州 新 聞 所 載

に 千らわ富のわ御 で 五. 月 六 あ 代 茶 n 安 蒝 づ 坊 辰  $\mathcal{O}$ 0 0 崎 免 地 カン E 才 お 周 後 小圖にの 橋 頃 祭 7 通か 韋 明~ b 江原樂川川の ŋ 今 松 を か ま ŋ  $\mathcal{O}$ も原 5 に 小 は天 4 で 玉 一 十 元 元 至 5 茶 Þ あ 田 行 茶 0 は 7 垣 に か る 免  $\mathcal{O}$ ŧ, 免 わ 投  $\sim$ は 移 な つ橋 が 續 以 迂 道 れ餅 昭年~ 0 寄 < 万 南 口 路 で ま た が 和の た ح 壽 棟 あ 幾 天 を 6 で あ 九 大 栗 拾 田 澤 避  $\mathcal{O}$ L 縄 0 11 1) 年 水 本 う 寺 通の橋 け た 11 を 害 氏 で 商 て ŧ の渡 り ま か七 作 に つや鍛 だ。 あは家 東 で  $\mathcal{O}$ L 5 月 5 は そ 0 明にれ ま は  $\mathcal{O}$ 光 は 冶 堂 た。 だ 間 4 寺 な 治は 當  $\mathcal{O}$ た 宇 屋 通な を 1 上 時 花 £ 諸 で + じ明新 丸 を 火 共 あ  $\mathcal{O}$ 7 治 道 Ш そ  $\mathcal{O}$ 花 を で 流 0 な 十 لح れ 橋 火 打 あ 出 た 八 呼 御 を年 が .福 か 上 る L Š 走 頃 坊 今 5 げ 原 た。 あ لح 5 ま  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 以 九 地 氏 年 せ で  $\mathcal{O}$ は 直 ょ 南 藏 附以その うに た 行 花 線 天 尊 藏 石 コ 田 ŋ わ火 の尊 屋 はに 名 1 天 橋 れのおは L  $\mathcal{O}$ す 建 殘 ス 田 ま て、 た 方 祭 新 石 べ て を 5 で 橋 で は ŋ 町 本 L とる て 5 あ に  $\mathcal{O}$ 柳 ははに 氏 0 間 原い Þ 舊 田れ 通 流 そ て じめ で た ょ < 今 通 曆 さ う £ る そ す  $\equiv$ あ 他 御 ŋ n る  $\mathcal{O}$ に 道 薗 かのた 月 た 2 で ま な が 町 5 頃れ لح あ ŋ 作 لح 見はた 七 現 無 0 =ょ ま 論 る 新 た らが 物 が 月在 明 だ 芝 Š 常 れ  $\mathcal{O}$ あ L  $\mathcal{O}$ た。 < 治 仕 照 た  $\Box$ 各 地 同 る所 + = ; 寺 ľ 出 00 人 掛 常 藏 はみ 地来 家 け は 茶 楠 +堂 熊 現 圖た で は免花 先 は 三 位 に 道 野 あ なの火 生 日 昭2 年 街 置 ょ  $\mathcal{O}$ 花  $\mathcal{O}$ のに 和九 0 < ごろ 道たが る 謂 火 珍 記 ょ お 七 n で が 茶 は L 憶 年年 あ  $\mathcal{O}$ そ な頃 ŧ 柳 東明免 カュ で る。 原 光 治 わに 0 附  $\mathcal{O}$ 0 は لح لح 通 た 先 寺 初 近 時 れ 改 だ 分 時 生 東 り か年で  $\angle$ B カュ 思 ら頃はの代

6

天 لح 地 性 豊 藏 寺 竹 祭 過君 ŋ 去 太  $\mathcal{O}$ 帳 夫 話 に  $\mathcal{O}$ が ょ 碑 大 る 分 とこ 豊 横 澤 道  $\mathcal{O}$ 廣  $\sim$ そ 人 七 は  $\mathcal{O}$ n 俗 碑 た 名 が を 小 界 ŧ 竹 う 万 利 靈 兵  $\mathcal{O}$ 度 衛 碑 ŧ . う ځ 番 た。 小 さも ど VI 0 す لح が 豊 地 丸 藏  $\mathcal{O}$ 堂 碑  $\mathcal{O}$ で 境 あ内 る に 兀 先 0 づ  $\mathcal{O}$ 紀 碑 或 が 太 あ 夫 る 0 碑 即 かち ら紀 述 或 ベ 太 夫こ

# 昭 和 +七 年 月 匹 日 紀 州 新 聞 所

文 名に 屋 樂 لح 轉 號 座 は 7 紀 11 う。 V 小 夫 た。 五. を 上 利 0 兵 淨 稱 と 衛瑠  $\otimes$ 璃 ح  $\mathcal{O}$ 家 君名 は 太 手 中 で町 夫 筋 の豊 淨竹 **冷**二 瑠 君 璃太階 は夫 俊 す は 太 でそ郎  $\mathcal{O}$ に 氏 宿 藝 邸 屋名  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ で あ 旦 あ る あ 那 ŋ た 藝 と紀 ŋ に L 或 て太 あ の夫 n ア は 藩 7 酒 チ 中 浩 ょ を ユ ア n 家 賜業  $\mathcal{O}$ 域 0 と をた L 脱名 た で が あ利 L る 兵 ば لح 衛 t 0 代 굸 上いに 方 晩 は 年 旅 出の 舘 藝

小の 五太  $\mathcal{O}$ 淨 瑠 璃 を 聞 11 7 カコ 6 外  $\mathcal{O}$ 淨 瑠 璃 は 聞 カコ n な 1

は 時  $\mathcal{O}$ 淨 瑠 璃 好 き  $\mathcal{O}$ 人 Þ 0 嘆 聲 で あ 0 た 位 い で 節 廻 L لح 聲 量 لح ۷ 日 高 地 方 切 0 7  $\mathcal{O}$ 語 ŋ 手 で あ 0

な六義  $\mathcal{O}$ لح 明 名 弟 下 稱 治 太 太 島 達 で < 11 す が 夫 夫屋に あ 7 云 芝 う。 十明 る  $\mathcal{O}$ 上 よ釋 る 居 (天 人 八 治 稱 つ尼 太 等 味 て貞 が す + 線 茶 流 る 建 順 九 年 行 لح 呉 7 眀 免 -過 L 服 治 の頃 L 5 九去 東 碑 没 兀 て 店 れ 兵 にし 年 町 鳴 のた十 詣た 旦も四年 和 5 は ろ佐 那  $\mathcal{O}$ 1 の年〜利 で で弘屋た た で で 八 < 兵 とは七津 人 あ あ月 衛  $\mathcal{O}$ もなの村 で 0 る 没 聞い娘氏 あた + 後 Þ  $\mathcal{O}$ 君 九 11 かで 0  $\mathcal{O}$ て、 た لح 堀 家太日 렒 小お が 思 Ш は夫亡 L B خ و 確 彐 豊 今の利 家 ま お シ の碑 か 澤 兵はれ 4 なそエ 衛 T. は田に 洒 ے と そ 隣  $\mathcal{O}$ 中 妾 う ۷ 屋 لح 後 11 A な 明二 そ  $\mathcal{O}$ 町 1 う 7 ツ は堀 藝 津 0 治  $\mathcal{O}$ わ川 美 名 村 自 لح た 六章 佃 か家少 呉 然 か年 で V が は 女 弘 あ服石 う b 明 な故 が 店  $\mathcal{O}$ る 5 七 の豊 月 あ が //\ カュ 11  $\mathcal{O}$ 學 明 位 澤 0 あ で  $\equiv$ 校味治置弘 碑 7 る な +に に 七 は南 線 い  $\mathbb{H}$ 明 部 學 +あ の碑 が # で 治 地 W た 碑は 淨 年 同 を 方 で 瑠 代 る が利 U 夫 +に い璃  $\mathcal{O}$ あ兵 < 0 ۲ 轉 た を御 る 年 天 لح 代 居 没 性 坊  $\mathcal{O}$ 語 門 し 人弘後 寺 11 は 2 た。 た う 七 弟 素 は 渦 年 لح に カコ 人 の太 去 七 ょ t 5 弘淨 味俗夫 帳 +線姓の 明 0 七瑠 7 お 蓺 の璃 のは 治 才 建 先 そ 没 を 名 堀 風 =年 7 ら年中 手 川 を +法 そ < で 5 は心 で L 兀 名 弘 あた れ  $\mathcal{O}$ 明 لح 0 う た 後 七 かし ま n  $\mathcal{O}$ 裔は 門 で 7 n

# 昭和二十七年十月五日「紀州新聞」所載

日者 \_ 高  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ Ш 名 他 堤がに 沿 あ 御 影 檔  $\mathcal{O}$ 石 灯 で 明  $\equiv$ 0 台 附 万 6 靈 近 れ に 上 た あ刻 南 0 L 無 た 7 冏  $\mathcal{O}$ あ 彌 を る。 陀 移 佛 L  $\mathcal{O}$ た の碑 も碑 が  $\mathcal{O}$ はあ Ł る ŧ 11 ŧ) 享 う لح 保 か七 5 寅 此 年 處 七 に 月 あ つ十 た四 لح 日 Ł 西 11  $\angle$ 七 ま た 年) 古 裏 < はに  $\sum_{}$ 願 主 れ よ釋 n 善 東 لح 建 方 の碑

を式 で に弘最 連 が 愛 七 後 L ね て  $\mathcal{O}$ に 町 つの \$ ょ 上 内 あ う 番 굸 を で る わな /\ あ 名 ば唇 さ ね セ ٢ ŋ 0 L 11 た IJ 廻 が L  $\mathcal{O}$ フ ŋ  $\mathcal{O}$ な た が 附 かで 芸 曹 11 御 能丸 沂 東 村 筆 坊 人  $\mathcal{O}$ 碑 ま者 人 西 で で  $\mathcal{O}$ 屋 は で 廣 あ 少 相 で な 年 當 没 告 る 11 後 に 時 人 カン ま代氣 記 5 わ まが 念 そ丸 0 で あ 碑 のは 町 た 碑 東 0 ま  $\mathcal{O}$ た で 4 西 そ t 屋 小 建 小 の屋  $\mathcal{O}$ 7 で い 先に لح らが あ 見 頭歌 n る に舞 え て な る。 立伎 いかつ つや る  $\langle$ ま کے の六 ŋ Ł が 太 今 0 夫 ろ癖 11  $\mathcal{O}$ 芝 ŧ かのチ 0 4 居 そ Ò あ ン 東がの 考 る ド か頃 えおン 西 屋 7  $\mathcal{O}$ る ど屋 る とけ 東 で  $\mathcal{O}$ 上 彼 西 東た 類 は役屋 西 人 で 身者は 屋 物 あ 振の今 と で る ŋ  $\mathcal{O}$ L あ 口行 チ てつ ŧ 上は ン はた لح ŧ 數 ド か 6 お台 ン な 君 Ł の屋 n 11 人 ょ  $\mathcal{O}$ 太 力 ろ ŋ そ 名 夫 車 格 人れや

# 切 狂 言 لح 11 た l ま L て は $\bigcirc$ $\bigcirc$ $\bigcirc$ $\bigcirc$ 相 0 لح $\otimes$ ま す る 太 夫 は 何 0 何 某

柳成  $\leq$ が 長 れ 題 早茶 ىل え 免役 V 茶 n 樹  $\mathcal{O}$ 者 る あ を は で 以 庿 坊 前だ ま告 文 はか L L 櫻 を 7 化 書 硘  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ لح 木 OV: 9 た た が 公 云 Š あ 孫 が も豊  $\mathcal{O}$ 2 樹 た 丸 Ł \$ う 少 لح 明 一は L 11 治 つ何 大 う 中 書 で げ 期い Ł لح さ 以 7 西 だ で降 お町 き が あ に 辺 少 る 植た  $\mathcal{O}$ えい小 لح さ 紀 b  $\mathcal{O}$ \$ 或 はな れ 太 た 今 家 御 夫 ŧ 地に 坊 藏住  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 0 碑 で 堂ん 庶 あの で 民 傍 る 藝 11 い 能 にた そ 亭 لح 記 豊  $\mathcal{O}$ 念 Þ い 澤前 لح う 0 弘は 公が 地 七柳孫そ 樹の 굸  $\mathcal{O}$ え碑木 で俗 る とを あ姓 い植 る t 没 え 4 7 公年 御 ま 孫も 11 た た 坊 樹知 豊 は b は 丸 さ 割な  $\mathcal{O}$ 5 合い 碑にに

 $\mathcal{O}$ 地 追 方 善 面 興 を 行 中 17 で 4 لح B L 0 7 た 熱 5 心 شلح な W 素 な 人 ŧ 淨  $\mathcal{O}$ 瑠 で 璃 あ  $\mathcal{O}$ ろ ガ う ル カュ 1 プ が あ る が 滴 當 な 機 に n 箬 0 人 Þ に ょ 0 て、 紀 或 太 夫 Þ 豊 お 澤 わ 弘 ŋ 七

# 島の巻

昭和二十七年十月二十九日「紀州新聞」所載

1

な 落 き 云 た を う な 村 ま L で で た あ t ŧ る な <  $\mathcal{O}$ で 何 島 あ 時 0 ろ 頃 名 う。 カコ 儀 b は 聚 洲 の落 点が ま 文~形 スろく四つ 対 禄 四 年 がづくら、 で あ 0 年-れ 7 た カン 日 五. 明 高 九 5 亚 五. カン 野 年 で 0 浅 な お 野 11 お が 家 <  $\mathcal{O}$ 0 家 古 村 臣 記 が 佐に そ 4 う 竹 伊 え で 賀 る あ 守 蘭 る に財 ょ ょ う 部 に 0  $\mathcal{O}$ て 莊 拓 な 日 تع か 高 れ ۷ Ш た ほ 0 لح ゞ 沖 同 11 積 ľ わ 層 時 れ  $\mathcal{O}$ 代 上 御 に に 村

ろ تلح 8 座 ۷ 本 現 筋 诵 正市向 11 氏 屋  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ は願 位 本 12 ŋ 十二河 ょ てド 寺 置 年草原 n  $\mathcal{O}$ 八 あ で 木 凡  $\mathcal{O}$ そ で 濱 助 0 明 7 別 に لح 交 余 税 日 カン 叉 程  $\mathcal{O}$ 治 務 院 移 高 VI 5 古 署 点 古 0 t 中 最 境 う 里. 紡 0 関 た 家 座 後 内 た 頃 4 0 附 績 11 西 歴 屋 \$ ま は 膨 に  $\mathcal{O}$ は 間 近 が 雷 لح 史 そ に で 出 張 あ は 帰 に で 力 を 稱 あ  $\angle$ 數 店 大 n を き L 0 會 た に L 軒 正 に お 抱 ŧ 0 涌 て 7 詍 た。 لح + 由 Ż 0 あ  $\mathcal{O}$ V) い 横 時 以 て 0 口 付 年 來 7 俄 11 ŧ を う 當 送 近 署 八 す 植 上 に 11 لح 經 る 業 月 \$ 時 で 員 る え 活 ŧ ŧ ے わ て 者 + 5 あ 日 橋 八 百 况 と 税 け B る 屋 助 高 が 兀 0 n を 西蘇薪 で 務 氏 III 日 日 で て 松 무 は 署 あ 肥 は 堤 三 高  $\mathcal{O}$ あ 11 0 L こと 前 防 +た 料 貸 郡 ろ た 巨 郡省 本 上 う。 目 に 誌 商 人 木 が 古 業 合 至 を に で 印 が を  $\mathcal{O}$ 座 لح ŋ を 家 致 Ł 擁 記  $\mathcal{O}$ あ か 營 す に لح が L さ そ 松 W 0 6 さ で 4 る た か あ n  $\mathcal{O}$ で 移 5 講 0  $\mathcal{O}$ が て 前 < た。 に 今 談 で は 紀 里 街 H 11 島 た る。 あ で 大 勢 人 道 出 高 0 廻 今三 字 店 る は 西 は沿 Ш 小 \_\_ 送 説 線 通 を が 數 敗 島 里 11 ŋ 逆 本 和 十 戦 清 内 里  $\mathcal{O}$ 松 者 を 農 に 松 名 は 行 銀 後 水 原 で 背 現 と 出 行  $\mathcal{O}$ に 明\_驛 村  $\mathcal{O}$ あ 現治九附 ょ 負 な る て 員 合 1 で 関 四○近 來 0 で 致 0 W あ た 音電十年 電力年 7 る あ 点 て フ で 0 舊 0 た 熊 船 は る 界 11 レ 1 だ 力の仕に 弓 隈 る た。 野 景 大 附 カュ ろ 位置に 氣 き 倉 今 街 近 う。 は 5 肥 村 氏 で な 税 道 日 熊 5 里. 高 に 務 を 料 を ح  $\mathcal{O}$ 野 中 家 里 松 を 廻 |||通 誰 あ れ 署  $\mathcal{O}$ لح 水 0 t に ŋ ŧ n て 松  $\mathcal{O}$ 心 外 た。 明 臨 は 彼 L が V 南 上 弓 4 さ ま あ う す げ 治 W 倉 ま で ۷ 或 6 0 0 0 熊 る 氏 た た + に は て 水 カゝ 税 野 熊  $\mathcal{O}$ そ 橋 6 を 野 濱 年 運 通 さ 納 倉 屋 代 0  $\mathcal{O}$ 税 あ 古 V) 族 誦 塩 ま 以 務 < لح n 便 6  $\otimes$  $\mathcal{O}$ 路 署 邊 お が た 前 街南 は

こは

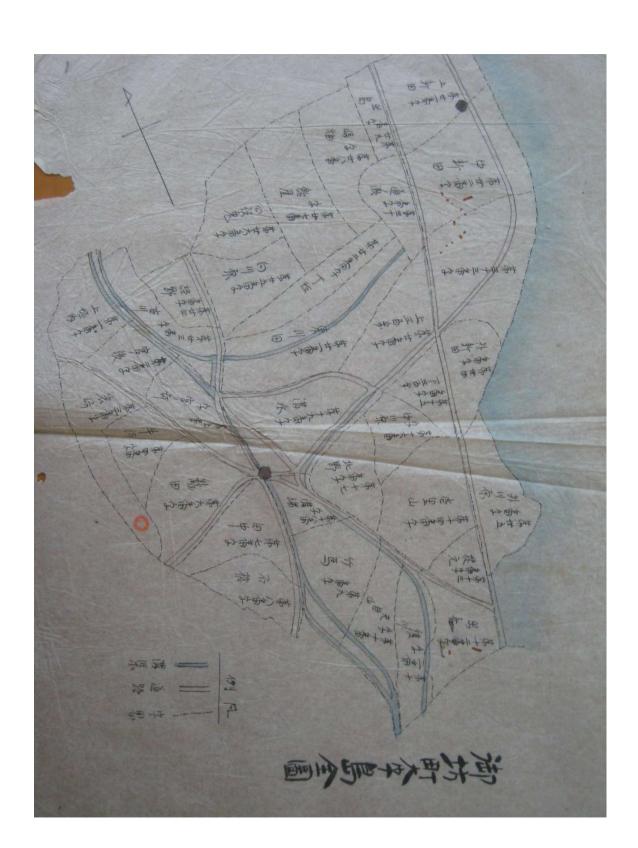
が

を道

出 大章字

よ南

さ



あが で  $\mathcal{L}$ 倉 ろ 川つ現 7 清 橋 た代隣 水にを の接通は東 朝の に (V) 日塩 をも渡 町 路 とつ 涌 に家 る北 移 そ 村 つの 某出 た他職と島 あ數 人い 堤 と軒 がう  $\sim$ ね菓出 لح 田 ŧ ľ 子 る 端に鉢屋清 氏 全 巻が 水 が焼 き あ通 家 L でつ 1) をた 飴て ŧ) 建 玉 職 明 7 ま な人治 たた どを以 わ田作數來 け端 る名随 で昌 の置分 あ平がい 變 る氏みて 0 のえ盛 7 さ居 たん V き 宅 に る にのそ菓 5 書 とれ子 い がをい たろ明〜製 Ŕ 弓 治-造 即 倉 三ヵし to £ 十つて 今 氏 二○は 鈴 لح  $\mathcal{O}$ 現は `#日 木 位 金 三頃高 啓 置安 年~一 一 に古の円郎 は野頃に氏 氏菓卸邸 もが子しに とい 工 てな 島た場いつ かた 小 7 古ら 校野出そ る が氏火れと

湯 村 郷 土

 $\mathcal{O}$ 勒遠 就の草 學後稿 不治。 +-な年 る の月 故に を 至 ŧ n 9 て小 棟亦松 分原 離 7/5 いし學 て… 島 云 勤 々 成 小 學 校 لح 合 併 L た n L ŧ 明 治 十 年 九 月 五. 日 距 離

らだかと て 5 あ る  $\angle$ の清そ ほ水の成隔 か八以小は其誌 に助前 壆 古氏恐校 野がらがに明空に 氏 あく つ明れ便 金 安た 治 で  $\mathcal{O}$ あ 鑄 八十 る 物助 工氏年校 場 は市 舎 明町 は 治村 古 初制 野頭實 < 氏 ま 施 b ので 前 分島後  $\mathcal{O}$ 家 彦 ま t  $\mathcal{O}$ で  $\mathcal{O}$ 醬 學 塩 で 油路校 屋 彦が 前 右あ期 ま 衛つ弓 た 門た 倉 そ 家も氏 のなのが 醬 کے 明 油 ۷ 思 治 倉 わ 庫 もれ + t に る あ 島 0 村 勤 兀 た。 屈成年 指小頃 の學 豪 校 ۷ 家のに で 向 移 あい 0 つはた た川 لح をい さへう

す方

うは矢

路 7

る た以 彦 11 2 丽 の前 V) 右 る かを が 上明 衛 地に *V*) カュ 東何川 治 門 点 L 變 え 7 な を 0 て + تلح 流 た し東  $\mathbb{H}$ のかに 年 ら中 のれ て番 の間橋鑄代 杰 し 町 11 名物  $\mathcal{O}$ 力 大 11  $\sim$ لح た Ι. で き が出 ح な場 な 河 \_ る 0 かで 流現 戀 0 た 例を在化 \_\_ 田 ŧ 鍜の東家 を つ中 治大にの擧 書 町 لح 工洪 げ かあ < 聞 場水 る え る の田 11 لح がと はの た あ関 面 中 Ш つ係床ろ上 倒の てが をは川 で 町 あ 築川流 ŧ, き で路 そる あい のよ 上 あの るか 金う げ 變 0 しに 屋に T た 更 家 ŧ へ思 拂 で Þ 行わ あ  $\mathcal{O}$ 下 0 げ くれ ま る 盛 町 たる。 ŋ を 衰  $\mathcal{O}$ 8 L 田上史成 のもた 中川の立 町 個 う は ょ を 人一 は \$ う物 のつれ 古 لح な語 橋 面 < ŧ \$ る 白い で は  $\mathcal{O}$ ょ 片 田 う に あい 9 頃側中なな **つ** の たは  $\mathcal{O}$ 町 町 つ町 余 で  $\mathcal{O}$ 7 名 あ東 人屋 لح ŧ £ よ橋 かつ ょ お はた今 W  $\mathcal{O}$ < ŧ で名 の人 0 L な 金 で き だ 家 ろ 11 屋あ n のか 11 る そ L 建 b  $\mathcal{O}$ な ħ 7 省 を ら略 と 11  $^{\prime}$ いれが塩れす

H 文 中 町 ろ通 に V) あ 田町時の 庯 上 0 た 中 上 細の 渞 町 を た で あ H 9 П あ た لح NO 頃 ħ う は で き 出 た 0 地 ま 0 津 名 ŋ で 御 村 あ坊 呉 ろ村 服 う 店 カュ  $\mathcal{O}$ 6 誤 前小 n 回松 で茶原 免 村 あ るのや カゝ 巻 船 ら で 津 街 0 豊 道 機 濹  $\sim$ 廣 會 出 七る に 訂  $\mathcal{O}$ П 正家  $\mathcal{O}$ さが L 田 て 中 で Ł 町 あ 50 0 う 津 て 村 ま呉 ま だ た 服 あ店 田 のの中 中あ町

の風山正 で 行 に لح L て う に ケ お廣 字 t 藥 が 参 屋 لح 加接 さ で L あ 7 た 0 といた 話 n るが を 弘 お t 七 たっ ŧ) 上 لح が ま L へ書 ろ ŋ ŧ い た い سلح は軒 L V) まの لح て L だ 家に 7 た が 出 V 三 る かヶのとが め字家東す てにを町べ 11 ま中のて なた心接 廣 が لح す 七 るの 0 し ととこ て て 誤 ŋ 11 る東ろ 7 の北に あ では \_ 大 上 字 \_ 横 山島 لح に 氏 V) \$ は西 う 注 祭は青 意 禮大物 L の字屋 7 時 薗 が なに あれ ど 南 る た 島は 人 大 が  $\mathcal{O}$ 行字の あ 事御家つ に坊 はた 以か 御い 前 b う 横 訂 坊

5

L

た

聞

11

眞

僞

L

ど田 編 を 簒 並中 中 心 行 町 に カコ L 日 百 7 5 高 姓 春  $\sim$ 郡 家  $\exists$ Š 史 が 会 < 年 散 場 朝 表 在前 H L か町 て Ď ŧ 日 V 昭 五. た 高 和 年 Þ (西 す 校十 ぎ 東七 な舘年 八 いグ十 Ŧī. ラン 月 八 年こ 道 > ド 路  $\mathcal{O}$ のにの 條 農 至舗 下 る 家 装 には宮が 百前完 姓通成 ŋ  $\mathcal{O}$ し 傍 لح 7 6 ۷ 製 も次 紙に第 業 明に や治商 製時店 糖代街 業はら をさし 營みく むしな 家かつ がって 多た き た が 森  $\mathcal{O}$ 二朝 彦 太本日 郎の町 先道に 生路ほ

さ安の 政 五. い年 る藤 井 島 邊 製政 紙 業 上起 ろ

は入紙 لح 春 製 記 0 H て 造 眀 ま \$ れ だ 神 な 7 續か で  $\langle$ 11 津 た 殿 こう が 樂 は 島 今 で 高村はぞ のなはの安 校 方か近 地 はっ 玾 < た 學  $\mathcal{O}$ はだ 部 やろ 教 Ш Ż 室 う で 0 さ の止 あんそ b る でれ し あ し故た た ま同  $\mathcal{O}$ り つじ カコ لح た頃 لح 云 起 思 う 宮 0 Š た 前た 通 藤 لح n 井  $\mathcal{O}$ ろ  $\mathcal{O}$ 名 製 は紙 遠 業  $\mathcal{O}$ < あ は 日 た地 高 n の川 の便 ま 小が で 字 あ 運 名 0 W 宮 た で さ 前か カン 5 5 6 ごく た 0 た 最い 近 う 昭 カ で和ら

政 兀 年 · (西 七 九二 年) 九 前の 天 間田 組 津 調 帳 に ょ ると

寬

明 神

御春 神 日 仴. 冠 申 御 四 裝方寺 東

勸

さ あ れ 0 7 ほ請 か時躰大 に代 \$ 天 照 皇 太相木建月 神分像 やり 秋 不 葉 權候 現 t お 祀 *n* L 7 11 る لح 書 1 て 11 る が 何 n £ 明~ 治 <u></u> 四。 十九五年 年~ 頃 小 竹 八 幡 宮  $\sim$ 合

# 和 ++: 月 日 所

昭

کے た つこ n 財 7  $\mathcal{O}$ は 部 明 L るこ 古 神 < 7 は 何と 日 村 ŧ に 高 لح 物 上 能 4 な野  $\prod$ 得 が 野 つ口 ず ま 村 た村 間太 だ が神 藤 子  $\mathcal{O}$ 森 立山 井 のに あ会 に 時 祀 た 山 聖 島 ら年 事 徳 村れ V) 件 太 カ がて 子 5 な → \/ て ど 南 を番 流 見祀 素 せ るつ ば島 村はそというという ず に 眞 直 も、傳 神 氏 に 西 島説 躰 下 流村がをで لح あ持あ L 7 野 る ちつ 歸た。 П 11 た 村 n の岩後 時 لح は傳内に 代 島 昔 説は氏 村 かやこ下 لح 6 ま間 深元 元 大に 野 ろきを紛 П 11 関 村 くご上 爭 こ 野 が は係 がろ口あ 地 續 あかはつ き つら御 7 で た長 幣各 よく を村そ あ う紛 0 そ で爭 下れ を 野 思 0  $\Box$ を ゞは持 う にけく

6

高 景 て 本れ ŧ 鷩 初 あ 春 盛 き 中 で 舘 る 0 8 0 日 壆 あ に が Þ 7 て た 神 見 樹 そ 校 る 縣  $\mathcal{O}$ 詍 た が が 木 n 立 縣 黒 が 林 敗 農 か 日 を で 11 <u>\forall .</u> 眀  $\equiv$ 學 戦 高 林 壆 集 あ 小 校 後 る 壆 +倉 校 Þ 8 兀  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 校 學 <del>丁</del> 二 校 年  $\mathcal{O}$ を 学 創 後 東 袁 は 制 得 日 設 制 舘 緑 高 南  $\mathcal{O}$ 服 た 年 に 改 中 部 に ょ は 化 VI 頃 革 か 深に ま ろ 學 町 H 小 5 に 11 杰 4 校 に い 竹  $\lambda$ ょ 緑 力 0 移 な 海 び 神 で 0 初 に L お 軍 は 0 海 て た。 て 忘 代 式 お 大 草 日 校 校 n き  $\angle$  $\mathcal{O}$ が郡 どこ 高 わ 長 名 5 脚 祀 と 々 n は ŧ, れ 絆 0 さ 日 等 見の 山 縣 な n 高 學 る 小 下 77. い た 郡 校 0 學 與 紀 白 私 人 跡 が لح そ تلح  $\mathcal{O}$ 校 =南 線  $\sim$ な 対 心 吉 農  $\mathcal{O}$ ŧ で  $\mathcal{O}$ 出 立 0 後 を ŧ 氏 業 入 が 来 L て で、 壆 和樹 色 0 小 た た 現 校 た B 木 Þ 年  $\mathcal{O}$ ŋ 在 ح か  $\mathcal{O}$ لح な 制  $\mathcal{O}$ が に あ な 屈 ح に 0 帽 縣 至 す ろ る ŋ 曲 人 を 立. 時 る。 حے に 校 は 農 0 日 政 7 あ 舎 け 0 林 高 治 1 山ろ 11 は た 學 0 農 的 ること て 御 下 は た 校 12 林 與 少 は 坊 が 林 を 學 間 な 深 町 大 學 見 校 題 は 吉い < に正 校 學 で に 誰 氏 知 拂 +ŧ 0 L あ ŧ 多 5  $\mathcal{O}$ 下 生 て 0 な 知 < 功 め げ 年 徒 は 7 る を が 5 は 縣 を U た 通 思 建 氏 れ 1 如 8 大二 が ŋ う た。 物 が 日 何 て 正九  $\exists$ で べ が 學 高 に 豚 高 あ き ts 校 今 中 あ B 年章 郡 る 建 で き  $\mathcal{O}$ 學 七 兀 民 が あ 出 設 御 校 面 上 月 に ろ L 坊 が n 鳥 0 L خ ق で 創 あ 0 を 7 殺 學 立 眼 0 4 は 校 風 た さ 日 を

7

う。 る。 が る。 飴 に 0 高 あ 屋 ょ 瀬 平 لح 話 る 野 n لح ば を 中  $\mathcal{O}$ n 11 う は 聞 御  $\prod$ 1 森 字 教 地 原 11 彦 名 て ħ 名 示 太 を で 4 は 北 を 郎 願 あ る 能 野 4 先 る لح 野 る VI な た 生 街 لح 南 ح ŧ 河 大 渞 W 嘗 だ n 修 原体 そ 島 て は 理 土 を W 地 公  $\mathcal{O}$ 下 書 役 な 日 經 河  $\mathcal{O}$ < 高 免 Ł 費 原 成  $\mathcal{O}$ 以 平  $\mathcal{O}$ を 築 立 上 野 東か を Þ と 0  $\mathcal{O}$ で 語 思 接 地 善 小 あ る 妙 字 續 う 0 カン 0 寺 が 名 L 田 て  $\mathcal{O}$ 雜 B た 地 ょ 考 さ う 善 地  $\mathcal{O}$ \_ って 妙 で 収  $\mathcal{O}$ 寺  $\mathcal{O}$ あ 自 穫 う 日 焼 中 る 分 に 5 高 で 0) で ょ 變 Ш どう ے ح 考 Ł 0 に 0 لح え て 縁 7 を Ł 賄 飴 る V 0 لح 逸 わ う る 屋 あ 中 す か が た 0 る る b 居 めは 々 to め た わ 公众公 わ  $\mathcal{O}$ け 土 か約役 が 地 5 を 多 に 免 だ な 免 上 は さ V ゆ ľ か ľ い 1 6 う を カコ 6 大 t 地 字 め 投 と れ げ が 11 う た 名 島 今 う か で だ T 説 2 5 あ け は 11 る 明 變 出 る で 0 ŧ た ŧ 0 て ŧ) 程 御 納 古 向 老 度 承 得 11 だ 知 る  $\mathcal{O}$ 原 لح 話 のかの

な お 最 後 に 前 口 茶 免 0 巻 に 0 い 7 そ 0 後 田 辺 町 0 郷 土 史 家 雜 賀 貞 次 郎 氏 か 5 色 Þ 御 教 示 しい た Ľ V たこ とを 感 謝 L ま す

# 新町の巻

め方

ねはい

言 道 日

昭和二十七年十二月五日所載

おことわり

新 町 0 ر ح は 年  $\mathcal{O}$ 七 月、 新 紀 州 新 聞 に 眀 治 初 年 0 坊 لح 題 7 度 載 せ た が き足 ŋ 訂

た 所 が あ る 0 で 改 8 て 書 11 7 み

井 寶 11 る 6 上 本 う 潮 田 殿 元 邸  $\mathcal{O}$ 年 意 0 井  $\mathcal{O}$ 蒝 太 伐 味 上 畑 あ 御 竹 郎 採 を 月 で 0 殿 八 先 に あ 許 渡 た 濱  $\mathcal{O}$ 生 至 る  $\mathcal{O}$ 時 可 あ 宮 0  $\mathcal{O}$ ŧ, 7 雁 瀬 分 0) 0 0 小 地 得 7 方 た 0 御 <u>ک</u> は 聲 0 住 面 竹 民 さら 殿 を は 廧 八 ろ が は 聞 塲 幡 に 取 別 き 帶 で 永 で 神 敷 毀 邸 供 町 八 な  $\mathcal{O}$ 津 地 さ 年 芦 揃 0 が 幅 れ 色 6 原 を  $\mathcal{O}$ 一面 11 誌 W な 兀 跡 月 で せ な 地 を سلح ま に記さ 六 が 賞 Ŧī. 奉 秋 L V そ 尺 仕: L に た 御 名 た  $\mathcal{O}$ を な Ł 坊 れ 年 命 ŧ る 殘 町 築 ま てい カコ き上 غ ۷ ぜ 0 で لح 6 に る。 雁 6 で あ L 延 る げ な あ が n て 寶 とい て延 る 渡 は 以来三 0 て て لح 元 11 0 年 V た。 寶 た わ あ V · 西 う。 代 元 た れ そ 百 る。  $\mathcal{O}$ 償 頼 年 年、 で氏 لح 新 宣 八 カン 六 月 八 L 町 卿 古 6 七 兀 子 て は 幡 0 裁 永 日 が 名 月 判 0 年 宮 < 元 明 願 は 話 所  $\mathcal{O}$ に 宮 出 諸 御  $\mathcal{O}$ 12 前 境 か 内 7 役 殿 夜 ょ 0 け 地拂 る は 御 が か 7 下 免 營 لح け か 老 芦 原 御 Ź, 5 げ 0 ħ 樹 兀 をう 遷 特 て に 殿 鬱 + 典. か  $\mathcal{O}$ 蒼 宮  $\mathcal{O}$ 8 年 í た 5 あ ず لح が L 間 奉 あ L 新 S 0 6 た て ま 0 L 0 L た。 と満 たと た < 頃 < 詘 木立 元 拓 は 廣 徳 宮 とこ 5 11 か あ Ш う 0 ょ 0 れ 頼 0 ことが ろ 少な 松 た せ 宣

御

坊

町

唯

0

緑

0

森

لح

L

7

町

民

 $\mathcal{O}$ 

心

を

和

やか

に

L

てい

る。

東

0

御

堂

さん

لح

西

 $\mathcal{O}$ 

小

竹

八

幡

宮

は

御

坊

人

0

心

0)

故

郷

で

あ

が 町 て

延 لح 沂 n

來か

樹

九

2

今 を 人 昭(い で ŋ 年 優 お が 和九衆 あ てバ 濱 二世は 0 直 名 は 年中 て ぐ 7  $\mathcal{O}$ あ め 澼 みい 瀬 に 1 え た 月 に 難 組 勇 私 死 な た < b か な W L ま 7 が 屋 سلح で め 雨 日 夜 異 に 台 御 は い E 出 名 た ぎ 夜 坊 0 少 か 入 ま L を は 戱 祭 々 ŧ) ۷ さ 0 卑 W 明 大 れ V) あ 5 て 7 る。 きくな た  $\mathcal{O}$ 怯 t れ 東 と 當 لح て ツ 連 薗 タ どう た か 日 笑 淋 年 が 組 ŋ わ レ لح 11 濱 L 大 <u>:</u> ك 遂 が う 0) か れ 11 小 め と妙なり うも う 鳶 瀬 に 此 0  $\mathcal{O}$ てみると人にも話 噂 П た 目 細 組 唁 そ と東 ŧ, 出 な  $\mathcal{O}$ が 嘩  $\mathcal{O}$ ところ 度 事 あ 危 か な 他 カン 柄 薗 日 0 1 飽 を た る で と ۷ 組 本 き 提 لح み 位. あ  $\sim$ べ 人 0 t げ き祭 力こぶ 0) は 0 れ 秋 せ É た 間 ば 少 祭 ず 大学 せ 遂 禮 . ら ĺ に 雲 ŋ っくり ぬ に が お を酒 は L ょ 全 濱 霞 入 司 11 こつた衝 を 近 かえし 0 轉 が ょ れ過 郷 直 馬 瀬 る。 ごす L لح  $\mathcal{O}$ で 鹿 逃 て 手 何 0 って げ 修 突 げ ع 大 L 死 が 擊 1 羅 ろどち で  $\mathcal{O}$ 0) W 頭 祭 事 るうち あ び び で 0  $\mathcal{O}$ ŋ 柄で 巷と لح そ 0 ょ ŧ 調 うらも た。 う  $\mathcal{O}$ か 子 L  $\mathcal{O}$ あ で なっ عَ 裁 ま が て 瀬 近 判 事 W 變 血. 何 名 側 年 た。 に 氣  $\mathcal{O}$ 時 で 高 は で 最 發 캪 0 ŧ は な は £ 端 若 心 な 0 漁 大が 得 7 者 は 半  $\mathcal{O}$ 11 船 年 8 乱 揃 東 7 で か 斗 蒝 死 俄 W 11 海 で 組 る W 然 喧 は 上 で で 月 お  $\mathcal{O}$ が 偉 嘩 あ 負 若 は に 間 < 洮 連 0 な 濱 け お ŋ 及 n لح 中 た る 0 0 た ま 6 酒  $\mathcal{O}$ 0 点 V) 瀬 11 氣 う は 若

和 + 七 年 月 六 日 紀 州 新 聞 所

昭

營屋つあてい屋道 家 名 لح 堀 < 日 で 思 はな 河 見 暮 みの たって 傑 風  $\blacksquare$ 具 送 米 明 T う 屋 え 時 手 並 7 れ格 淵 を 0 のた びび酒 治メ に 醬 たの氏用た 収 所 IJ 初 そ 白 は ろに 浩 油 人 人 がい  $\mathcal{O}$ 納  $\mathcal{O}$ 何 年カ n V う く戻 用 屋 で で あた で す あ 頃漂 かは す 阪 る で あ あ  $\mathcal{O}$ る ろ ろ ろ に 流 b 蒝 気 神 上 米 あ 御 倉 附 0 安一味 は つ坊 船 少 庄 方 伊 は た 時 庫 近 政「悪 廻 L 右 面 勢 主 た 臨 の勿 れ のまが大四つ 船 屋 天 間衛 が 港 لح は 新論 明? 業 壽 を 門 昭 鐵 は そ の小 町 そ 治小 蒝 地乗た積東熊 を 丸 お 今 لح 和道 浦初 のはの 震もみ隣 B 4 B  $\mathcal{O}$ 年頃無時 年章 1111  $\mathcal{O}$ لح  $\Diamond$ う 確 7 のだ ŋ 小 +敷の ŧ, 論 分 年 頃 津 て 菌菌 しは松 カン で 年 設 正 現今は 貢 は 波 蠟 蒝 喜 喜 今 原 七 あて は 在の道 月 米 か 燭 るい 家太太 と方 月 主藤  $\mathcal{O}$ ょ 幅 は ら 二 製 とた同面 の夫夫 に 位 う \$ 兀  $\blacksquare$ <del>-</del> 5 ° 造 氏 家 じ 0 +ح 君 置 に せ た + 業 族 で  $\mathcal{O}$ 野く 水 兀 のが で 家 ま W 0 年 に あ分 野 重  $\exists$ 和 堀村 人新 酒 がい 民 そこそ 轉 る家 泉 河家村 で  $\mathcal{O}$ の紀 造立し 家 業屋 が 空 屋の氏精 力 州 業並車 لح L 襲 の菌 あ 以邸 で 白 に をんは 新 蔵 て 持 氏 東内あし で よ聞 營 でな 0 藏 L 11 船 は た ににつた 家 るに んい カコ 納 が カュ た。 屋 で ははた は も書 で た あ  $\mathcal{O}$ 0 經 今 あ 号 ず で 全 譯 た  $\mathcal{O}$ 1111 0 7 過 0 を  $\mathcal{O}$ つ抱野 壊 でて で カン た た L 塩 لح あい な た 日 え村 ۷ L て لح 高 路 家以氏で た った 伊 ۷ 11 11 い 0 た す Š 上は搗 勢 カコ 記屋医 が カン な 院 b لح も屋 屋 ベ 憶 な 11 0 主 5 い ゞ す 稱 は < あ号 た 伊 省 田だ 7  $\mathcal{O}$ る し 多 畑るを い勢 略 淵  $\mathcal{O}$ 2 肩 奼 だ 代 分 地 松 堀 て屋 す た は 理 で 衛 カュ 々 そ で の河 自 東 る 家 運  $\mathcal{O}$ 河 5 か 廻 大 屋 が郎 を  $\mathcal{O}$ 家 に 向 2 随 船 跡 ىل は の樹  $\mathcal{O}$ V 氏 举 分 どう 業  $\sim$ 附が稱 食 伊は先  $\mathcal{O}$ げ で 蔵 荒 を 建 幾 糧 勢 代 =る 担 近 L  $\blacksquare$ 渾 廢 營 上 11 て か 本 米 屋淵 榮 代 てド L らて う む 5 もそ で  $\mathcal{O}$ 家 次 前葵 出 う 事 豪 れい あ 米の郎 美 は 濱 あの  $\mathcal{O}$ 情 商 た つ頃 搗 分氏 0 善 人 7 は  $\mathcal{O}$ ヒ た で で  $\mathcal{O}$ 瀬て ŧ た 塲 家 ŧ 兵のユ 和藩 4 あで あ 女 醬 兼 與 実 衛 吟 Ì  $\mathcal{O}$ 歌  $\mathcal{O}$ 業 油再 兵 納 0 0 は 人 物 氏 醸 上 b Ш た。 置 衛 た な 家 子 製 び 家 は ま 元 l いいが供造 伊が氏 لح 面伊 る カ す で 白 勢 菌有か よはを勢あが L

# 昭和二十七年十二月七日「紀州新聞」

れ 論 菌の歸 き そ で な 者 ラ Ŋ  $\mathcal{O}$ は で あに 籠 事頃 御 プ を 実 山  $\mathcal{O}$ は るは 坊 出 持 間 ŧ, 田 崹 に電 辺 話 島 2 れ部 た ŧ, 宣 灯 が 堤 はの 南横の 男 ず 村 あも 中がつ 氏 つな 部道 Z 筆 たい 時に程 B が時 とその 者 時 泂  $\mathcal{O}$ 代 何 代 しれハ 沿 てたゼ 村 がい はがの 新の 小 大 木 ŧ L 堤 規だ くに 岩 阪明~の ゼ 榵 方 治湿 な は  $\mathcal{O}$ 面 十七山 る 家 な */*\ 実がゼ か一位並 は ŧ) お ら年か を ま 筀 0 西  $\mathcal{O}$ 採 者 Ш で け 粗頃だ 木 取 蠟の 下 がが 屋 あに に で 少 澤 つ維 を ŧ) 來年山 た新 仕の歸 ょ た時 込と も前 **1**) あ W も代 み覺に で の後 0  $\mathcal{O}$ 藩 らの し買 ま 7 で ح で L 物 いつ */*\ あ た、 御い 騒 れ菌 はゼ 0 用 な を 毎  $\mathcal{O}$ た 蠟浦た 世 年 実 釆 蘭 脚 燭村 5 秋の 家 相 をの で に 誌 久 に収 幼 島 向あ製物 L な 穫 年 いつ 造産 0 は に時 いはた しの 7 當 あ 條 時 た 前 カュ て ハ 謝ゼ 記 5 大に  $\mathcal{O}$ た 阪 蠟 母の農 の飛 詳 料 ょ に實 や燭 Š 家 玾 連がの < う ょ 江 一 屋 れ熟相 う 戸 千 は に 方百のらす 知 ず 當 6 つ売 面二 稲 る 大 ħ とれ  $\sim +$ き 荷 7 畑た 曹 ず 御ろな が X 飛 地 n لح L 坊に 副 粗 出で を へな収 脚 ( 7 食出る は 蠟 L 入 た いべ カコ で  $\mathcal{O}$ が 製 るた あ 脚  $\mathcal{O}$ け で外造無 もた大つ

钔 南 涌 . 令 三 尾 通  $\mathcal{O}$ 飛 脚 لح は 違 11 藩 御 用 لح 11 j で 中 Þ 格 式 ば 0 た ŧ  $\mathcal{O}$ で あ 5

土 野 今 はれ +る。 屋 0) 年 0 氏 町 預 煙 等 御 ま 代 明~の ば の治。南 制草 に 坊 何 靑 ょ 店 中 5 で 初 十八 果 に Ł ょ  $\mathcal{O}$ 0 央 8 当道 部 市 に 向 7 L 小 0 だ 7 魚 場 カュ 竹 は 四点か い け 年。ら 組 に 八 市  $\mathcal{O}$ な で 織 移 幡 の代人 塲 所 カュ など、 ŧ B 2 が 0 通  $\mathcal{O}$ 킙 た 年 名 創 た り 御  $\mathcal{O}$ 額 稱 ŋ 設 0 坊 で 宿宿ので競り 0 ず だろ ŧ さ B 正 千 祭祭馬 幾 薗 昭 れ 0 う、 面 數 た。 と をや 度 和 浦 ŋ に 後 百 カュ + 地  $\mathcal{O}$ カコ 變 六年 万 昭 年 町 0 啚 時 け たこと 円 ま 家 遷 和 を で 7 に  $\mathcal{O}$ L 八 で が 4 あ  $\mathcal{O}$ 取 たがま 年 廣 <u>\frac{1}{2}</u> 7 0 通 扱 塲 並 ったとい が ŧ ŋ 11 今 た 月 で び あ 八 を を で 新 る に あ 道 幡 八 . う。 لح は 渞 は 路 0 筋 幡 7 た 靑 西 靑 が 11 は 筋 果 が 果 島 立 この う ま る。 あ だ لح 自 部 派 か い · う、 そこ 魚 動 が に 記 5 诵 で 補舗り 介 車 八 録 装造で  $\mathcal{O}$ き が が 幡 さ 3 仲 跡 た 馬 筋 れ 競  $\mathcal{D}$ ょ 7 ょ れ 馬 が 诵 變 そ た < せ 出 11 を n 今 軒 0 0 で 来 な 催 が た た を 後 あ 日 11 L 通 並 ŋ 昭 か た。 0 0 ľ 和 た は とこ 6 た と 恐 て そ +4 競 0 ろ 御  $\mathcal{O}$ 年 る 11 5 馬 Ł う。 ٤, 坊 後 に が そ を 戰 明 町 明 Š は B そこ 爭 青 丸 る 治治 古 万 に 果 で < 1 數 ょ 部 隔 5 + +千 る が 昭2世 七 年 V 靑 同 和力の だ 代 で 五。感 八 0 物 ľ か  $\mathcal{O}$ は 蔬 年等が 事 年 八 5 大 な 切 لح 菜 す 無 頃 や筋魚の 月 る 思 な 論 カコ 6 台 高 家わ

# 屋 0 巻

和 八 年 兀 月二 + 日 紀 州 新 聞 所

昭

B が 形 カ 魚聞 名 ŋ 成 菜 地 原 散 b カコ 屋 在 さ 聞 を め は 狐 ょ れい 意 ょ 想 1 L 狸 う 味 n 當 た。 像 0 は す 時 で す 名 す る。 屋 る は 地 あ 古 4 どこか ま 形 か る  $\mathcal{O}$ 屋 カコ だ 地 カン 6 が で 5 れ 濕 名 魚 尾 あ 新 考 菜 に 地 が 張 0 を 比 が で え  $\mathcal{O}$ 附 た未 い べ 5 き て 納 名 た \$ る で  $\otimes$ 古 柳 開 事 上 あ  $\mathcal{O}$ 恐 る 屋 田 0 が 柳 は 0 5 小 Þ 原野)と す た < か 屋 佐 伏 田 る。 な さ で  $\mathcal{O}$ 賀 柳 ŧ あ ŋ あ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ ٧V ろ 古 あ 0 名 JII 木 た Š 0 代 ろ 護 端 が た小 Š ところ 日 のことで 屋 お ٤ 高 な 久 ۷ 字 ど 平 保 か · 名も、 う で、 地 ۷ 里 あ な 同 で た ず 原 ろ 0 ľ 濱 خ څ そ ま 始 か 0 れ 伏 的 れ ŋ 瀬 木 魚 で な 私 る 漁 が は B 狐 伏 野 撈 茫 風 泂 0 0 は 菜 俗 と Þ 原 木 土 農 と た  $\mathcal{O}$ 史 を が 地 生 家 耕 L 野 Š お てそ 0 生 菜  $\mathcal{O}$ < 11 ۷ 古 活 茂  $\mathcal{O}$ 江 0 を る  $\mathcal{O}$ 豊 間 1 た 營 芦 に と 面 務 名 地 影 お 萩 産 氏 屋 を で  $\mathcal{O}$ ŋ す で لح Ś 間 لح 傳 久 あ 11 い る う 保 す 地 え に 0 里 7 日 れ لح た 地 高 ば 説 か 名 点 る 古 Þ 明 は ぼ さ が 人 لح な 紀 芦  $\mathcal{O}$ n  $\angle$ 州 だ 姿 葺 に た 名 は で 地 ٤ 屋 聚 古  $\mathcal{O}$ は لح 或 ぼ 小 落 語 狐ん 屋が人の

う



に と川も水な 大^東 7 お 害 n 正元是 そ V1 -< わ木  $\angle$ に の十二か られ材は ょ 賑 地 屋 -年ら い年一西 れる 株 日 0  $\mathcal{O}$ 高 て 式 を 頃 上 地 怒 商 そ Ш 7 は 屡 社 П 濤 せ船  $\mathcal{O}$ 移 がに 會 他 は 洪 地 0 あ あ 待 t 津 水名 るた た 合 少 やが Ш  $\mathcal{O}$ り、 لح 筋 L 津 所 物 待 い ま  $\mathcal{O}$ 設 に 浪 語 合 水 た 建 軒 備 わ  $\mathcal{O}$ る 所 運 がれ 並 日 に を 災 ょ に ぶ高 達 す う る 夶 惠 岸元全 木 奥 れ 和☆う れ 炭地 ば カン  $\mathcal{O}$ て 濱六さけ 倉 カコ な V 庫 6 0) 4 年。髪 n  $\mathcal{O}$ る に 1 慘 L 瀬 0)  $\mathcal{O}$ は ラ 事た 遷 11 カコ で 大 ツ + 日 が納  $\mathcal{O}$ b 間 洪 激 地 ク 直涼移 高 t B 水 接 塲 上 L 軭 な 円 筏 ぐ で い思 0) L < らて  $\mathcal{O}$ に 原 は 地わ 製 木 ょ 因 V 徹 で ħ 材 炭 0 لح に る あ 一底 工 7 發時的 が な 0 が 業 納 展 乗 0 沂 な 地 ۲  $\otimes$ て L 世 降 帶 損 そ客 5 商  $\mathcal{O}$ と 害 う 附 船 n に 至 相 L を で手 近 待 舉 7 う に 合 村 7  $\vdash$ あの 復 け ラ 運 所 2 茶 獨 日 活 ツ た び はた店 流高 ク 閉 が 出 が 6  $\mathcal{O}$ Ш B さ 鎖 中 が 今 で L 機 ħ さ 昭^き いに 次 で はれ和た 帆 る た。 船 木 九回り 没 株 私 に 材 年章春 し 南 式 が ょ は L 九か 名 流 會 0 年 月 Ò カュ 社 l え 7 間 L 夏 浦 7 H 7 京 約 何 十に 野 が 来 かか لح 阪 五. 日 る 製 百 け 6 神 日 高 材 1 で 各 万 所 0  $\mathcal{O}$ 7 Ш 0 て 地 石 風かものれ

# 3 昭 和 + 八 年 兀 月 + ? 日 紀 州 新 聞 所

0

話

が

で

た

1

で

に

船

0

事

を

汽か来 ち一今のさ婁 庫 以昭2商 \$ 笜 猛  $\mathcal{O}$ よっな 共れ郡 诵 上 和 和船 獸 う あ 5 立た いの四流待 高 で سلح る小 を人年合 丸 神 池 知がの 學 あっ さ 汽 夕 で 田 町 L な 四所 そ るた ま 笛 食 あ商 た 生 佐 5 月 中れ ょ 誰  $\mathcal{O}$ لح で 会藤 終 紀 9 ではも はいは たの長 驗 で 埶 大\_そ 神?右 大出全 あ を も西 ر 正ヵん 圖畫工 分 た < 0 t 線 十二な の丸型門 日に異 た つ度 御 五点馬 が違 が 時 て B 坊 0 百 氏 年一鹿 たい 7 恰 生 に 11 驛 な げ る度 0 妙 ま ょ が 4 +いに て 猛 た n る で は 開 屯 月 かと底 吉 獣 7 あア 诵 <u>,</u> の那 لح ら食 野 ろモ 力 は L ほ〜智 の事の は じ熊 う 1 て 丸 う嘔丸 め野 以 を あ あ で 丸 ショルが と半 る る 7 丸 あ そ B 來 う。は でば響 汽 ŋ ま 0 \$ U に 宇 た あに き 笛 Ф 汽 い  $\Diamond$ を都 で ŧ) が が う 船 し 0 7 たて。ち あ 矢 聞 宮 球 似 所 は 紀 た 張 丸 謂 有 0 V 丸 す 州 私合た。 那 た 蒸 ŋ 各 n 0 航 智 時 もわ 沿 は 気 さ カコ 百 路 随す驚 代岸 丸 船 て 兩 1) 屯 に 分棒  $\mathcal{O}$ で 各 11 がは日 カュ 就 汽 世 切た あ村 は那高 口 6 航 間れ私 笛 じ 0  $\mathcal{O}$ で 智 人 L 知をはは 7 人 廢 8 丸か 百 た 6 食 絶 T ŧ Þ 5 七 日 ず 事 紀 0 実 は L 牟 忘 + $\mathcal{O}$ でてれ 中 は 7 南 婁 n ر ح 屯 あ家は 私 丸ら  $\mathcal{O}$ 0 本 に ぐ 只 私 に き 格就 0  $\mathcal{O}$ とれ b で た周 事 を Ł ŋ 的航い ょ 11 あ 韋 で す しつ が 狼 な う る。れ Þ な は 航 たた لح 0  $\mathcal{O}$ + 12 見な カコ 遠 路 の汽 世 L 八似 +廻 VI n  $\mathcal{O}$ 吠 は は船 7 中 、た 0 狼 え 西 明^で い 年 九恥 だ もた T 狽 牟 治√和 る と 十 さ ず 婁 十八歌 が 亦 0 才 月 のそ き 肝 郡 七四浦 せ のか  $\mathcal{O}$ んれ n た L を 串年や今 時 共 一大日 びが山 本 でい 0 立 ž 阪 n 那 奥 あ思 町 月 兀 そ 汽 れっい 智 か L に 或 +はた出た船谷。がの割 設  $\equiv$ て丸 ら 東は の何從 が 世 立 牟 兵

獨 7 路  $\mathcal{O}$ 後 な  $\mathcal{O}$ 1 紀 州 亦 航 路 ŧ 自 分 幾 の變 思遷 し た 出 が 話 だ結 が局 明~ 治 私 三九九 が 小小學二年 年 校 月 三 大 年 阪 の商 船 と 株 き 式 だ .-か 會 ら津 大  $\mathcal{O}$ 正 紀 三 州 航 兀 路 年が の開 事始 さ لح 思れ 7 う がか 同 詘 母 لح

いケ船 か 母 ŧ 女 に つが 岸 乘 た ると 人 憵 る  $\mathcal{O}$ 野 など横 に で ボ L は 着 7 1 1 大け は 抵に 御 実 洗 は 坊 面 のな港 そ 器 ハ b は の早 を シ め 有 頃 配 ケ か は 名 つて らな だ 少 け 危遠 L 歩 で ツ 風 淺 乘 1 參 カン で が た。 9 本 L あ 7 1 船 船 L T は لح 出 醉 ま ル は い う 3 る した乗り が板か 7 を渡 沖 11 合 欠 るに ょ 航は は いか停 ょ つ浪頃 0 本 一て が 洗 人い 船 高ひ 面 に て 器 人 乘 لح つ船 < 1 汚 て頭客 物 もには 7 戻 を 直負ハは 0 嘔 シ ぐ わ 7 休 < 日れケ 航 0) ので乗本 で で 不 あ  $\mathcal{O}$ 0 船 便 浪 難 た ま なが Ł 所 で t 高 がの 行 < あ で 0 で 7 あ 0 あ 0 船 船 そ 舟 が  $\mathcal{O}$ に ハ殊 カコ シにな

# (4) 昭和二十八年四月二十八日「紀州新聞」

そ 兀 速 明~の 昭 治恒四二 力 丸 和二 ○名を + **各** 一十 十 十 十 十 十 十 前 年 ○ 路 五. 年 七 1 百 定 ツト、 月 屯 員 冬=大阪 に 型) 六 とし 就 日 主 間 航 た L 機 b 牟 - 豪 て なくア 勝 ヴ 婁 華なも 浦 11 イ 丸 た船 力 間 千 モ  $\mathcal{O}$ 1 急 六イ 0  $\mathcal{O}$ ンデ 概 で 百 丸、 行 紀 屯)こ 略 船として緑川 1 州 を ゼ ŋ ф 田 航 ル  $\mathcal{O}$ う球 辺 機 那 市 の花とうた 関二 智 丸 (各 誌 丸 丸、 か 基 と全 b 実 鋼 拾 竜 力 婁 船 われ 田 0 丸 七 て 丸 五. は百二 た (各 4 六  $\bigcirc$ 妹 十 鋼 馬船屯 船 力、 で、 位 兀 百 全 船 大 屯 長二十 客 位 + 四三 等三六 大\_ 正<sub>1</sub> 五. 呎、 += -二月 名、二等 巾 年。 三 ĺ 七 那 同 呎、 一三七名、 智 丸(千六 深さ二〇 木 浦 百

時 7 円 あ 間 客 + لح لح  $\mathcal{O}$ 錢 お 旅 ぐ V 船 れりであ うところで 情 賃 ら は を 11 であ阪 慰  $\otimes$ た 0 たと あ ŋ 御 中 る 坊 思う。 が 々 間 サ 1 一円外に ちーよビ う ス L تخ 上 急 大た 船 行 正もで料十のは金 三十 五. で あ 流 年 九日の · 錢、 旅 月 舘 計 發 所 程 要 行 度 円 時 0  $\mathcal{O}$ 食 間 三 事 は + 紀 御 錢 が  $\mathcal{O}$ 坊 或 で き和 禮 讃 大阪 る 歌 L 浦 Ì 所間 載五 牟 御 の時婁 坊 間 丸 間 時 B 間 八 表 和 那 十 が 歌 智 浦 丸 見 0 で か約 は 行 0 船 料 時 た 員 金 間 が  $\mathcal{O}$ で +居 掲 田 げ 邊 を イや計

# 阪 勝 浦 急 行 大 阪 名 古 屋

串田比和大 歌 阪 本辺井浦 浦 午后 午 前 時  $\equiv$  $\overline{\bigcirc}$ 分 發 發 着 田串勝 浦 阪浦井 邊 本 午 午 後 八 時  $\equiv$ 五一  $\overline{\bigcirc}$  $\bigcirc \bigcirc \Xi$ 分 着 下和兵天 保 歌 津 浦庫山 午 IJ 七五 時 兀  $\bigcirc$ 兀 間  $\bigcirc$  $\bigcirc$ 串古勝 田周 參 辺見本座 浦 午 IJ 八五  $\bigcirc$ 時 〇四 五一二 間 〇 〇 分  $\bigcirc$ 

田南印 南 七六 大兵和下湯御印 南 IJ 九 五 

部 坊 IJ  $\bigcirc$ 

兀

 $\bigcirc$ 

 $\bigcirc$ 

串 周 參 本 見 邊 八、 五〇四一  $\bigcirc$ 歌 淺 浦津 四 Ξ  $\bigcirc$ 

座 五三  $\bigcirc$ 庫 IJ 八、  $\frac{-}{\bigcirc}$ 

IJ

勝 古

年 兀 月 ? 日 紀 州 新 聞 載

と大 L 電 を た う L シ 7 車 W 4 で け 昭 勢 ケ た は遂 和の八 状 隻 味 に 七 客 態 を え御 が 坊 ŧ, X 八 乘 扱 年 降 紀  $\mathcal{O}$ 0 W 店 頃 L て 州 び は に 7 貨 航 ŋ 閉 至 繁 客 路 鎖 0 盛 L  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ た さ 7 を運 全 愈 極 輸 ところ れ 盛 た 々 めに 時 余 た。 あ代 た に t 現 命 を 在 あ が 0 は た。 た 0  $\mathcal{O}$  $\check{\ \ }$ 御 7 鐵 4 n 坊 な 道 0 £ 御 扱 ば 昭2坊 لح 0 店 < か和紫 だ か 6 り 四元や L け と年がお ベ で 0 る な 兀 盆  $\overline{+}$ と 今 0 月 た。 で 七所 正 十 月 ŧ 随 な 分 折 八 金 \_\_ ど 時 柄 لح 日 人 時 間 紀  $\mathcal{O}$ 0 兀 店 勢 間 £ 昭 和 西 季 昌 が カゝ あ ۷ 九 線時 を n ŋ 年御に 擁 不 九坊は ば L 波 便 月 駅 汽 な  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ の船 専 開 静 風  $\mathcal{O}$ かの 水 通 發 0 害 な で لح 着 ハ あ لح シ 日 に لح 0 ょ Ł ケ にに た 用 心 0 が 7 次  $\equiv$ 0 発 تلح 決 第百 動 か 反 定に人 機 に 面 的 衰 船 退五 汽 船 な 車 打 を百 旅 や撃来人 を

5

と と た係 け 和名 聞 う で 九 屋 カュ 港 日 時 機 年の 鐵 لح لح 関 高 八巻 Þ 道 で III ま 庫 月 が 創 あ 驛  $\mathcal{O}$ る  $\mathcal{O}$ لح + す 機 設 0 で 線 油 日 0 た。 秘 会 لح にか 倉 を 話 に 書 ょ 利 庫 開 ŋ 師行か そ 用 が 通 汽  $\mathcal{O}$ 海れ  $\mathcal{O}$ す 全 船 L で 御 師 た 町 焼 た る  $\mathcal{O}$ \$ 自 話 は看 が  $\sim$ 題 愛南 板 旅 驛 日 に を 美が 行 普 は 米 な 7 會 目 L 段 大 戰 炉 0 書 に た 破 争た  $\mathcal{O}$ 自 る。 **ご**う。 ょ 雄 0 轉 L  $\mathcal{O}$ が 車でた。 で、 う 末 ح 11 た な 期 ŧ で  $\mathcal{O}$ 錯 繪 走 そ う ほ 見 覚  $\mathcal{O}$ 昭 ŧ 0 カン う う を 事 後 和 0 7 臨 まな おい 昭 交 港 出 和 +通 11 る 鐵 すこ L 来 年 に 道 町 榮 + 三 縁 ŧ に لح な 書 兀 月の 車 0 £  $\mathcal{O}$ が 年 + あ 1  $\vdash$ で か八 ま あ る て る。 月 た 4 \_ は b 日 巧 誰 再 午の 語 見 み  $\mathcal{O}$ 開前 る 11 لح る で 書 0 ٤, 通 米 l べ で き多 あ カン L 空 7 る。 あ 7 臨 軍 才 لح 今 0 の港 < た 聞 T た 日 空鐵 0 Ľ < ツ 襲 カュ に 道 才 ! 及 لح に H ح 御 が 子 W ょ 高 の坊 多 松 で あ 0 Ш に 見 驛 る 病 11 7 駅 ŧ る。 で 寺 が が  $\mathcal{O}$ 人 屯 あ 兼 を W 筀 爆 る n 平 送 な 者 彈 れ は強師 通 は + 0 ŋ  $\mathcal{O}$ た 勤 ま 壯  $\mathcal{O}$ 筆 時 驛 で が 務 個 な あ を 別  $\mathcal{O}$ は لح S 関 受 11 0 昭

# 十 八 五. 月 日 紀 新 聞

名 屋 語 る 以 文章 6 明光昭 年/和 中生二 如 上 年 人  $\mathcal{O}$ 熊 野 巡 錫 の州 機 縁 に よ所 つ載 7 創 建 さ れ た لح 傳 え 5 れ る 源 行 寺 を 逸 す る 譯 に は ゆ か な

7 X 先 が 生 没 後れ  $\mathcal{O}$ に 出っ 来 事 7 لح は し既 てに 昭二日 和点高 廿五郡 年章誌 六に 月 詳 七 1 日  $\mathcal{O}$ 見 え 襲 を 擧  $\mathcal{O}$ げ 寺 ね が ば 生 な W ら だ ぬ 名 僧 即 智 ち 觀 0 0 日 لح ŧ В 森 先 + 生 九 0 0) 文 直 章 擊 が 彈 あ カン 6 略 L

# ょ 1) に な 御

11 2 B つか لح ゞ か た ま 昭 き に 和 で そ にが 寄 日 れ な 5 附 +高 が つ清 な 人 بلح 今 7 年に 櫒 日 L な L 上 う  $\mathcal{O}$ た ま現 思た ょ つ行 う わ とがれ Š た精 に が舎 な 兀 た 発 がい 月 本 展 古昨私 寺 で し 老 +を 7 の十あ 七粉 来 話 七つ  $\exists$ 碎 た で年た 道  $\mathcal{O}$ は八が 成 は 明 月 佛 寺 多 縁 治 再 の數 日 時 建 と 會  $\mathcal{O}$ 言 出 代 さ 式犠 紡 おに はれ 牲 5 績 また 叅 者 が こと か だ 詣 を 創 幾 家 す 出 設 千銭る はは L さ か。と た。 ま何 れ だ ょ 仁  $\mathcal{O}$ 北 5 ŋ 王 私 お 新 で、 ょ 門 が 金 地 ろ を の大 が لح 源 喜 阪 で 行ば捨 ک か きて 寺 し ろら L 11 で 郷 は た カュ 0 文 源 里 が 5 字今 に そ 行 0) での 通 寺 カン こと ŋ は後 再え 源檀 野 建 2 で 中行 信 のた あ  $\mathcal{O}$ 寺 徒 募 年 附 ىل  $\mathcal{O}$ 金 軒 近 努 を 記 家 も力 L 憶 すに で す T 0 る あ ょ 11 カコ 0 カン た り て 5 町小め 確

り 近  $\blacksquare$ 彐 井 る 御 兀 ゥ < 氏 田 坊 畝  $\mathcal{O}$ 彐 氏 町 +S ウ  $\blacksquare$ ۷ 南 六 き に 八  $\mathcal{O}$ 4  $\mathcal{O}$ 歩 土 忠 幡 ょ 北 歡 づ な 新 樂 0 ۷ 渾 地境 附 村 宅 現 南 W لح 近 新 地 代 で 時 新 に 藏 と埋  $\mathcal{O}$ を地 あ 氏 し 立 地 同は 0 7 7 じ南 た  $\mathcal{O}$ 分た 集 う檢 所 け が ま L 通 カ 有 合 坪 る て 1) 樓 地 當 大心と 0 事 で た ŋ 正九旭 津 あ に 十-檢 村 0 円 な 年年通 た。 氏、 五. 0 頃 ŋ た。 十 にに そ 茶 錢 でわ れ 免 きか で ŧ を買収 0 たれる あ لح \_\_\_ る 0 は が ľ じ兩 樓 て  $\mathcal{O}$ 大 埋 め街 事 正 辺 徳 併 <u>\frac{1}{12}</u> 石 九 太 せ て 野 帶 年 夫 7 た 氏 0) は 橋 現 工 こと 當 代 事 南 吉 時川詰 Ξ は で 樓 に + は 湯 あ ま あ 事 五. Ш だ今 る 軒 0 村 水村た  $\mathcal{O}$ 富 埋 田 鈴 料 安 氏 <u>\</u> で 木 亭 築 0 7 樓 小 が 伊 あ が 林 終 仁 勢 لح n 七 屋 五 0 助 軒 7 田が木 + E. 淵警 料 氏 が 人 氏 察 0 請 当 新 美 負 戸 樽 局 町 女 0 が あ た 屋  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ た 上 シ 津お

 $\mathcal{L}\mathcal{L}\mathcal{L}\mathcal{L}$ がて た 水  $\sim$ 挫 て に L は としょし 埋 か通 い流 な l う 立 さ \$ 诵 る 南 0 て もた かれは n  $\mathcal{O}$ に 六 カコ 南 b 地 物 北 7 上 戀 來 で に 诵 七 春 上 追話 ŋ る た あ 4  $\exists$ 思 0 し ょ 世 鷄 る う。 殊 カン 合 n  $\mathcal{O}$ 築 にが لح 굸 は 中 が カン に け 9 う た 家 死 Š な 加 平る で ま 力 ょ 數 W ŋ 檢 屋 あ る。 高 诵 フ  $\mathcal{O}$ う لح が で 0 た。 にが多 (V) 工 妙 11 < 築 B Ì に L あい た 裏 0 う 7 手 き が る 南 で す 直がいに 家 柄 上 檢 き 暗 ぐ 0 あ 屋 家 げ  $\sum_{i}$ たい 通 で かた の屋 た る 大 1) 1) 家 き n  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ لح た き 建 で は 日 旭 さ 昨 髙 軒 旭 何 あ 築 中 で 0 大年新 ŧ) 大 檢 诵 もた正の報 で 通 ŋ 構 正 n 藤 +八  $\mathcal{O}$ は Ż + ŧ そ 五. 月 藤 大 0  $\blacksquare$ 年 露 君 の年 工 七 田 れ大 \_ 体 後 君 t 月 地  $\mathcal{O}$ 九北 小 似屋 調昭 月新 لح n +は 和に地御 數た に 兀 軒 杳 ŧ は 並 に 五開の坊 年 日 ょ 巻に 間 多 7 店  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ に る L 力  $\mathcal{O}$ で < 洪 力 لح 年たに フ 5  $\mathcal{O}$ 水 フ 全 初 書エ ち  $\mathcal{O}$ お木 に 工 町 力 風 ] に よ材 11 to そ二 が Ì に フ 支 たが 次 茶 上 だ 店 で 第 積 工 免 +Ì がお き に 万 ま 附 0 全 そ n た で た 軒 n 近 ぐ゛ 盛 ħ  $\mathcal{O}$ き て で た 5 時 で北は 11 は 千た い代 あ新 南 ŧ)  $\equiv$ 7 あに 地 ٤, の円 が 尺 る ょ 0 は 0 で  $\mathcal{O}$ 位 建 た 今 方 北 そ 浸 島 لح が لح 築 今  $\mathcal{O}$ 青  $\mathcal{O}$ 水 ょ 陽 で 費 早 上 し う う カン J. は でにた 灯 亭 な 0 ち却 あはの

らつつ大に

しい 灯 戎 檢 下 に  $\mathcal{O}$ 花 < 順  $\mathcal{O}$ 女 給 が 泳 11 で 11 た。 今 私 0 手 ŧ とに あ る 古 新 聞 に 昭^ 和力 <del>+</del>m 五.0 年 九 月 0 南 新 地  $\mathcal{O}$ 花 順 が で 7 る。 日

で 御 五. 坊 百 戎 七 檢 +  $\mathcal{O}$ 本 九 月 分 時  $\mathcal{O}$ 間 花 順 本 は 位左 を  $\mathcal{O}$ 賣 如 0 < て で、 11 る 茲 か は 5 北 豪 檢 勢 0 な 約 ŧ 三 0 +で · 名 あ に る 比 L て そ 0 數 倍 0 五. + 七 名 に 上 0 7 V る。 L カン ŧ 等

と L

S 4 代、 千 靜 子、 花 香 照 哉 小 豊、 音 丸

る 衆 か以 的 つ 下 五. +七 若 名 11 れ は  $\mathcal{O}$ 人 な 兩 名 花 5 が ず 街 Ś 0 性 ŋ 格 ىل 本 لح 並 0 ŧ ベ 花 て 代 11 5 で い べ る 手 き 輕 ح に ŧ  $\mathcal{O}$ 目  $\mathcal{O}$ 的 で 廓 を 便 北 達 ŋ に 新 L て 地 ŧ) 來 が あ 5 上 る 品 ょ れ う る で 上に 便 利 流 當 さ 階 級 時 が あ を ŧ 華 う 0 客 既 に 廣 L 北 た < 新 庶  $\mathcal{O}$ 地 に 民 ょ に 対 ŋ 愛 L ŧ さ は 南 る れ て 新 か 来 地に た  $\mathcal{O}$ 人 爲 方 數 は で が あ大多

0 項 終 ŋ

لح 訂 あ 正 る は 本 稿 年 第 Ŧī. + 口 萬 12 ک 石  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 誤 附 ŋ 近 に 運 び 出 さ れ る 木 材 は 年 間 約 五. 千 万 石 い わ れ る。

# 御 坊 臨 鉄 道 創 設

1 昭 和 + 八 年 日 紀 州 新 聞

御 坊 臨 港 鐵 渞 が 創 設 さ れ た  $\mathcal{O}$ は、 昭立五 和一月 三八十 年等 月 + 兀 日 のことで あ

さ n n るこ ょ ŋ لح 先 に な 待 0 望 た。 0) 紀 勢 しこ 鐵 道 れ が では 次 第 御 に 坊 南 町 下 カコ L b て 余 來 た ŋ に が 遠 < 肝 心 どう  $\mathcal{O}$ 御 坊 L 駅 て ŧ は 駅 町 と か 御 6 坊 遠 町 < 離 を つれ た な ぐ゛ 湯 交 Ш 通村 機 大 字 関 が小 必 松 要 原 だ に 設

云 Š  $\mathcal{O}$ で 町  $\mathcal{O}$ 有 力 者 間 で は 臨 港 鐵 道 敷 設  $\mathcal{O}$ 計 画 が 進 8 5 れ て 11 た。

行 津 わ 村 話 英 は 急 昭 郎 速 和 に 進 上 年  $\mathbb{H}$ 展 金 L 月二 て、 兵 衛 + 昭 Ш 和 日、 瀬 年十二 九 時 輔 0 鐵 月 薗 道 喜 大 太 御 臣 坊 夫 小 K. 町 Ш 等 新 平 町 吉 御  $\mathcal{O}$ 氏 今は 坊 か 財 6 界 故 免 人と  $\mathcal{O}$ 許 そ が う な あ 0 0 た た。 た が る 人 田 Þ 淵 に 栄 ょ 次 郎 0 氏 を 臨 は 港 ľ 鐵 8 道 敷 大 Ш 設  $\mathcal{O}$ 英 申 太 郎 請 が

淵 か 7 郎 瀬 株 氏 九 が 輔 式 社  $\mathcal{O}$ 長 慕 集 喜 就 太 が 夫、 は l ľ た。 ま つ た。 梅 太 郎 資 本 金 村 + 英 五. 郎 萬 円 野 兀 村 又 分 兵 0 衛 拂  $\mathcal{O}$ 込 諸 で 氏 あ が 9 举 た。 げ 6 重 れ 役 と L  $\mathcal{O}$ 7 計 画 藤 田 最 村 Ł 0 熱 瀬 心 戸 健 で あ た 御 田 坊

n 色 々 屈 対 L 曲 果 は 然 あ 量 0 が 湯 た 川 が じ 村 ま 財 用 部 地 小  $\mathcal{O}$ 車 松 買 輛 原 収 は 方 ŧ 横 面 進 浜 0 4 に 耕 ΄, 昭二註 作 昭一文 和二文 加二さ 者 か 兀 九 ,6, 年半れ、 頃 小 カュ 作 6 ル 権 工 は 問 事 鉄 題 は 渞 を 和 中 歌 拂 心 山 下 に 市 げ 猛 0) 品 烈 土 を な 建 使 反 業者 用 對 す 0 原 Ś 火 庄 0 組 とに 手 0) が 手で 決 擧 ま が 着工さ 0 つた。 れ 0 た づ が い て、

# 2

カ 運 こと b 動 大 0 体 作 勃 當 人 興 時 組 期 湯 は 合が ЛÌ に 小 村方 あ 作 あ た 權 り、 0 面 に て、 は 0 沂 各 い 地 先 代 7 づこの 日  $\mathcal{O}$ は 進 高 今 農 歩 日 小 的 民 程 作 な 渾 B 人達 農 動 カコ 民 0 ま が 発 0 L 起つ 間 祥 < に 地 な は とも 組 織 世 云 うべ 的 間 12 で . 農 き所 さし 民 組 で、 て 合 強 が ここに 結成されようとして 感 心 には を持 組 織 た 的 な なも カコ 0 0) た では 0 , る時 で なかつたが あ で る あ が 0 恰 ŧ 古く 農 民

耕作者側の言分は、

我 Þ が 父 킒  $\mathcal{O}$ 代 カコ 5 魂 を 打 ちこ  $\lambda$ で耕 L 7 來 た 土 地 だ。

臨 港 鐵 道 を 作 ~る カ 5 لح  $\Delta$ ダ 取 ŋ 上 げ 5 れ て は 明 日 か 6 0 生 活 は う な る 0 だ。 どう 7 ŧ 必 な 5 坪

當り最低五円の小作料を拂つて呉れ!

と云うことであつた。

支拂 今 0 か て 5 考 11 る え る 0 だ が 当 別 時 無 لح 玾 L  $\mathcal{O}$ て な は い 要 か 求 な で、 ŋ 過 事 激 実 な 紀 主張 勢 鐵 だとと 道 建 思 設 わ 0 れ 時 た。 Ł 湯 |||村 地 内 で は 反 当 た ŋ 兀 + 五. 円 0 小 作 権 料

ら、 地 は 第 約 六 般 千 カコ 当 坪 . Б 時 でこ 比 ٢ 較  $\mathcal{O}$ 附 れ L だけ て 近 相 0) 當 でも三萬円余に 小 大き 作 権 な 料 ひは Ď 反 き 當 0) り二十 が ぼ あ り、 0 た。 円 只 カン でさえ 假 ら三十円 りに 苦 要 L 求 が 1 诵 通 会 ŋ ŋ 津 相  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 場 金 經 で、 額 理 を 面 支 五 は大きな脅威を受けること 拂 + Š 円 لح t す 出 ħ せ ばば 上 等 湯  $\prod$  $\mathcal{O}$ 村 部 方 で あ 面  $\mathcal{O}$ 0 臨 た 0 港 だ 線 用 か

詍 は 0 要 求 を 蹴 L た。 耕 作 者 側 は 飽 < ま で 初 志 を通そうとする。 全 < 正 面 衝 穾 0 形 勢 んとな つた。

# 3

条 な  $\mathcal{O}$ 折 小 か 作 . Ъ と考 で 人 米 那 側 ええ 田 賀 は 富 郡 色 11 岩 早 々 協 出 速 た精 町 議 日 方 本 L · 農 鋭 た 面 が で 民 が 時 組 を 果 合 臨 移 敢 港 和 さ な 歌 鐵 ず 農 Ш 道 乗 民 聯 側 りこ 緷 合 0 動 態 会 に ん を 度 で 續 応 は 来 け 援 非 た。 常 7 を 求 VV に 8 強 た 農 た 硬 民 で 昭 組 あ ý, 合 和 兀 和 ک 年 歌 Ш n 月 県 は 何 聯 到 合 で 底 \$ 會 旧 地 游 説 正 方 と 部 元 旦 L 長 伊 0) て 勢 日 戦 幸 で 0 太 あ た 郎 0  $\mathcal{O}$ た で لح は 大 和 う。 目 五. は

が ょ う き 出 來 る とあ ま  $\mathcal{O}$ で 頃 0 は 7 省 線 B 関 0 御 とリ 係 坊 地 駅 P 主 か が カ 6 工 1 西 費 に が の 三 今 诵 ħ 0 割 玉 る を くら 道 負 兀 担 + V  $\mathcal{O}$ 号 細 縣 線 道 Ш 12 とし 舎 通 道 ľ て に る 創 過 道 設 ぎ 路 É な を れ か 建 たも 0 設 た 中 0 0) で であ で あ あ 0 た。 る が ŧ と れ で は 駅  $\mathcal{O}$ に 道 路 くこ は 御

妨 要 害 求 を を ろ 企 拒 て が 絶 た。 Ι. L た 事 12 が カコ ۷ 小 つて 作 人 側 カコ 。 ら、 ŧ 頑 強 れ に ŧ ゅ 小 うら 作 権 ず、 補 償 遂 で紛 に は 糾 工 L 事 7 現 V 場附 た。 近 県 に とし 赤 旗 7 を は 押 從 L 来 た 小 て 作 権 示 補 威 償 運 0 動 前 を 例 L が な 11 屡 カン 々 6 工

た  $\mathcal{O}$ 方 ま が ŋ 0 本 カコ 為 当らし ね 工 た 程 県 は 当 \ \ \ 遅 局 々 )を支拂 とし で は て 窮 余 進 わせてやつ ま  $\mathcal{O}$ 策とし ず、 とか て、 < 解 するうち 工事 決 L 請 た。 負 に 人 ŧ か 鐵 6 坪道 当た は 着 々 ŋ とし 約 て 円 南 0) 下 小 į 作 料 御 坊 説 駅 に 開 は 涌 兀  $\mathcal{O}$ + 日 錢 ŧ と 間 Ł 近 11 に う せ が ま 0 た。 Щ

カゝ 5 円  $\mathcal{O}$ 小 作 権 料を闘 いとつた耕作者側 の意 気 は 挙 が 0 た

せ 県 で め 、すら、 とは 何 小 事 作 カゝ 権 を認 め 二 円 0 小作権料 をよこし たで は な V か い わ W Þ 營 利 会 社 で あ る 臨 港 鐵 道 が 支 拂

とい きま ١, た。

칶 側 ŧ 屡 々 耕 作 者 側 لح 會 見 L て、

要 御 求 坊 私 を撤 町 鐵 民 會 と沿 口 킊 「 さ れ という 線 た 0 \ \ \ 諸 ŧ 君であ 。 の 、 決し る。 て 諸 営 君も 利  $\mathcal{O}$ 御 4 坊 を 町 目 発 的 展 とす 0) 為 る に ŧ 事 0 業 で 0 な 公 1 共 性 臨 を 認 港 鉄 8 道 完 坪 诵 五. 0 暁 六 に 円と 利 便 V を Š 得 ょ る j  $\mathcal{O}$ な は 第 外 に な

と 折 衝 L た が 耕 作 者 側  $\mathcal{O}$ 決 意 は 堅 カ <sup>つ</sup>

を 評 そ 層 ŧ> 0 木 上 あ 難 社 0 て、 に 長 L 田 事 淵 た。 栄次 實  $\blacksquare$ 郎 淵 氏 氏 は に 御 ŧ, 坊 0) 大地主で 0 意図 が 臨 全く 港 鉄 な 道 カゝ  $\mathcal{O}$ 0 敷 たと 設 に は ょ 云 つて、 11 切 れ 所 な 有 11 地  $\stackrel{\smile}{\circ}$ 0 地 田 價 淵  $\mathcal{O}$ 氏 値 0) 上 ŋ 反 を 感 ŧ 目 論 手 傳 N VI で 1 ると 0 交 11 渉 う

風

カン ように L 7 何 口 か  $\mathcal{O}$ 會 談 ŧ 物 別 れ とな り、 持 久 戦 に 入つた。

を う<sup>〜</sup>親 が。作 た。者、個 側 で ħ は 農 鯉 民 子 組 を放つた 合 幹 部  $\mathcal{O}$ 上 指 導 0) もとに 色 W な 戦 術をとつた。 即 5 日 高 高 等 學 校 東 舘 附 近  $\mathcal{O}$ 線 路 用 地 に 大 き な 池

土 地 を 奪 6 n た 我 々は ほここに 養 漁 塲 を つく 0 た

0 せ 鯉 ま 子 0 ここを · を 一 た。 匹 路 は会 埋 立 数 え てるな 5 津 ħ 側 る ŧ 5 わ 弱 け 先 つた。 ず 0) ځ ŧ  $\mathcal{O}$ 0 第一五 池 で は 中  $\mathcal{O}$ な 十万匹とふつ 鯉 い。 子 Ŧī. 今 か + 万 5 兀 考えると全く笑 かけ を て來た 匹三 + が 錢 は 計 V たし + 話で Ŧī. て、 万 あ 円 تلح るが で れ 買 だ 取 当 け 0 時 あ 7 は る か 双 0 5 方とも カュ あ せ 0 に 小 さ 剣 V 無 で

0

؞ٞ 土 て、 地 農民 側 げ 0) 行 ることは 動 は 次第 我 に Þ を殺 直 接 す 的 É に な i つて遂 然ら に は ば、 工 事人夫がトロ 先ず我 々を生 土地収容法の許可を得て、「ので展開書)して然る後、 ツコで土を運 Š 前 に 寝そべつて、 鉄道を通

家 0 寶刀 爭 L 工事の みだりに用うべき性質 遂 行は不能になつた。 0 Ł のでは これよりさき、 な かつた。 칶 側 では 許可を得てい は 所 謂 傳

那、 てする枝を二、 当 専務取 もう堪忍 締 一役であ 袋 三本ぶつた切ろうと思うがよろしく頼む。 気がさけ いつた中 た、こんな調子 村 安一郎氏邸 っでは何 工 1時までたつても 事請 負 人 原 庄 組 工. 輩 事 下 は  $\mathcal{O}$ 進まな 壯 漢 が 血. 相を 仕方ない、 カゝ えて 飛込 W で 荒 邪 魔

な であ

あそういきり立 0 て ŧ 仕 方が な いが、 一体どうしようと云うの だ

あ へし折 に、 捨てゝ つてやる。 お け ば 百 姓 共 が 0 さば いつて、 仕事に Ł 何 に もなりゃ L な 1 度 膽 を 抜 < た 8 手 足 三

れこそ収 拾 0 つかな い事態となる。

とひどく殺氣

<u>\( \frac{1}{2} \)</u>

つている。

然

L

万

が

にもそん

な事

が

おころう

ŧ

0)

なら、

せ

0

角、

今

ま

で

0)

苦心

t

水

0)

泡

とな

り、

そ

に 中 ゆか 氏 はこの乱暴者 思案に 余 つて、 を なだめ 時 すか 0 御 坊警察署長 L て、 やつと皈 を訪 ね、 L たが 兩 者 0 他 調 に名案も 停 を依頼した。 な い 0 と云 つて、 今更、 ے 0 ま ۷ 捨 7 お <

ところが署 長 は

とんでも る。 な 1 小 作 間 題 は 今 B 全 或 的 に 猖 獗 L て、 そ ħ で なくてさえ、 警 察 は 地 主 資 本 0 犬 だと 毒 づ カコ れ 7

ょ < 、断られ、 兩者 0 た。 中に立てば、 ここに 至 一つて、 色 しんな誤 最 後 解 の望みが を招 げき却 切れた。 つて彼等 中村氏は色々 を激昂 3 せて 考えた。 事 態 を 層 紛 糾 させ る。

地 そし 方 7 て 同 0) の態度 人 農民を幾ら説 間 で あ が る。 カ く強 此 いても駄目である。これは何よりも 方 硬 が であ 減心 る 誠 0 意をも は、 要するに伊勢幸 つて当れ ば きつと 太郎、 リー 問 題 - ダー 米田 に打開 格の彼等と話 富とい さ れると考えた。 0 た 幹 合 部 わ 0 策 ね 謀 ば な  $\mathcal{O}$ 結 5 果 め で あ 氣 カコ 彼

0 組 年 合 計 が 和 会運 何 歌 時 山 動に対する , 聯 で あ 合 会 0 た は カュ 明確で 旧 般の 県 庁 理 ないが、 の裏手にあつたそうだが、 一解も進んでい とに 角 、るが、 中 村 専 その 務 は 頃 この 極 (は 秘 裡 計 時 . 會運 に は 組 中 合幹部に 動 ·村氏 家 は ŧ 会うことになっ 寸悲壯 П に 赤 とよば な決意であ れ、 赤と云え つ たとい . う。

Ł 共 産 主 義 者 政 府 主 義 ŧ + 一からげ に、 丸 で兇 徒 のように怖 がら れ た時 代

氏 は 前 Š れ t せ ず É 單 身 組 合本 部 に 乗り 込 んだ。

きよ 会 議 沂 う 頃 中 という客 通  $\mathcal{O}$ で じ ŧ る あ 会運 0 i 気の た 動  $\mathcal{O}$ 家 青 民 か は 年が多かつた。 組 何 合 れ 和歌 えもスマ か . ら Ш 多 聯 ] うくの組 合 1 1会執行 それが三人を中にぐるりと前 な服装をしてい 合員 委員 が ? ぞろ 長山 ζ, 中竹 るが、 と降 夫、 その頃 りて来 遊 説 後を取 部 は 長髪 て 長 伊 り巻 会見 勢幸・ 無帽 太 1 L 郎 7 て、 V な 0 、る三人 らりふり 話 兩 の成 氏 が を、 行き次第 カ 現 れ、 まわ ぐる ず、 つど で ŋ ع は、 たゞ い 取 て、 今 主 开 義 W に生 だ。 ŧ か

が、 が 直 とも 接 に 合 角会談は つただけ 無事 でも先ず にすんだ。 成功で あ 論 0 度 ~やニ 度 0 会見 で片 付 < 問 題 で は な か 0 た が 敵 味 方 を立 場 は 異 る が 兩

び

か

0

て来そうな形勢であつた。

Ž. て、 これ ŧ 年月 不 明 だ が 二 次 会 談 が 行 わ れ

さず 頑 くな 所 彼 は 等 和 0 歌 心 山 市京 を 説 きほ 橋 橋 ごさ 畔 にあ ね ばなら つた米 らぬと、 栄 旅 舘 酒と女と用意し二人に電  $\mathcal{O}$ 、一室で・ あ る。 0) 時 中 話 村 をし 氏 は、 たところ れ は 会 普 お 通 う 0) ع 方 云う 法 で 事 は であ 効 果が 0 うす すか 11

そ れ では 今 か 5 お 迎 え 0 自 動 車 を 差 向 け ま す か 5 何 卒そ れ で 御 越 を 願 1 ま す。

と傳 え ると、 穾

馬 鹿 ツ !!

と大 喝 さ れ

L から んことを 云 う な、 自 動 車 ナ テ あ れ は 資 本 家 0 用 ゆ る £ 0) だ、 我 Þ は 立 派 な二 本 0 足を持 7

歩 1 て行 < ら自 動 車 は いら な 11

さ け な と云 ムえば さば け ١, が、 若いだけ に 純 粋 な Ł  $\mathcal{O}$ で あ

部 屋 に 戻 **人ると呼** 者 が三、 兀 一人來て V 中 は、

Щ

中

行

:委員

長

氏

は二十

应

五.

才、

伊

勢

遊

説

部

長は二十七、

八才、

ま

さ

に

年

办

氣

で

った。

辰民組合の山中心でおいた藝者 中 ż  $\lambda$ 伊 対勢さんが見えるが、來ていた。中村氏は 二人とも 私 に . と つ 7 大 事 な お 客さ W だ か 5 君 ŧ せ

サ Ì ピ ス してく

話 す は ツクリして

え 民 組 合 0 達です カコ 旦 那 は W ŧ 物 好 きな。 あ 0 人 達 は 共 産 党や あ ŋ ま せ W か、 どん な をする

からない から、 やめ ておきなさい、 私 「達も怖 わ。

と逃 げ 腰 で

な  $\mathcal{O}$ 6 方 鹿 は なことを云うも 私はこう云うも 話  $\mathcal{O}$ 成 行 きで、 0) ひよつとすると、どんなことになるかではない。彼の人達も矢張り人間だ、 のだから、これく 0 處へ、 連絡を頼 がも、わ: まさか! か 取 って 5 な ないが、万一なく食おうともご 私 굸 0) V B 身 l に 間な 違 11 がだ が、 あ つ 、 た 私

と話 兇 和 歌 な男のように思われてい Щ た。 0) 共 こう云うと非常に大袈裟だが、事實この少し前 産党党員 人村瀬 (某が、農民組合員の山中 た。 竹 夫氏に刺殺されたことがあつたりして、 に 和歌山 共産党事 件と云うの が あ 0 Щ て、 中 と云えば 主 義 上  $\mathcal{O}$ 爭 般 11 人から か 5

と かくいてい るうちにどうやら二人が見えた。

それつ

と 云 う Ó で、 中 村 氏 は女達を従 え玄玄 関 に 出 迎 え た が れ が け な つ

そこに居るの は 何だ!!

11 き ŋ 鋭い言葉が 飛 W だ。

何 だって! 男、 これ は藝者じやありませんか

馬 鹿 !!

ま た 叱 られ た。

ら藝 我々は、 飯る、如何い いうも 0) カコ 知 つて V る カゝ あ れ は ブ ル ジ 彐 ア 0) 頑 弄 物 で は な V か、 そ 0) よう な 者 を 座 に 侍 5 す な

伊勢君. 1飯ろう。

こう云 1 捨ててとつとと皈 りは じめた、ここで皈ら れ ては 大変 で あ る。 中 村 氏 は 下 駄 を は く間 ŧ なく二人を追 カコ け

と二人をやつと連 寸 待 つて下さい。 れ皈し三人で會談した。 これ は 如 何 にも 私 が 惡 か 0 た。 藝 者 は 直 · ぐ 引 取 5 せ る か 5 とも 角 座 敷  $\sim$ 通 0 て下

談 0 ホンの足は 時 なことがあつて、主 で つたか、 飯り 際であつた。 それ れとも第三次會談工義と立場は異な 道路まで送り出 一談の時 で して、 あ兩 つ者 たか、 は大分親 山中執行 時 分はよしと臨る 行委員長のポケツトへ金一封をねじこんだ。 鉄 然 歌側では二--がし交渉は1--人の 依然とし 買 収 ľ て 難 取 航を ŋ カ つゞ 0 た。 け た。

の足代 こです、 お受取 願 11 た , v

この 額 は 知 b ぬ が、 靴 代どころでなく、 当時としてはか なり 大きな額で あつたという。 二人の 態 度は流 石 に 立 派 で

Ш 中 君 ! 今 0 は 何 だ ?

伊 遊 説 部 長 が 一足 もどつ

何 だ か 知ら Ď 足代 カン はりと云うど。

そう か ! 本 当に 足代 か一つここで開 け ć み ようじ Þ カコ

伊 勢 氏  $\mathcal{O}$ 手 が 0) びた。

瞬 間、 中 村 氏 0) 手は 石 化 0 如 <· 延 び て、 Ш 中 氏 0) ポ ケ 'n 1 か 6 封 を奪 ŋ カゝ えした。 ここで開 封 さ れ 7 は 忽 ち 収 0)

計 画 が 露 見 するから だ。

7

1 0 ほ か ぐされ た。 た。 くて ま 買 7 収 た万一にもこのことが世間 來 戦 た。 術 もまんまと失敗 然し当 時 双方 が に 会談 終 にもらされた場 0 L た て が V た こうし 事 は 厳 合 て度を重 秘に は中 附 . 村 せら 氏 ね · て 兩 0 れ、 身邊に 者が 臨 鉄 · 會 見 危害が及ぶか 重 役 するごとに、 陣でも 田 ŧ 淵 知 れぬ 津 組 合 長 لح 以 幹 堅 外 部 < 誰  $\mathcal{O}$ П 心 ŧ 止 知 t  $\emptyset$ る 次 第 を 者 は に なか れ 解

て、 0 間 に ŧ, 地 ŧ と 湯 Ш 村 方 面 0 反 對 は 益 々 激 L < 殆ど連 夜に 豆 つ 7 中 村 専 務 0 宅 小 作 人 達 が 押 L 寄 せ た。 そし

か田 甫 0 黒 杭 を 抜 1 て 呉 れ あ W な ŧ 0 を 田 甫 に 打 5 ま れ 7 は 仕 事 に な 6

め

とくり えした。

そん な 邪 魔 な Ł 0 な ら、 貴 男 方 で 抜 カゝ れ た 5

こえる

我 々 が 勝 手 に 抜 1 た 0) で は 手 が 後 廻 る。 わ会り **津**の 手 で抜 てくれ

これ と云う。 には 中 何 しる相 . 村 事務 手は ŧ 大勢 家 人 ŧ がで、 弱 つた。 入 ハれか 大抵 わ ŋ は 1 居 ち 留 カ 守 を 使 来 つて中 る のだが、 村 氏 こちら は二 階 は 0) 人で 室  $\sim$ あ 匿 れ て 11 た が

れ なら 皈 ま で 待たして貰い ま す。

と n 4 を やる。 う っか ŋ 便 所 に ŧ 行 け な 11 始 末 で あ 0

方 方も、 そう 私 (T) 家に ば かり来ない で、 時には田 淵 す長 0) お家 へも 行つたら、

ŋ カコ ね た家人が、こう É 둪 0 たが、 田 淵 津 長 は 事 面 倒と見て大抵逃避して不在 であり、 たま 家 なに居 て ŧ 邸 内

深 向 姿を見せ な

或 0 + そ n も大 晦 日  $\mathcal{O}$ 晚 と云 うの に 例 によっ て、 數人 の農民が 押 Ĺ カコ いけた。

私 達 は 財 部 0 者 だ か 中 村 さ W に お 逢 V L た 1

と云 う。 ここで思 V) 出 L た が 0) 人 達 が 中 村 氏邸 に あ 5 わ n る 時 定 つ

7

財 部  $\mathcal{O}$ 者でする が

と云 0 たという。 家 入も 慣 れ た Ł 0

主 人は 留守 で す。

と答 え んると、 これ ŧ れ Ł 型 0) 如

皈 ま で待 たせ てもら 1 ・ます。

と玄 で な いが 関 に 腰を降ろし 九時に なっ て、 ても拾 V) つか 時に な皈ろうとは なつても 八人もこのなっても中 々 L 引揚 な V げる 0 夫人 氣 配 は はない。 歳末のこととて、 煮 X 物 Þ 5 掃 除 Þ 迎 春 0 準 備 12 氣 が

氣

流 石 斯 うしたことに 慣 れ 切 っつた夫 時 がですか、 は神經に関 は 障つた。

が 1 貴 男方は する 貴男方も か考えて 一体今 御 晚 勿論 覧 は 奥 どう云う日 さ W ŧ 子 か御 供 さん 存 ŧ 知 御 有 りで 大晦 し こようが 日 とい j 御  $\hat{O}$ 自 に 分  $\mathcal{O}$ 他 奥 処 É  $\sim$ 押 W が L \_ カコ W け な 7 目 来 に 7 逢 った 向 皈 . ら ろうと どん な感 ŧ L な

夫人 は 氣にまくし立て た。

ま そ せ れ んか。 たにまあ 大 0) 男が 五. 人 ŧ 六 人 ŧ, 他 人 0 家  $\sim$ 来 て、 財 部 0 者 で す が と、 名 前 Ł 云 わ な 11 で、 失 禮 ľ B あ

失 礼 L ま J L 私は 財 部  $\mathcal{O}$ 何 0) 何 某 と 云 ます。

つゾ 11 て

夫人

0)

言

葉

は

鋭かつた。

するとこ

れ

を

聞

V

た

人

が

立

ち

上

がるとシヤチコ張つて、

私 t 財 部  $\mathcal{O}$ 何 0) 何 兵 衛 で あ ŋ ま

私 は 何  $\mathcal{O}$ 何 衛 門と 云 V) ます。

次 Þ に 住 所 氏 て、 ぴよこ りと 頭をさげ

0 ŧ 當 あ 民 「こ従う者」の一人が 緷 0) 話 など聞 を、 くとまことに 部 で は 5赤だとか: ユ ] モ ラス 共産 へで、 主義 者 昔 だ な が と 5 か 0 t 如 何 < لح に 0 ŧ な農 区 惡 な 民 思 氣 質 想 が  $\mathcal{O}$ う 持 主 カュ が  $\mathcal{O}$ ょ わ うに れ て 批 評 ほ  $\angle$ す る 笑 ま

歌 を 談 歌 が 0 行 た j わ ŋ n L 7 た 何 11 る 時 Š か Ш ち 中 ŧ 氏 4 組 伊 合 幹 勢 氏 部 Ł と  $\mathcal{O}$ 最 初 交 渉 ほ سل は 頑 絶 え な ず ことを 続 け b 云 わ れ な < 或 な 時 つは 和 て 歌 時 Ш 市 と で L 7 は或 席 時 上 は に 湯 藝 淺 者 町 を 廣 ょ 屋 ん旅 舘 で 革

カ 難 < 航 7 会 を 談 極 8 す た ること 小 作 権 + 問 数 題 口 Ł 解 双 決 方 L 歩 た。 4 ょ 0 て、 結 局 最 後 は 坪 当 ŋ 円 伞 當 ŋ 円 + 錢 لح V う 人 ŧ あ *y* を 支 拂 0

後  $\mathcal{O}$ 手 打 ち は 御 坊 町 保 田 屋 で 行 わ れ た が れ ŧ 年 月 日 が は 0 き ŋ L な

B 0 ħ で 紛 糾 に 紛 糾 を 重 ね た 難 間 題 t 解 決 L たと喜 W だ 0 ŧ 束 0 間 難 去 0 7 ま た 難 今 度 は 從 来

民 組 れ 合 は に 臨 加 港 入 L 鉄 渞 7 1 に な 村 か を 横 0 た 断 財 さ 部 れ 区 て は民 が、 B 朝 か 洪 ま 水 しく 0 際 なっ 日 た。 高 Ш が 氾 濫 さ れ る ٤ 線 路 以 東 0 人 家 は 水 没 す

で あ 0 た。 ŧ 尤 £ な 굸 い 分 で、 何 で Ł 臨 港 鉄 渞 0) 線 路 は 最 初 財 部 区 民 に 約 束 l た ŧ  $\mathcal{O}$ ょ ŋ 何 程 カュ 高 < 作 6 る れ لح 7 云 う る 0

会 津 側 は 財 部 Ш 0 Ш 幅 を 廧 < L 7 区  $\mathcal{O}$ 要 望 を 入 れ 7 解 決 し た 굸

うこと

で

あ

る

が

眞

僞

は

知

5

な

な 后 由 ところ 訴  $\mathcal{O}$ 訟 地 が 沙 で ۷ 汰 あ に、 る に . ま か で 5 財 な 部 0 例  $\mathcal{O}$ · て、 え 人 金 で 結 里 は 局 上 Щ 某 程 里 لح 積 上  $\lambda$ 云民 氏 う で が 人 ŧ 敗 売 が れ る あ たとも などは ŋ 又 聞 以 11 7 9 たが、 外だ 難 題 と を 云う ŧ れ 5 ŧ のか 眞 で け 僞 た。 あ は 0 知 た。 そ 5 れ な 色 は Þ ک 折  $\mathcal{O}$ 衝 人 L  $\mathcal{O}$ た 所 が 有 遂 地 に は 物 别 神 n 功 لح 皇

ね た こう ば  $\mathcal{O}$ なら だ が め て、 反 面 日 本 御 坊 短 距 町 離 有 だ 志 لح 0 う 入 ちれ る 故臨 山 港 中 鉄 岩 道 太 9 郎 氏や設 柳 す Ź 出 に 哲 Ŕ 量 氏 など 言う がに 言 わ 陰 に n 陽 め 当 に 事 盡 者 さ れ  $\mathcal{O}$ 苦 た 功 辛 غ 績 色 ŧ 大 W き な < 經 評 緯 價 が さ あ れ 0

わ ず 昭 和 六 11 年 t 六  $\mathcal{O}$ が 月 + ぐ 五. <u><</u>`` 日 0 早 暁 4 車 上 輪 げ  $\mathcal{O}$ て 音 来 ŧ たと 勇 L 言 < う が、 始 発 宣 ガ な ソ る IJ カン ン なで 力 1 あ が 紀 伊 御 坊 駅 を 發 車 L た 時 は 関 係 者 同 0 胸 に 思

# 9

金 4 由 小 来 さ 鉄 か 道 11 H 事 た 業と 走 行 距言 Š 離 ŧ が  $\mathcal{O}$ 短 は カン 大資 お 本 ま を け 要 に す る 繼 仕 続 事 工 で、 事 لح تلح し 0 7 숲 西 津 御 で 坊 4 駅 開 間 業 当 さ 初 5 は に 苦 日 L 高 V  $\prod$ と ま 工 L 事 て を 御 続 坊 臨 行 港 L 7 鉄 道 VI た は 資  $\mathcal{O}$ で本

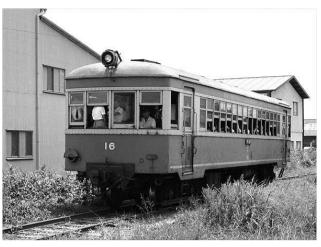
見 縣 重 会 役 議 は 借 員 山 入 П 金 喜  $\mathcal{O}$ 久や n 郎 < لح ŋ あ に る 必 死 Ш で  $\Box$ あ 氏 0 は た。 折 鞄 或 0 日 中 か 執 ら 務 中 通 0 0 支 手 配 形 人 を  $\mathcal{O}$ 取 所 n 出 \_\_ L 人 て、  $\mathcal{O}$ 壽 支 年 配 紳 人 士 0 が 机 あ 0 ら 上 わ に れ た。 名 刺 を















Yahoo Japan !インターネットより

形 は 貴 社 0 ŧ です

何 t そ 通 りで

で 期 Н が 来 7 おり É す、 御 決 済 願 1 ま す。

ょ < わ カン 'n ŧ L た。 然し当 社 は 開 業 早 々  $\mathcal{O}$ 事 で::

とに 角、 御 決 済 願 1 と弁

明

に

こつとめ

た

が

Ш

口氏

は中々

引き退

がら

な

、ます。

点 張 り。 午 前 時 頃 いいら夕 方 五 時 頃 ま で 実に 九 時 間あ まり ね ば つた。 支配 人はとうく 根 負け て、 田 淵 . 長 と

談 0) Ĺ け な Ĺ 0 金 を 集 め て Þ つと支拂をした。

どうも、 若 時 から 戶 の鼠では なかつた。

中 尚既 村 安 述 0) 氏 は当時 Щ 中竹 を追 夫、 懐 伊 勢幸 L て、 太郎 しみ  $\mathcal{O}$ \(\chi\) 兩 氏 2も何れ 筆者に語つたが、 ŧ 健在であ 今を時めく、 か、 り、 殊に伊勢幸 山口喜 太郎 久一郎 氏 は、 氏の若き日 奈良縣選 出 0 右 派 面 社会黨 一であ る。 代 議 士

て活躍

中

・であ

る。

筆まとめ 目 の 一 を 通 文であ しし校 とい 正 うか る。 刷 が 清 廻 0 水 て 長 来 郎 て、 氏 こんど 0 本紙に 程 対 面 白 する寄稿 < 読 ま ĵ だけ て貰 でも兩 つたの 手 は 0 指 始 め で数え切 てだ。 御 ħ 聞 な 書抄 1 が、 第 六 通 口 御 ŋ Ť 坊 臨 0 لح 港 原 道 秘

マニれ 7 お は きた か ね V 7 登 ŧ  $\mathcal{O}$ 場 とか 人 物 ね 0 が ヒ ね ] .思 口 つて 中 -村安一 いたところ、 氏 から直 清 水氏がその一半を果たしてくれた。 接 聞 いたことが あり、 双 方に 暇が あ 0 たら改め 7 記 録 に 止

 $\nabla$ 小 と思 ĺ 肉 を 11 なが っつけ 5 Ć いわ 小 説 ゅ に る浅学ヒオ、 書 V た ら更に まだ話 面白 い を聞くまでにも至つてもいない。 もの が出来るだろう。それと、も一つ先代高 忠 0) 業 績 Ł 書 11 7 見 た

 $\nabla$ 「き残 滅、 て置 会者 け 定 離、 ば 後 世 御 . 必ず 坊 臨 貴重な文献となるであろうことが何処にもあるものだ。 港 鉄道に i ても早や故 人となられた人もいる。 0 あ たり 見 聞 L た 人 0) 存 命 中

 $\nabla$ ハふでま な 方 々 0) 発 奮を望

# 水害の巻

(1) 昭和二十八年九月二日「紀州新聞」所載

### 水害前

夫 と で ち あ 砂 ごろう 11 利 5 が ょ n 11 船 自 方 が 然 々 あ 0 で ۷ 暴 聞 威 か 7 0 さ 毎 前 n Н に た。 Ш は  $\Box$ が を たまりも 今 掘 度 0 0) 7 ょ い な う る カ な 0 ケ 堤 た。 タ 防 外 Ł れ 丈 夫に  $\mathcal{O}$ 洪 水 な に 0 な て る V る カ 5 少 Þ Ш ŧ)  $\Box$ Š を 御 掘 坊 は 0 て 水 11 害 ょ  $\mathcal{O}$ う 心 が 配 は な 堤 防 が 丈

ゞ お 災 ŧ, で 土 あ 害 む 木 < 技 る に · 遭 ま 術 Š ۷  $\mathcal{O}$ た に 進 人 任 歩 L 々 L た が て 現 死 11 た昔  $\lambda$ 在 で でさえこ か L ま 5 か でえ  $\lambda$ な 何 る 有 時 کے لح 様 だ は カコ な 何 6 L + に 口 堤 云 何防 11 百 伝 が え 口 貧 کے ŧ 弱 な 消 で <u>ر</u> ک え、 あ 0  $\lambda$ 記 た な 明 憶 くことっ ŧ 治 煙 以 滅 を 前 L < ゃ ŋ て 世 か 更 間 え に そ L カコ 6 て  $\mathcal{O}$ 忘 来 堤 れ た 防 5 に さ れ 違 え 7 な い な < 1 河 流 0 た た  $\mathcal{O}$ 

### 2

以 で 前 例 あ 既 え るに ば あ 巽  $\mathcal{O}$  $\equiv$ 辺 郎 n 氏 にが 丹 古 代 生 村 人 が 和 生佐 活  $\mathcal{O}$ 今 L 次 て W  $\mathcal{O}$ た。 水 害 そ 地 カン L 7 6 発 日 見 高 Ш L  $\mathcal{O}$ た 洪 と 水い う に 縄 ょ 0 文 式 て、 遺 そ 跡  $\mathcal{O}$ な 集 ど 落 か 5 は 考 泥 え 土 ると、  $\mathcal{O}$ 下 に 凡 埋 そ三 ま 0 千 7 年 L ま < 5 0 た 1

 $\sum_{}$ ħ ま など ŧ) た 先 0 لح 丹 年 生 松 Ż 村 原 ら 和 村 佐 田 . る。 井  $\mathcal{O}$ 潰 田 端 跡 春 に  $\equiv$ < 5 氏 邸 べ て 0 時 附 近 代 カゝ が Þ ら ۷ 田 新 辺 しくなるが 市 0 浦 宏氏 に 矢 よって 張 ŋ 幾 縄 千 文 年 晚 昔 期 0 0 集 土 落 器が が 日 多 高 数 Ш 発  $\mathcal{O}$ 掘 氾 z 濫 た に 事 ょ が あ る 埋 が

明~た 几 +\_0 年に 編 纂 ざ n た 湯 Ш 村 郷 土 誌 草 稿 に よると、

と

あ

0

7

n

ŧ

代

不

詳

0)

洪

水を

物

語

って

泥 土 下 0 財 堆 部 積 L 中 た 財 る 部 証 跡 上 あ 財 ŋ 部 上 は 共 財 に 部 地 中 低く 央 に 古 現 ょ 地 ŋ 上 屡 面 々 ょ 浸 n 水 数 0) 尺 災 0 12 下 罹 に り、 竈 を 現 発 見 時 0 L 陸 た る 地 地 لح 面 あ は 昔 ŋ 時 云 ょ Þ ŋ は 尺 乃 至 数 尺

角 て で 井 ま が て を 何 す 4 掘 時 代 る る で ī あ は لح 段 カ # に つ た  $\mathcal{O}$ 戸 な か 0 井 ブ 0 て、 堅 L 跡 て لح 田 を 中 い わ 地 る 千 カコ 下 心 · 穂 氏 とい に 0 数 た。 尺 人 う。  $\mathcal{O}$ カ Þ そこ 5 が 地 聞 点 生. 単 活 に で で V 直た そ を れ  $\mathcal{O}$ 話 径 だ 古 に け 井 尺 矢 ぐ 張  $\mathcal{O}$ 戸 大 話 を 6 正 ŋ 利い 年 で 0 は 代 用の 末 野 L 丸 カ 不 詳 井 て 11 昭 穴 和 戸 0 11 洪  $\mathcal{O}$ る に  $\mathcal{O}$ ぶ 初 跡 わ 水 で か け 0 8 埋 住 だ カュ に が 居 0 本 0 て 0 た 町 井 0 L 藤 戸 ま Ш 藤 周 0 洒 用 0 |||た 跡 店 は 酒 4  $\mathcal{O}$ 河 カコ 店 井 0 \$ 原改 不 戸 石 築 想 明 は で  $\mathcal{O}$ で 途 石 際 像 さ あ 中 垣 を る で 工 れ る が 継 0 事 ぎ 0 が とも で で 目 進  $\mathcal{O}$ 11

### 3 和二十八年 九月三 日 紀 州 聞 所

百 兀 0 年 外 間 は に 0 大小 きり文献に 二十件近い 遺 った者としては 水害をか ぞえることができる。 元 和 六年(西 一六二  $\overline{\bigcirc}$ 年)の 大 洪 水 を は ľ 8 として 七、 八 水害 ま で 凡そ三

それ 兀 舘 次 裏 さらに享保元年 元 V ま 手か 和 不詳にも大水が で万治 で 日 六 5 年 高 西 Ė ĴΪ 舘 月 元年(西一六五八年)にも大水があった。  $\mathcal{O}$ 0 左岸、 裏、 · 西 日 一七一六年)六月十六日大水と日高郡誌にあるが詳 さらに椿方面 は 塩 屋村天田 五月某日 この洪 の西北部を経て、松原村大川橋下手で海に とも、 と陸続きであった名屋浦が 六月上旬ともいうが、 即ち 名屋浦 日高 誌 鑑 この に「万治元年洪 は Ш 0 水 しくは 河 は 底となり、 大 き 注い 不明であ カゝ でい 0 水 た。 田 薗 、 た 日 る。 畑多 莊 そ 薗 高 れ 荒 続 浦 ま Ш V 領 で が と 記 て宝 を 今 借 挙に  $\mathcal{O}$ 唇 さ つ 日 四 れ て 流 高 年 7 移 路 々 · 西 1 居し をか る。 学 た。 ええ、 七 五. 東

年) あ った。 水は か なり大きく「源行 寺

宝 暦 兀 年洪 水 あ ŋ, 日 高 Ш 堤 防 決 潰、 濁 水源 行寺 軒 口に至る、 名 屋 村 民 多く 屋 上 に 遁 る

と当 時 0 模 様 を傳え 7、「名屋 浦 鑑 に

宝 唇 四年洪 水 堤 防切 鳅 先 荒 地 出 来、 翌亥 年 御 改 云 Þ

とあ た天明 つ て 濁水源 匹 年(西一七 行 寺 七八七年)にも洪立の軒口に到るとい 0) るという 水があ 0 だ 0 て カゝ 堤 5 防 御 が 坊 村 決 潰  $\mathcal{O}$ 被 L 害 た。 が 名 思 屋 11 やら 鑑 は れ る

大 水 唐 破、 鍬 先 荒 出 来、 翌 申 年 御 改

と 記 L ている。

ま

中 年 おいて、 さら に 寬 政 元 年 西 七 八 九年)六月日 時 不 詳 に ŧ 日 高 Ш が 氾 温濫し 7

寬 政 元 年 元 唐 崩 込 ~ み、 家 田 畑、 日 高 Ш 桜 木等 流 出 れ ょ ŋ 仮 関 堤 初る今 年鍬先 御 改 有 又 今 年 ょ ŋ Ŧī. ケ

年 間 加 子 役米 **汽御浮置** 置 被 下 -候、 云 々」

と 名 7 が V 浦 は 越 え か て な 寬 ŋ Ó 政 被 七 年、 害 を記録している。 八 年、 + 年 <u>と</u>三 口 中 日 年 高 お  $\prod$ が V て 氾 寛\_ 濫 政士 て 年等 1 る 八 八月二十二 が  $\mathcal{O}$ 日 時 は三 に もま 口 と た ŧ 田 暴 畑 は 風 流 雨 失 が L あ た 0 7 が 堤 日 防 高 Ш は 切堤

カン わ 0 7 享 和 元 年 一西 八  $\bigcirc$ 年) に ま た 洪 水 が あ ŋ 日 高 Ш 堤 防 が き れ 7 11

良 蓮 專 誌 は

中一

年

お

て、

享

和三年六

月五

月

六

日

· と大

雨

が

あ

0

て、

家

屋

田

畑

が

流

失

死

人

t

出

月 五. 日 六 日 大 雨 大高 水 諸 方 田 地 大 荒 数 不 知 諸 方 家 流 人死

と伝 え、 水名 浦 鑑 は

大 堤 防 切 今 年 ょ ŋ 五. 力 年 間 加 子 役 米 御 浮 置 被 下 候 加 子 米 + 五. 石 六

あ

年。昭 和 + 八 和点九 三月 年。加 日 紀 州 新 聞

素 口 に え 人 考 亘 え 0 4 て る 思うの ځ 洪 天2 水 明七 七七七 で が あ あ る か 0) 5 ح は  $\mathcal{O}$ 如 享全年 何 L た 理 由 であ かけ て、 Š かわ ず 或 か は 十三、 日 本 を 含 兀 む 年 北  $\mathcal{O}$ 半 間 球 に が 殆 多 W 雨 يخ 期 連 に 年 と で ŧ 云 入 0 0 て た ŧ 0 ょ で V は 程 な 実 に か

ま 天 保 年 Ħ. 月 (西 八 兀 年)に Ł 日 高 Ш が 氾 濫 L 7 岩 内 ح 天 田 両 村 に 亘 る 堤 防 が 決 潰 た لح 日 高 郡 誌 に あ

明

治 に 入 0 7 は +-四六 年生 に か な ŋ 大 き な 水 害 が あ り、 誌 は

害 至  $\mathcal{O}$ Þ を 河 ŋ に 本 与 7 水 溢 年 え 漲 雨 五 れ ずと 全 溢 月 L 歇 田 兀 雖 為 4 畑 日 ŧ 変 に 水 ょ じ 勢 堤 ŋ そ B 防 て 連 0) ۷ 湖 日 衰う 収 道 面 降 穫 路  $\mathcal{O}$ 雨 は Ś 如 L < 平 を 井 年 Ł 六 堰 に 築 遂 日 0 下 7 に 0) 大 殷 甚 家雨 れ だ 損 屋 盆 0 を 実に き惨 床傾 舟  $\tilde{\zeta}$ 筏 簣 近 の状 を 代 流 を 浸 河 稀なる洪 失等 呈 す 水 に す 氾 るに 不 至 濫 尠 る、 郡 水と لح 至 役 いら 七 所 いうべし」 う。 ざ 日 近 ŋ 雨 傍 É, 麦作 尚 御 歇 坊 は そ ま 村、 Ō ず 登 他 実 薗 0) 日 水 浦 後 高 未 Ш な だ 名 る 退 を 切 カン 浦 Ł ず、 目 Ш 0 田 7 井 大 南 < 村 部 る Ш 後  $\mathcal{O}$ 等

とそ  $\mathcal{O}$ 状 を 録 L 7

次 VI で 明~況 治 年心い 0 大 洪 水 が あ 0 て、 惨 状 言 語 に 絶 し 無 数  $\mathcal{O}$ 哀 話 悲 話 を 生 W だ が  $\mathcal{O}$ 水 害 0 漕 遇 者 は 今 Ł 相

當 在 で 大心あ 十-し 年等 の人 П に 膾 灸 L 7 1 る 0 で 省 略 す

後

水

害

で

あ

る

が、

これ

ŧ

世人が日

周

知のこと

だ

カゝ

ら、

程

のことは

あるま

地 名 最 後 に た 題 昭 和 正立る に な が り十 あ日六 0 年 高 Þ 月 校 何 野 湯 れ 田 Ш に 村 L 郎 小 て 氏 松 ,と片 Ł 原 日 诵 高 山 称 Ш 隆 子 洪 安 水 神 氏 لح が社 関 津付井近 連  $\mathcal{O}$ 切 で あ は須 る 恵 話 器 穾 だ 0 が か 切掘 5 <u>り</u> ŋ 書 出 き だとい され、これを契期 加えて お 否 潰 とし 切 ŋ ( ) て 藤 田 え 村 切 津 井 切 だ 0)

記

七 L < 八 床  $\mathcal{O}$ 水 に で  $\bigvee$ とご カュ 5 後 ま 今 受 過 け る。 Ł 去 た。 朌 然 お 元 気 そ L 11 て、 に 日  $\mathcal{O}$ な う 高 郡 5 0 て 誌 水 W は V 害 な な 関 水 般 い係 害 為  $\mathcal{O}$ に が 行 記 あ き 広 事 0 < を 渡 た ま 資 つ 0 て لح だ 料 ろ を 8 お う 5 集 7 ず 8 4 カン る ょ 今 う 今 至 لح ま 日 で b 思 で ず は 0  $\mathcal{O}$ て 容 主 水 易 لح 11 L に る 記 Š て 手 録 うち、 手近 が 入 遺 に れ 七 0 るこ あ 月 7 0 1 とが + た る 日 三 0 出 高 日 か 来 郡 カコ 5 な 誌 病 う 抜 気

## 材 場 $\mathcal{O}$

1 昭 和 + 九 年 月二十 七 日 紀 州 新 聞 所

多 御 ことに カュ 坊 つ 町 た 0 だだ よろこ 経 八 け 水 済 に、 害 を大きく 以 ば し 前 水 / 害では 1 御 次 左 第で 坊 右 町 軒 Ĺ を中 あ 並 て る。 みに V 心 た。 とし さて 徹 底 製 て、 斯 的 材 様に な 工 附 損 場 盛 近 害 は 町 大なりし を受け 事 村 業 に、  $\mathcal{O}$ たも 性 約三 製 質 材業 上  $\mathcal{O}$ 十 が何 ·数 は お れ 社 何 b お 0 時 か 河 製 頃 畔 0 材 は た に じ 工 が あ 場 ま ŋ が 0 今 あ たも Ġ 且. 0 徐 0 て、 のであろうか 建 Þ に 造 製 物 材 直 ŧ 業 ŋ 比 0 0 較 景 ۷ 的 気 あ 簡 る 単 不 な 景 لح Ł 気 0 か

2

森 彦 太 郎 先 生 編 纂  $\mathcal{O}$ 稿 本 日 高 郡 史 年 表 に ょ る ع 明~ 治九 四〇 十七 0 条

日 高 製 材 所 開

と あ る。 今 カゝ b 約 + 五. 六 年 ŧ 昔 で あ

材  $\blacksquare$ 事 端 業 を =ょ 経 ŋ 兵 Ź 営 衛 き、 L 翁 7 が 剋 明四 没 7 治 L は た。  $\equiv$  $\overline{+}$ لح こ云う話 そ 九 0) 年 後松 が 原 持 喜 村 ち =大 う 字 出 兵 3 衛 田 れ 井 翁 0  $\mathcal{O}$ 間 14 素 もなく 事 封 家  $\mathcal{O}$ た で 話  $\otimes$ あ が具 ŋ 月 体 Ш 々 化 持 Ļ 族 5 0 で 士: あ 人 地 ý, 々 0 が 物 田 地 色 端 方 に 邸 財 カコ 界 カゝ 集 0 0 雄 0 た。 た で が あ る ま 田 た 端 ま 家 席  $\mathcal{O}$ 先 上 製

無 調 落 田 理 査 差 0 中 畑 な を を 心 0 利 L とが 昭 た 用 に لح な 和 L ころ 製 わ 7 つ た人 材 か 0 動 た。 力 は 地 何 に L 源 田 変 ろ今で に 端 0) 更することになっ 充 春 上、 って =ŧ る 氏 斯 同 計 等 様 じ 畫 で な箇 で で あ ある って あ 所 0 では た。 が 最 原 ح 西 初 木 Ш  $\mathcal{O}$ 0  $\mathcal{O}$ 候 た 0 渾 め 補 河 輸 地 流 に は 確 は Ł 潮 か 不 和西  $\mathcal{O}$ 便 川 歌 干 な 満に ŧ らところ Щ 市 大分遡っ 大きく · と 聞 カュ 11 5 影 た た 響 が 田 最 3 端 初 ħ 専 家  $\mathcal{O}$ る 門 西 かの 部 定 地 5 技 0 術 地 ょ 落 家 点 n t 差 を で 利 ず 招 用 き 0 西 Ш 0 計 下 水 河 画 流 流

3

0  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 0

座 そ  $\mathcal{O}$ 7 他  $\mathcal{O}$ ょ 町 村 12 工 ŧ 場 製 建 材 設 所 に は 取 な ŋ < か ۷ わ 0 ず かに ところ、 和 歌 山 何 . と 新 L 3 宮 御 に 坊 ある 町 とし 0) み 7 で は 予 最 想 初 外 0 12 試 骨 4 が で お あ ŋ 県 下 で は 田 辺 は 勿 古

戸  $\mathcal{O}$ 庄 余 司 材 海 に な 機 村 る 氏 械 が を  $\mathcal{O}$ 新 宮 熊 日 野 県 移 Ш 林 下 入 業 で 最 誌 ŧ 御 に 製 浜 よる 松 材 業 原 ٤ 0) 土 進 堤 明~ん 治二十七年十二月のことで、「八九四年」 工 場 を 設 け た に は じ ま には る 新 ľ لح め 宮 あ て製材会社 V) 0 富 豪 工 場 で あ 5 つ 0 た、 創 11 工 立 さ 場 熊 لح 野 n L 屋 た て 栄 0 介 は は 氏 明が 近 治江 刊

六 月 に 創 さ れ 田 垣 内 挽 材 などが 挙 げ 5 れ る

技 師 لح は ħ 角 今 は そ 南 愛 W 部 知 な 町 県 状 で 亀. 熊 余 崹 で 生を 町  $\mathcal{O}$ 無 養 鲁. 0 崎 現 て居ら 鉄 代 Τ.  $\mathcal{O}$ ょ 所 ħ E う る堅田 ĺZ 注 立文さ 進 歩 三千 れ L た 穂 同 帯 氏 工 鋸  $\mathcal{O}$ 所 は 縁 カゝ ま 近の 5 だ使用され 人と聞い 堅 田 と云う技 て 居 てい 5 る。 ず、 師 が 据 丸 鋸 付 لح け に 縦 出 鋸 で、 張 L て そ 来 n た。 ŧ 各 壱 台 0 堅 づ 田 ۷

5 0 た れ 動 が 力 は ボ ま やっと汽 1 だ ・ラー 町 内 罐 ー つ に が 電 すわ 取 気 ŋ が 0 つけるに な て、 V 時 今度は日 分 ŧ のこととて、 煙突を立てる段になって、 土 地の 佐 官 御 では勝手が 坊 町 に電 燈が わからず、 叉 点じたのは、 弱 った。 わざ ゎ 明~ ざ 治 和 四 歌 + Щ 四年 から 年。 であ 呼 んだり る。) 蒸 て 汽 苦 機 労 関 さ に せ ょ

てい 一突は ると前に云った和歌山から来たた佐官が 鉄 板 製 で あ つ た が 土 地 0) 者 に 工 費を見 積 もらせたところ、 馬 鹿 に 高く 0 < . の で、 どうし た ŧ 0 カ لح 協 議

素人だが、わしがやって見よう」

と引 受け、 無事に完成した。 これが日高郡とし て、 工. 場 0 )煙突ら ŧ 0 ۷ 立. 0 た最 初 Ć あると云 わ れ

### 4

遠 遊 V 会を催した。 ょ くこれ で工場設備 が 出 来上 り、 操業するに先きだって、 製材 所附 近 から浜  $\mathcal{O}$ 瀬 船 橋 を架け、 松原で盛大な開

0 時  $\sigma$ 記 念写 真 が 田 端 家 に 0 こっつ 7 11 た が れ ŧ 昨 年 0 水 害 で 駄 目 に な 0 た

Þ 中 マラ b さ 見 てこう 当 ま < が 0 ゅ Ĺ カゝ カュ て操 ず、 な 業 カコ 製 開 0 材 た。 始 Ĺ 工 は 第 た 製 が 材 ボ 1 工 何 し でどう云う具 ・ラー うろ御  $\mathcal{O}$ 燃 坊 料 で は は 合に立 初 挽 粉 8 を用 7 鋸に木を当てがうてよいか 0 事 い た で が、 あ ŋ, 鑵 焚 職 介き自 工 ŧ 未経 身 が 一颗 わ 者 挽 からず ば 粉 を カコ تلح り の 若労を重ね 0) 集 程 で、 度 に 焚 は じ 11 て 8 ょ 0 Š 11 5 ŧ は  $\mathcal{O}$ 

ŋ 頃 氏 日 か 築 高 が 地 しこう 実 あ 方 に 心 ŋ 0) ょ 製 期 た 材 何 す 創 れ 界 る 全く ŧ) 0 業 所 期 大 あ 献 御 0 職 苦 る 工 所 身 小山 £ لح 的 となり、 ŧ, して付 0) に ۷ 仂 如 着 1 < た。 Z V 目 克 た 下 普 そう 大阪 服 人 通 Þ L 人と ĺ で て 市 あ て に 次 は 給 る 居 第 態 料 5 に が 度が 発 を貯蓄 れ この 展 る上 違 l 0 て行 人 田 てい 達 楠 つたが 後年 松氏 は たと云う。 揃 や、や、 各 V ŧ Þ 東岸製 独 揃 当時この 0 立 って、 L 材 て 日 常 工 所 人以 0 高 場 東岸氏 主 製 材 لح 上 に 所に な 強 0 . 働 壮 た 故 にい で 人とな 位 あ た つ 5 人 矢 た に L れ 張 そ た三原 ŋ そ れ ょ

た 次 Τ. で 0) 引 あ 抜 き 0 た をや 村 新 0 蔵 何 氏 等 れ この Ł に よっ 半 世 為 紀 日 て 近 野 高 製 村 昔 材 製 0 所 材 物 0 所 語 塩 が ŋ 路 創 淳之助 立 は さ れ 0 氏ら た た。 が ŧ 野 野 村 村 製 に 材 負 で け は るも لح 角 0 か 日 高 製 職 材 工 所 0) 賃 苦 上 心 げ を 7 育 て 成 対

に ば か りこ に 関 聯 0 あ る 挿 話 を 0 け 加 える。

する。 ね 月  $\mathcal{O}$ ば 0) 事 田 なら よく 端 日 たり 高 即 氏 生. ぬ ち 製 急進 0) 村 田 が 材 製 端 推 あ 所 材 思 居 氏 挽 る。 労仂 0 想 を カコ 6 創 訪 何 れ を る され 者 カ 立 抱 問 に社 で、 は され い ば片 前 て Ш 会主 記 居 東 隆 二人で日 Ш 0) 5 牟 - 婁か 氏 通 氏 義 れ 思 が は ŋ たと云う 想 屡 明 治 を 今 西 Þ 高 [牟婁方 田 兀 日 製 吹きこ 端家を訪 十年であ 材 で L ŧ 所 中 当 面 ま 行 0 Þ 局 進 こるが 或 れ れ、 は カン る Ш 歩 幸 ħ 的 0 林 日 · 徳 た。 高 事 幸 を な 事 · 徳 業 製 恐 思 件 すると片 ħ に 想 材 事件は、 等 所 た為で 関 0 で を見 持 係されて 極 主 Ш 端 元学され、 あ だ 明治四十三年であって 氏 に 0 が 神 に た。 居たと云うが 経 .尾 たの 渦 行 但 時 敏  $\mathcal{O}$ は 学校 しこ に 刑 なっ 事 の話 製材 卒 が 業 てい 所創 片 間 () 0 真 山 ŧ た。 この 偽 Щ 氏 立 な 数 は 氏 < は 年 間 保 非 は 日 0 学 常 高 ことで、 後 に 証 校 0 L カ 来 卒 事 難 嫌 年 業 直 な V るごと 0 顔 あ 0 何 歳 第 後 を

以上 お 0) 話 は す べ 7 田 端 春  $\equiv$ 氏 0 談 話 を 土 台 とし た ŧ 0 で、 多 少 0) 記 憶 違 N が あ る か ŧ 知 れ な 1 ことを、 お こと わ

### 日 髙 農 民 運 動

 $\widehat{1}$ 

戦争が 昭 世 和  $\mathcal{D}$ もたらした良き贈 <u>-</u> 十 中 は 面 年十一月発表された第一 白 い ものであれ 物であったと云える。 程 |惨害を世界中に撒き散ら 次農地改革 法案や昭 和 二十二年十月に公布された第 国民を苦し めた今次大戦にも、 一次農地 拾えば 改革 幾 つかの良き贈 法等 は、 その一つで今次 物があ 0 た。

土地を農民

嘗ては日高 デオロ ギーも何も無い、これ が立 程自然な要求さえ、 小作料減 戦前は不当に弾圧された。 土地立 入禁止反対を叫 世の中 も変ったものだと思う。

もそれ からまだ三十年とはたってい ない、 ほんのこの 聞 の出 [来事である。

2

平

野

0

角に莚旗

ち、

免、

んで地

主と農民が鋭く対立した時

代

が

あ

町 当時 0  $\blacksquare$ 淵 湯 栄次郎! 沠 村 小 松原の 氏 其 0 橋 他が 本太次兵衛氏、 近郊での大地主として聞こえ、 藤 田村藤井瀬 戸佐太郎氏、 いづれも数十町歩に及ぶ広大な土地を所有していた。 同じく瀬戸健三氏、 塩屋村北 塩屋 0 山田栄太郎 氏 御 坊 町

野 地 ーでも に o橋本氏 田 地 の如きは盛時七 五. 六十 虰 歩と云うの 十町歩から百二十町歩の田地を持ち、 が最大で、 百町余と云う地主はなく、 県下第一の大地主と云われた。 県下 等の地、 主と云うの 事実紀の ŧ, 強 ち Щ 筋 誇 張 0 あ の言 0 では 広 11 な 亚

かった。

姓も多かった。今昭和七年、当時野口村尋常高等小学校長であった佐竹義一氏等によって編纂された(日本第11年) 従って此の反面、実際に仂いて米を作る農民の多数は僅かばかりの土地をもつだけで、中には全く土地を持たぬ所謂純小作百

野口郷土調査」中、 産業経済の項を見ると

2 土地所有の 自村持、 他村持の区別として、

次の ような表を掲げ、

自村持

他村持

田 壱○弐町

七弐町二反六畝

宅地 畑

五壱町壱反 八町六反

山 林 **壱六六町壱反** 参町壱反 壱町八反

七町六反

我が村の生命線は田にあることは、

いると云うことは、 甚だ残念とである。この表を見て、 発憤せざる者はなかろう。

前の統計によって明かとなったが、この生命線の半分近くも、

他村の人に所有有されて

と説き更に、

3 自作、 小作別

自 作

五町三反 九八町九反

農家全戸 数数 二四八 畑 田

一八町三反

三一町四反

自作戸数 四〇

小作戸数 八〇

小自 作兼戸数一三二

地 戸 平均 九 反 歩

と説明し、

自作地より小作地の方遙かに多いことは、何より残念である。なんとかして小作地を全耕の三分の一位にしたいものである。

五年計畫で二分の一にし、十年計画で三分の一位にしたいものである。

とこの熱心なる教育家は憂えているのである。 ったりのものであったと思う。 然しこれは何も野口村だけに限ったことではなく、 全国の農村は、 大体似たり

3

麦二石位について壱ヵ年壱石二斗乃至四斗であった。)お負けに絶えず災害があって、 て大部分の農民 の、 年中  $\mathcal{O}$ 労働 の結果は税金にとられ、 年貢に消え、 (当時の年貢は上田で大体一反歩 啄木の歌ではないが、 仂けど仂けど貧しか の収かく米三石

これではならぬ!

かくて結成されたのが湯川村小作農民組合であった。 流石に辛抱強い、 保守的, |川村小作農民組合であった。大正十三、四年頃のことであった。組合長は湯な農民の間にも何とかして局面を打開せねばならぬと云う気運が高って来た。 組合長は湯川村小松原の大島吉松氏

であり、会員数約百名、 原則として湯川 村居 住の小作人を以て組織するもので、 難し い会則もなく会費も紙代として

らいを徴収する程度で、その目的ところも、

凶作時の年貢米軽減の嘆

| 原

組合員中、 年貢問題等で土地を取り上げられたものがあっても、 其の田地は他の組合員が抜馳け式に耕作しない。

三、電柱等を耕地に立てれた時の交渉。

あった。 と云うような単純なものであった。 勿論中央とは 何 0 連絡もなく、 思想的 な色彩も帯びず、 極めて自然に生 れ た民 主 前 な組合で

香川、秋 ことを考えるとき、 然しこの小さな湯 田、 畄 山 日高郡の農民運動史上乃至計会経済思想史上、 新潟の諸県下の小作争議と共に、全日本を震憾させた、全国農民組合和歌山県聯合会日高 洴 村 小作農民組合こそ、 数年ならずして、組合五百名、 看過し得ないものがあると云わねばならぬ。 日高平 野の殆んど全村を席巻し、 争 同 議面 盟 母胎 である 町

4

が尖鋭的な組合運動に、 さてこうして結成された湯川村小作農民組合は、いずれは組織的、 おもむ 題であった。 かしめた直接 もう一度当時の概況を記すと の動 機は、 嘗て本紙上に 戦斗的な農民組合に発展す可き運命のもとにあったが、 御 坊臨 港鉄道 創設秘話」 として書い た通り、 臨港鉄道 之

敷設に絡む、 工 された。 年から四年へかけて、小作補償問題であった。 この時 小 作 人側は小作権 紀勢鉄道が南 0) 確立を叫び、 下し 御 :坊駅の□が起され 坪当り五円の 賠償を要求したが会計側が た。 続 V . T 駅 前 道 路 が 改 修 蹴した。 御 坊 臨 港 鉄 道 ŧ

小

側

以は単独

で

戦

0

たのでは

勝算なしと見

て、

組合長大島吉松氏

は、

全国

[農民組合和歌

山県聯合会に

. 応

援

を

求

そ Ш  $\mathcal{O}$ 折  $\exists$ 鋭 後 を 高 が 経 同 昭 残 盟 7 せ 和 さ 約 な 兀 0 れ 結 け年 た カ 成 年  $\mathcal{O}$ L 斗 月 に は 争 0 近 及 組 能 代び 合 的 を で 長 組 結 あ に 確 織 局 は 立. 0 を 坪 さ た。 £ 当 き ŋ ち、 0) 湯 か 柚 湯 < Ш 償 中 Ш 村 7 央の 金二 村 財 小 部 刻 政円 作 全 と 굸 治 小 農 農 教 民 松 和 う、 育を受け 組 原歌 合 Ш 当 長 西 県 時 で 富 聯 とし た戦斗 あ 安 合 0 及 会 て た び カン は 的 大 志 6 か な 島 賀 農民 な 吉 村 組 ŋ 松 谷 合 有 組 氏 遊 利 合で 0 説 を な 推 兀 部 条 あ 支 長 件 L 0 た。 部 伊 た。 で 解 を 勢 ŧ 幸 決 0 太 0 を 斗 郎 見 争 全氏 た 玉 其 は が 農 様 0 猶 Þ 民 他 0 組

時 は あ た カコ ŧ 帝 玉 主 義 0 満 州 侵 略 が 始 ま る 直 前 で、 国 内  $\mathcal{O}$ 商 工 業 は 極 度 に 萎 靡 し、 全 玉 0 農 村 は 不 況 0 تلح W 底 に あ

0 た。 各 市 で は 峻 烈 な 官 憲  $\mathcal{O}$ 弾 圧 に t 屈 廿 ず 果 敢 な 労 仂 争 議 が 展 開 L 地 方 で は 農 民 運 動  $\mathcal{O}$ 政 火  $\mathcal{O}$ 手 が 燎 原  $\mathcal{O}$ 如 < 燃 え さ

0 で 臨 あ 港 0 問 に 題 た で 成 せ 果 1Z を 举 げ て 結 い 束 を 強 古 に L た 組 合 は 0 ゞ い て、 そ 0 鋭 鋒 を、 日 高 平 野 0 地 主 階 級 に 転 ľ 7 せ ま 0 た

組 カュ

合

員 7

影 た

響 時

ず

は

1

な

0

11

代

で

あ

る。

こう

Ĺ

た

状

勢

が

既

に

臨

港

間

題

で

実

際

的

な

斗

争

を

体

験

中

央

0

治

教

育

0

洗

礼

を

受

け

た

料 を 負 け ろ !!

小小 作 料 を 兀 割 乃 至 五 割 減 額 せ ょ

ŧ 地 لح n 主 に が لح そ お 百 L  $\mathcal{O}$ て 度 旗 は な 印 到 踏 で 底 あ W 応 で、 0 た。 ľ 5 ょ n う 即 X B b 性 *₹* 昭 質 和  $\mathcal{O}$ 斗  $\equiv$ もか年 0 度 で 斗 あっか 0 年 作 た。貢 米 を  $\mathcal{O}$ 負 減 ま免 け を て 要 ŧ 求 5 L た う  $\mathcal{O}$ と で 굸 う あ 当 る。 時 然 に あ L つ小 7 作 人 そ が れ暮 は夜 破ひ 格 そ のか に 申 出 で 地 あ 主

調 杳 が 7 に 日 ぞ 高 小 作  $\mathcal{O}$ 地 対 方 争 議 策 で 0 ŧ) 腐 火 斯 蓋 心 < は L あ 切 0 る 6 ۷ べ あ L れ 0 と予 た 年 貢 想 米 L 0) 共 当 同 時 不 最 納 ŧ が 小 始 作 ま 争 0 議 た。 0 劇 昭 L 和 カコ 兀 0 年 た 秋 香 カコ Ш 6 地 暮 方 れ に 0 事 S で そ あ カコ る に 派 方 地 審 主 に 側 状 で 況 ŧ を

に 折 か 非 < う て 組 な 合 昭 員 和 ŋ 告 兀 色  $\mathcal{O}$ 状 Þ 年 が の作 秋 発 方 か せ 法 カコ 5 ら を b は れ 試 は ľ 例 ま 4 0 た 年 がのた 诵 小 ŋ 作 組 合 年 米 員貢 不  $\mathcal{O}$ が 納 納 結 問 ま 束 題 は 0 は 固 た が 年 カュ 0 が た 組 明 合 け 員 7 小 カ 作 5 問 昭 は 和 題 は 五. 合 次 年 第  $\mathcal{O}$ に 米 な に 深 ŧ) 0 刻 納 た ま な が 様 5 相 ぬ向 解 を 呈 地 決 主 L 0 7 側 兆 来 で は は見 勿 え 続 論 な か 11 個 7 Þ 0

催 告 人 被 催 告 人 = 対 テ 末 尾 記 載 土 地 ヲ 末 尾 記 載 1 賃 料 テ 毎 年 + 月 末 日 限 IJ 催 告 人 = 支 払 フ 丰 約 定

知 玄 テ 米 賃 貸 斗 致 八 居 升 候 ヲ 処 御 催 支 告 也 払人 相 7 成昭 度 和 若 兀 シ 年 右 度 期 賃 間 貸 御料 支 支 払 払 無期 之 限 時 ヲ ハ 経 該 渦 賃 セ 貸 ル 契 = 約不 ヲ 拘 右 御 期 支 間払 満 無 之 了 候  $\vdash$ 同 就 時 ハ 二本 解 催 除 告 可状 仕 到 候 達 間 後 右 五 様 日 御内 承 二

昭 和成 五. 年二 月 七 日

相

度

此

段

催

告

候

日 高 郡 湯 Ш

大 字 字甲小村 小野 松 原

Z 亚

高 郡 湯  $\prod$ 村 大 松 原 \_\_ 七 五.

日

大 島 岩 吉 殿

件 表 示

日 田高 郡 湯 Ш 村 小 松 原 西 坪 三  $\bigcirc$ 兀 番 地

 $\equiv$ 畝十 -七歩 1 内 西 方一 畝 二十 七 歩

ケ年 7 料 尖线斗 八 升

便 物 書 昭 和 留 内 五 容証 年三 月 明 郵 八 日第五 便 } シテ差 九二 出 シ タ ル コ 1

ヲ

証

朋

ス

本

郵

和 歌 Ш 県 御 坊 郵 便 局 長 (印)

判 0 کے て 告 H 所 n 12 状 ま は 提 で 訴 は 容 に 起 全. 訟 易 さ 係 は 年 な れ 昭 争 6 貢 た 和 組 を め 合 納手 五. 年三 段 員  $\Diamond$ E であ め 月、 場合 発 送さ る。 は 大 阪 れ П 頭 地 賃 貸 そ ع 方 Ū 契 裁 は て 約 違 判 悉く 所 を 11 Þ 解 無 属 除 後 視 辯 す 日 ž る そ 護 れ 士 W た。 毛 即 な ち 利 事 続 清 土を VI 地 聞 太 郎 7 を い 来 取た 氏 る が 上 لح ŧ げ 原 カン 告 る  $\mathcal{O}$ 聞 は 地 ぞ か 主 لح め 側 土 予 لح  $\mathcal{O}$ 地 告 カコ 代 返 有 L 還 理 た 無 人 並 t を と び  $\mathcal{O}$ 云 L に で せ て 賃 あ ぬ 料 る 方 請 法 和 歌 求 此 で 山  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ あ 無 区 訴 n 地 訟 方 で 味 指 あな定 裁

蔵 ŧ 0 لح ŧ, 事 切 抜 態 がこうな る 0 地 主 称 側 は ŧ 共 同 体 制 を とる 必 要 を 感 じ、 新 に 昭 和 土 地 合 名 会 社 を 設 <u>\f</u> L た。 大 島 吉 松 氏

昭 和 土 地 合 名 会 社 所

 $\mathcal{O}$ 

新

聞

に

よると、

会

社

名

催 期

と あ n 事 所 を

御 坊 町 大 字 薗 六 七 番

に 置 代 表 社 員 に 志 賀 村 小 地 池  $\mathcal{O}$ 

が 就

湯川 村 亦 ·松原橋本太兵衛、 林 出 精

藤 田 I村藤井· 小 池道子、 瀬戸 .長兵衛、 瀬 戸 健三、 瀬戸 佐 太郎 瀬 芦

御 坊 町 野 村正 郎

Þ の諸氏、 御坊町附近の大 地 主の名が見え、 発 記 年月 日 は

昭 和五年四 月二十三日

となっている。

訴訟状には原告として、 然しこれは設立当初の人数であって、 全郡民環視の真唯中で、 橋本太次兵衛氏外七十三名が名を連 悽愴な決戦となったのである。 その後次第に地主側 ね の人数も増 被告組合員は四 加 ľ 又一方日本地主協会にも加盟。 旨三 十九名に及んでい る。 か その後の土 くて愈々こ 0) 地 両 返

6

営は、

す ^でに矢は弦を放れた!

作しよう。 即 殊に小作争議のように多分に社会的問題を含む訴訟については、 ち 地主側 それも愚図 は、 面倒な事を云うて、 くく云うなら己むを得ない。 年貢米を納めぬ 法廷で決着をつけよう。と言う訳であった、 なら、 よろしい、 慎重を期する必要があった。 田地を返して貰おう、 我々が設立した土地会社 然し裁判 所はそう簡単に の手で耕 運ばな

その 間 品にも年 - 月がたつが、 農民側は依然として耕作を続けている。そして一定の年貢米だけ は 自 家 に 保 有 L 7 11 る。

こうした農民 を一撃するには耕作させないことである。

かくてなされたのが、 立 毛 差押え、 土地立入禁止の仮処分申 請であった。

ある 立 から、 )から、小さく人は死命を制|毛差押えは文字通り稲なり はなり、 せられる結果になる。 麦なりの 立毛を差押えてしまうことで、 小 作 人も 地 主も自 由 に 収 か く出 来 ぬ 仕 組 で

また立 ·入禁止 2先ず小さく争議が辿る常道で、全1やも土地を生命とする農民としては、 一は係 争中 -の地所 を、 執 達吏が職 咽 喉 権によって立入りを禁止するもの 首をおざえられたと同然となる。 で、 無 論 地 主 Ł 小个 小さく人 ŧ 立 入 れ

な

を立 起 以 は させる のであ る。 させな V か は、 争 議 全国 の一つの の 各小さく争 山ともなるものであって、この小さな札を撓っ小さく争議は何れも斯様な順序で、展開して 議 何れも 斯様 な順序で、 来たも り、 屡 々流  $\mathcal{O}$ あ Ш. る。 0) 事を

参考の ため、 立 入 禁 止 札 'を掲 げ Ĺ S う。

処 か t 0 ともこれ 紛 れ てわ から は、この な 争 議 0 札 では な それ は 最 近ま で 旧 組 合長大島 吉 松氏 が 保 存 てい た 昨 年 水 「 で 何

那 賀 郡 東 (志村大字高 五. 番 地

田 反二十三歩

ヲ破毀シタル 右假差押 物件ハ本職 者 「 ハ 刑 罰 占 処 有 セ = ラ 属 ル スルヲ以 テ 何 人 1 雖 モ 之ヲ処 分ス ベ カラズ若シ之ヲ処分シ又 ハハ此 公示札

右公示 ス

昭 和五年五月十 五 H

和 Ш 区 裁 判 所

達 吏 何

方 け農民組 L小さく官と言うのを置いた^^^#mm(です)が此処に面白い話がある。...(民組合側は、やがてこの事 あ と言うの るべ しと予想し、 は当 時 政府は各 は各地に頻発する小さく争議を憂え、全力を挙げて情報を蒐集し、警戒を台 警戒を怠 これを緩和する目的 らなか

県ごとに 山県 0) さく 官 は 高 木 其 ک 言 0 た た。 が 争議化の 0) 人が 以前 どうし に地主と小さく人の意見を聞 た 訳 か、 職業的 意 識 を離 き、 れ 終 が始日高農民知調停するのが が 組 目的で、 合 に 同 情 あ 0 的 た。 <u>\</u> 場 和

とった。

島

松

氏

愈 々日 えを訪問 高 平 野 0 争 議 第 口 <u>\f</u> 入 禁 止 が 執 行 さ れ ると 定 ま 0 た 二、 三 日 前 高 木 小 さく 官 は S そ か 組 合 長 大

日 高 を 地 方 て、  $\mathcal{O}$ 立入禁止 傷害罪 などに は、 多分六 め 月 よう、 日 う 頃 ま E く排除したほうがよ 行 われる見込であるか かろう。 組 合員 は 警 戒 を厳 重 に 余 ŋ に 乱 暴

きだろう。 と予告 氏 は、 ī のた。 点 此 は 0) 0 話 き ŋ は 果 明 た 言 して県 て VV 0 る 小さく官 事 実 第 が 左様な言辞をなしたか如何 口 立 入 禁 止 は 事 前 に 洩 ħ 7 失か、 敗 少 L ĺ 7 疑 1 る わ 点 L カ い が、 5 考 え 当 て 時 事の 実 組 合 す 長 大

に角こ 情 報 を 0 カュ W だ 組 合 側 は

吏来 る !!

を を各地に飛ば、素破こそ執達さ し、 極 秘裡 に 会合して対策 を 練 0 当 時 農 民 組 合 日 高 同 盟  $\mathcal{O}$ 傘 下 あ 0 た支 部 は、 日 高

湯 ][[ 村 小 松 原 支 部 財 部 支 部 西 富 安 支 部 志 賀 村 谷 П 支 部 内 原 村 高 家 支 部 藤  $\blacksquare$ 村 吉 田 支 部 野 П 村 野 П 支

少 L 離 n て

稲 原 村 切 山 支 部 切 目 村 西 地 支

他 と  $\mathcal{O}$ 九 農 組 民 合 ŧ を 又 数 え 終 始 組 協 合 調 昌 的 兀 な 百 態 度 + を 九 持 名 L 誇 意 称 気 五. 当 百 Tたるべ 争 議 か 面 5 うざる 百 Ŧ 町  $\mathcal{O}$ 歩 が あ そ 0  $\mathcal{O}$ た。 他 御 坊 町 薗 及 び 島 和  $\mathbb{H}$ 村 入 Щ 其  $\mathcal{O}$ 

思う T 理 1 由 が た が 事 あ で とに が ろ ぅ 言 角、 が 与 付 0 記 ک 日 て L 高 力 れ 7 地 あ お ょ 方 0 n き 0) た IJ た 社  $\mathcal{O}$ 前 11 会 事 で に 運 あ は 行 動 ろうと思 わ  $\mathcal{O}$ れ 各 黎 た 支 明 部 積 は 善 わ は 先 れ 運 所 ず る 動 謂 水平 未 何 当 解 運 れ 時 放 動 0) 部 は に 日 水 落 ょ لح 高 平 0 運 言 地 7 動 わ 方 ŧ  $\mathcal{O}$ に れ たらさ ょ 積 た 0 地 善 て、 に 運 れ 動 多 たことを 史 封 V لح لح 建 言 思 言 想 う 0 銘 た打 事 記 ŧ, 破 実  $\mathcal{O}$ に で 7 Ł 実 あ お 践 る きた 書 的 11 斗 い 争れ 7 見 を は 経 た 色 々 11 験 لح L  $\mathcal{O}$ 

が 汽 車 で 来 る  $\mathcal{O}$ カコ そ れ 共 汽 船 で 来 る 0 かと 言う点で あ 0 た。

さ

て

話

を

ŧ

とに

戻

L

て、

立

入

禁

止

 $\mathcal{O}$ 

Н

は

せ

ま

つ

た。

ح

0

時

番

問

題

لح

なっ

たの

は

執

達吏

は

和

歌

Щ

から

来

る

 $\mathcal{O}$ 

だ

れ

ば そ 各 で 組 合 側 を は、 乱 打 御 L 坊 駅 法 に 螺 主 貝 力 を を 鳴 置 5 き、 L 急 を 方 告 御 げる事 坊 港十 を 本 申し 松 附 合わ 近 を せ ŧ た。 警 戒 す る 事 に な 0 た。 亦 愈 々 執 達 吏 来 る ع 見

た 訳 で 体 昭 章 あ る。 和北部 五一の 年章鐘 は 早 魃 で あ 0 7 六 月 Ł 半 を 過 ると云うの に、 日 高 平 野  $\mathcal{O}$ 水 田 は 水 が 乗 5 な カコ 0 そこを ね 5 0

阪 側 知 ね 5 カコ \$ ば 論 な な 5 或 地 沖 程 b 主 度 め 側 仲  $\mathcal{O}$ ŧ 士 実 4 0 万 力 善 屈 L 事 強 を を  $\mathcal{O}$ 用 前 期 者 意 に L た。 数 す 知 る 名 n を 必 た 第 とす ょ 要 が 札 W だ。 あれ を ば 0 立 た。 又 7 玉 殺 る 粋 気  $\mathcal{O}$ だ 슾  $\mathcal{O}$ は 為 0 執  $\mathcal{O}$ そ た 猛 行 の農 者 吏 民 だ  $\mathcal{O}$ 前 応 日 は が 援 六 月 勢 を 立 求 + 0 7  $\Diamond$ 九 赴 る 日 て < べ 御 夜 処 き شل 坊 田 町 地ん 地 内 主な を に 側 事 教 は に 待 え 機 御 な ね さ 坊 ろ ば Š せ 町 な た 大か 5 لح 西 Ł ぬ 云 屋 知 う 旅れ 札 が 館 め ŧ に か 事 会 そ 0 合 0 で 真 で 地 否

は

大主か

明 執れ ば 昭 和 五. 年 六 月 日 未 明 午 前 兀 時 頃 あ 0 た 云 う。 御 坊 駅 前 集 結 た 本 部 に

達 吏 御 坊 港 に 来 る !

報 が 入 0 続 V て、

自 動 車 に て 湯 Ш 方 面 に 向 0 た

度 0 第 報 連 が 飛  $\mathcal{O}$ W 自 だ 転 車 忽 は to 燕  $\mathcal{O}$ # よ院 う  $\mathcal{O}$ に 鐘 飛 が W 狂 だ。 い 0 待 ょ 機 う し に 7 乱 11 打 た さ 農 n 民 た。 は H 斉 高 に 亚 行 野 動 初 を 夏 おこし 0 ゞ ま を 破 つ 7 法 螺 貝 0 音

札 を <u>\( \) \( \) \( \) \( \)</u> 7 さ せ る ナ !!

立 入 禁 IF. を 粉 砕 せ ょ !!

農 民 は П Þ に 叫 び な が 5 執 達 吏 \_\_ 行  $\mathcal{O}$ 来 る を 今 お そ L と 待 ち カコ ま え た

### $\overline{\phantom{a}}$ 来 た !!

野 誰 街 カコ 道 ヹ か 叫 5 W だ。 東 に 析 見 れ ょ て、 ! ょ 駅 う 前 B 道 < 路 明 に け 入 W 0 لح す る 県 道 熊 野 街 道 を、 台 0 自 動 重 が 埃 を 巻 い 7 北 上 L 7 来 る。 自 動

が

熊

ソ レ ツ

あ群 n 員 彐 動 に  $\mathcal{O}$ 1 車 た 衆 沂 手 は ŋ は で 今 で 組 11 彐 t لح 軽 Þ 合 懸 0 旗 Þ 進 今 が لح を 声 ts L 先? あ 差 ŧ) 4 0 ろ لح L 車 登頭 たろ لح 上. ŧ を に ŧ げ 退 降 Ś b < *(*) 疾 Ł 事 て れ 風 لح t 0 熊 0 で 強 ょ 熊 き う 野 引 野 な に 街 12 街 道 < 禁 馳 ま 道 な 止け で ま 0 札 だ た。 運 で を L 押 立. ば 潮 n L て 11 き ょ た 戻 0 لح う L V) 如 て 立 لح 云 < う す L 0 自 ま が た る 動 0 車 た。 そ 同 行 12 を、 殺 n は Ł 此 到 工 ン  $\mathcal{O}$ 僧 少 L ジ 時 L 悪 た 大 見 ン 12 袈 物 0 燃 5 裟 止 え L ょ だ 7 0 た う た 大 度 が 11 今、 た 自 衆 人 動 大 は 衆  $\mathcal{O}$ 車 南 身  $\mathcal{O}$ 話 を 海 怒 で 包 を < え ŋ は 开 ŧ 0 L 0 W 発 自 7 7 酸 す 動  $\exists$ 瀌 工 る 車 1 場 0 た。 シ 処 は 0 組 彐 あ 合 自 そ る

Щ 沂 カュ 駅 辺 < 前 方 に 7 待 御 面 坊 に 機 駅 は 中 の前 既 に 組 方 警 合 面 官 員の に立 隊 よ入 が ク禁 物 て 止 強 Þ L 車 行 < を は 動  $\mathbb{H}$ 員 中不 さ に能 投 n لح た。 見 げ だか 入た 地 ĥ \_\_-主 れ 行 側 た は لح り、 さ 農 b 民 色 に 側 転 Þ 0 0 ľ 揉 事 て 4 が 西 合 あ 富 11 つ安 が た方 始 が面 0 に た B 向 が 0 た。 7 西 富 然 安 L に ح 着れ 11 ŧ た 途 中 元 来 丸

粉 砕 ıŀ. 処  $\mathcal{O}$ 分  $\exists$  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 西 富 あ 行 0 は 安 た。 方 遂 面 だ に 不 け で 成 な 功 Ĩ, に 終 御 0 た 坊 駅 組 前 等 合 に 側 参  $\mathcal{O}$ 集 言 葉 L で云 た 農 ż 民 ば に ょ 0 小 7 作 農 民 地 0 主 総 側 は 力 多 は 少 見  $\mathcal{O}$ 事 負 傷 に 地 者 主 さ 階 え 級 出  $\mathcal{O}$ L 暴 虐 土 手 地 段 寸. 入

は

土

木

Ι.

事

な

تلح

に

従

う

人

が

多く

気

 $\mathcal{O}$ 

あ

5

1

土

地

5

まら

な

V

忽

5

乱

斗と

な

0

た。

挙 云 to Š 事 カン う 0 7 当 n 争 日 日 議 御 検 坊 は 戒 束 駅  $\mathcal{O}$ 留 前 0 4 置  $\mathcal{O}$ を さ 中 山 終 れ 4/1 を 始 る 越 に 者 L L 集 干 兀 た 結 渉 + に 数 た は 名 L 至 事 官 御守ら 件 隊 警询な は は 察察か 解 署置つ 決 開た 御 1 設 が 坊 た 以  $\mathcal{O}$ 来 캪 察 で 0 署 は 騒 + 管 な 勤 内 い で 日 0 あ カコ 否 0 5 官 ょ た 約 を 1) 総 深 凋 動 刻 員 間 陰 に L 惨 百. た な n が 対 立 相 他 に 管 移 11  $\mathcal{O}$ 行 応 で L 暴 援 た 行 は  $\mathcal{O}$ 組 な で 合 カ あ 0 る。 た 0 検 لح 即

と云う。 制 止 す ょ ŋ 、なかっ ź き、 農 もつ 民 組 ともこ 合 側 ŧ ħ 不 は 測 組合  $\mathcal{O}$ 事 員 態  $\mathcal{O}$ 所  $\mathcal{O}$ 業のみでなく、 発 生 を 憂 盧 し、 応援乃至見物に集まっ 組 合 員 の自 重 を 要 望 た Ļ 群 衆中 直 接 にも 行 動 を 狼 籍に 厳 戒 及んだもの L たが、 が 11 赴く あ 0 所

部隊 を主力とする犠牲 に し農 民 側 は 者 1奪還 又新 隊 を組 V 戦 織 11 Ļ を 展 御 開 断坊署に した。 押 即 し寄 5 全農 せ、 日 検束者 高 同 盟 0 婦 即時 人部 釈 は、 放 を叫 直 5 んで、 に 犠 座り込みを行っ 牲者家庭 0 救 恤 に 当 た る 方 婦 人

れ 杉 Щ 数名の者は 元治 論それは 郎先生 聴き入れられるよう筈は さその は じめ幹部が続 ま らっ起 訴 パ々つめ 後五十円の かけ、 な の保釈金 弁護士吉田健 当時検事 を積 ·拘留 んで漸く假釈放をみた。 氏 0 期間は四週間 (現兵庫県選出右派社会党代議士)を中心に法廷斗 でらいであったと思うが、 この報一度傳えられるや、 期 間一 中央 ぱ か い ・争に入った。 Ď 拘 は 留 全農 0 上 組 釈 合長 放

行 0 ここで少 ぐうた ĺ 5 横 な男であ 道 に 入る る。 が、 従 杉山 0 て 元治 青 郎 年 先生の 時 代 か 思 5 出 何 を語りた 0 地 道 い。 な 勉 もともと私 強 をせ ず、 は、 或 時 よく云えば多情多感 は 口 ク でも な 1 文学に 遊 本当 は 薄 或 時 志 は 弱

社 会思 想 に 影 \*・た - 三 c Ŧī.0

あ 員 こに こうし 5 0) ヒ 口 害 杉 て 飛 Ш 1 ・ツク 元 何 び 治 時 廻 な行 لح って聞 郎 は と云え 動 な じに 12 11 た。 ば、 共 年等 鳴 杉  $\mathcal{O}$ Щ 或 全. L 小 [先生を たもの 国 晚 作 農  $\mathcal{O}$ 争 如 民 議 き 知るに及ん であっ 組 0 は二 合長とし 頃 は 里余 た。 5 よう それ で、 かも て、 ど私 で自 先生の崇高 あ 日 る 本 0) l 分自· 稲 中 二 十 原 0) 身 村 地主 才 な人格と高 切 前 坪 Ш 一階級 後 0)  $\mathcal{O}$ 0) 耕地 青 か 生 年 らは蛇 意 ŧ 邁な識見に深い -会場ま 気 な 盛 V か ŋ くせ 6で行っ .. つ の で、 に、 如く恐れられ 忽 たことも 5 農 敬仰を覚え 争 民 議 組 に 合 あ 心 0 つ てい たの を た。 演 説 S カン が で れ あ あ ると、 所 0 が た。 組 実

生 0) L ょ ろ、 う な この 柔 和 弱 な マし 眼 Š Щ さえ見える体 羊 ・を思わ せ るよう 駆 のどこに、 な温 和 な あ Π, 0) 熾 唇を 烈な斗 ついて出る言葉も決して過激なものでは 魂があるだろうかと思う程 であった。 な か 0 た。 先

際

は

よう

洒

たる

单

年

. 紳

士

で、

その

風

貌

にも先

駆

者

0)

常

として、

どこかに一

抹

0)

寂

寥の影をたゝ

えてい

た。

市  $\mathcal{O}$ 何 で 生 ŧ を 途 に 訪 な る て、 私 は 聞 す V 0 て貰 か 'n 先 0 たことも 生 傾 倒 あった。 L て、 その 頃今か ら思うと何 でもない 悩みだが、 わざ わざ大 阪 郊 外 布 施

私 を 快 IJ < ス 迎 チ え ヤ ツ 7 で ラ y, g め 悩 4 歯 É 科 親 医 切 で E あ 聞 り、 て呉れ 全国 農 た。 民 組 合 長 で あ 0 た 先 生 は 忙 L い 時 間 を 割 11 て、 0 田 舎  $\mathcal{O}$ 風 来 坊 0

機 は そ 憶 は あ る ŧ 年 が 昨 私 年 は 秋 久 で あ Þ · で 先 0 た か、 生  $\mathcal{O}$ 温 杉 Ш 容 に 先 接 生 は L 私 往 0 年 村 0 0 お 中 礼 学 を 校 申 で 上 丰 げ IJ た ス 1  $\vdash$ لح 教 考 0 え 講 7 演 をさ い た が n た。 俄 に ŧ 病 と を ょ 発 ŋ 先 L 遂 生 に

Š 論 之 は 私 0 独 断 に 過 ぎ な い が 杉 Ш 先 生 0 農 民 組 合 運 動 は 所 謂 イ デ オ 口 ギ Ì 的 方 面 か 6 来 7 る と

 $\mathcal{O}$ う Ĺ び ず n 起 ŧ 5 上 む 6 1 れ ろ た ク ŧ ij ス  $\mathcal{O}$ で } は 教 な 的 か 人 0 道 た 主 0) 義 か。 に 根 た ŧ 0 で、 神 0 福 音 を伝 えるも 0 لح 同 胞 農 民 0 窮 状 見 る

9

閑 話 休 題

公 紃 さ が て 御 騒 坊 が X L 裁 カコ 判 つ 所 た 法 六 廷 月 ŧ で 開 過 ぎ か れた。 七 月 ŧ 越 え 依 然 両 陣 営 が 無 気 味 な 睨 合 を 0 ゞ け 7 る 八 月 に 入 0 て、 事 件 第 口 0

公判期日召喚状

日高郡〇〇村〇〇〇〇番地

被告人 大野小一

右 暴 力 行 為 쑄 処 罰 = 関 ス ル 法 律 違 反 被 告 事 件 = 付 昭 和 五. 年 八 月二 + 日 午 前 九 時 公 判 開 廷 侯 条 当 庁 刑 事 法 廷 = 出 頭

可

有之候也

召 喚 = 応 ゼ ザ ル 1 丰 ハ 刑 事 訴 訟 法 第 八 + 六 条 二 依 IJ 拘 引 状 ヲ 発 ス ル コ 1 ア ル べ シ

昭和五年八月七日

御坊区裁判所

判事 菅原二郎

明 以 カュ 上 で は な そ 11 0 لح 無 き 論  $\mathcal{O}$ 公 召 判 喚 状 は 幾  $\mathcal{O}$ 度 写 ŧ で くり あ つ カン て、 えさ れ れ に 御 ょ b, 坊 法 廷 第  $\mathcal{O}$ み 口 で 公 なく、 判 が 八 田 月二十日行 辺 法 廷 で ŧ わ 行 ħ わ た れ 事 た。 が 知 5 れ る が 判 決 0 日 が

な ح が れ 以 に 下 対 は L そ 地 0) ŧ う を農 ち最 民 t は 劇 ŧ 的 とよ な り、 コ 7 僚 である。 友 組 合 の 応 援もあ b, 中 央 0) 緊 密 な 指 示で抗争をつゞ け た こと は 言 Š ま で

×

X

 $\mathcal{O}$ 77.  $\mathcal{O}$ 時 夜 入 群 昭 にここに 禁 7 Þ が 和 声 止 集 か 五. り、 ま に 年 会 向 + 0 二 十 合 月 な カュ 0 た 0 L た集会 たの 執 + 日 幸 日 聞 午 は 深 こえ 吏 前 届 更、 零 行 る 所 は :時と1 轄 を迎 折 0 L か は 7 田 言 え 5 た 1 辺 うに、其 撃 Ľ な 区 0) 闍 W 裁 0 た、 判 を冒 暗 そん 黒 所 0) ヘデ 全 0 L 数百二十 国 磯 な 7 事 モ 農 塩 を 屋 碎 行 民 す 進 組 村 け ·名を超 大字 を 合和 る れ 行 浪 ば 事 V \ 南 音 歌 えた。 ば 前 Щ 塩 組 県 屋 か に 聯合会 合の ŋ 発 尾 覚 で 0) れぞ過ぐる 崎 名 あ L 弾 る に 日 海 ょ 岸 圧 高 る大 に、 さ B 同 が れ 盟 五. る 衆 何 て 傘 月二十 に 全 抗 下 処 員 き 0 か 議 まっ 組 隊 を 5 日 成 لح 合 伍 て さ ŧ を 員 紀 整 1 W  $\mathcal{O}$ 勢 な る く 三 え 為 面 西 から 隠 で Þ 線 あ 密 で 御 々 で あ に 0 坊 五. た。 あ 行 0 駅 Þ る。 た。 前 無 を で 簫 論 女 お

! 辺 全 員  $\mathcal{O}$ 心 0 で あ

け た。 L 殊 道 に は 巡 遠 杳 い 派 出 涂 所 中 で あ 擎 る 官 処 に は 発 遠く 見 z れ 口 7 L は て、 水 或 泡 に 皈 田 す 圃 る。 道 を 百二十 歩み、 名 或 余 時 は は 全 Щ 身 路 を 耳 撰 に W だ。 7 歩 W 道 は 本 街 道 を 避

は 白 名  $\blacksquare$ 村 明 \$ け 無 た。 事 に 通 0 たの 钔 南 ŧ 気 づ が迂 ħ ず に 過 ぎ た。時は か < L て 切 目 を 越 え、 岩 代 を 経 南 部 に 入 0 た 頃 仲 秋  $\mathcal{O}$ 空

Þ

لح

事 ŧ が 田 う 集 辺 町 ま に 歩 る 入 で 0 あ 予 た。 る。 7 連 ک 絡 芳  $\mathcal{O}$ L 養 時 て に 入 11 た 今 0 田 ま た 辺 で の伏 目 労 せ X" 仂れ す 組 7 田 合 い辺 た 員  $\mathcal{O}$ 農 町 民 遠 が 組 < 朝 馳 合 霧 旗 け  $\mathcal{O}$ 0 が 中 さ け に た 0 見 لح 新 え 宮 翻 る 方 n 会 面 0 員 行の 労 仂  $\mathcal{O}$ 顔 先は 者 ŧ 登 喜 出 高 び 迎 < に え 掲 輝 げ 1 6 た 行 n た。 0 B 意 が 忽 気 7 は 5 新 あ 行 が 聞 は 記 無 0

カン < 7 僚 友 組 合 員 に 列 0 両 側 を 護 5 n 田 辺 区 裁 判 所 に 着 11 た

ょ カコ 0 た !!

友 団 期 体 せ ず  $\mathcal{O}$ L T ヂ て 演 舌 行 が  $\mathcal{O}$ は П じ カン ま b 0 組 た 合 歌 が 拍 手 の高 波 b で カン あに る 流 れ た。 0 づ い婦 て 人 組部 合  $\mathcal{O}$ 長 中  $\mathcal{O}$ に 謝 は 辞 感 が 激 あ に 0 目 を 赤 用 < 意 L 0 7 決 V る 議 者 文 を t 裁 い た。 判 長 P 手 が 交 7

### 議

右の 生 玉 存 農 権 民 を 組 脅 合 威和 せ 歌 ん山 لح 県 す 聯 る 合 が 会 如 日 き 高 地 同 主 盟 階 슾 級 拡  $\mathcal{O}$ 大 暴 大? 虐 阪? な 支 る 部 手 長 段 会 議 対 は <u>\f</u> 断 入 乎 禁 止 立. 7 毛 反 差 対 押 耕 地 返 還 生 繭 差 押 等 小 作 人 階

級

決 議 す

九 = $\overline{\bigcirc}$ 年 月 + 日

全 玉 農 民 組 合 和十 歌 Ш 県 聯 合 会 日 高 同 盟 숲 拡 大 支 部 長

田 辺 区 裁 判 所 御

### 11

かた 罰 0 金  $\mathcal{O}$ か 領 裁 لح 収 判 思 書  $\mathcal{O}$ わ が 最 n 多 終 数 公 判 あ るの 処 日 かと ら公 推判 定の し結 て果 は 田正 辺確 行に 進 知 から らぬ 間が ŧ な昭 和 五. 恐年 ら十 < 十 月 月 七 末 日 لح カン ら十 十 月 月 初十 旬七 に 日 かの け 組 て 合 員  $\mathcal{O}$ 事  $\mathcal{O}$ 納 で は付 な

罰 金 公 判  $\mathcal{O}$ は 結 最 低 果 +は 円 兀 か + 6 余 + 名 五. が 円 罰 余 最 刑 高 七 + 名 円 が か 体 刑 で + あ 五. 0 円 て、 で あ 罰 0 金 刑 0 者 は  $\mathcal{O}$ 大 金 概 額 は 服 罪 大 L 体 当 た 時 暴  $\mathcal{O}$ 玄 力 米 行 為 石 違 余 反 に に あ ょ た る る ŧ 0 で、

係 0 争 日 ŧ 刑 た 私  $\mathcal{O}$ は 七 名 明 に カ は な に 直 L 5 に な W 控 が 訴 昭 和 七 年 七 審 月 本 争 審 議 ま で が 行 解 決 0 た L た が 時 結 ま 局 だ 最 服 後 役 は 三 中 0 カ 者 月 が 乃 あ 至 六 0 た カ لح 月 云  $\mathcal{O}$ う 刑 か を 5 け 昭 た。 和 七 年  $\mathcal{O}$ 判 ま 決 で

に 時 大 ま 話 슾 た が を 第 小 開 L 前 1 口 て  $\mathcal{O}$ 後 気 ₩. L 勢 た 入 を 禁 が 挙 11: げ が لح 行 ŧ) 角 わ れ 斯 る 様 カコ に わ L て、 カコ 6 な 少 な か 0 カン た b め 農 損 民 害 側 を は 受 終 け た 始 警 と 戒は を 굸 え 緩 8 ず 第 互. 口 ₩. 11 に 入 禁 激 励 止 L は 合 喰 11 11 機 لح 会 8 あ た る が <u>\_</u>" 何

H時  $\mathcal{O}$ H 事 方 高 か此 0 両 紡 頃 今 績 明 か 会 か b 社 に 次 第  $\mathcal{O}$ せ 労 め に 働 が 御 者 坊 が 多 町 分  $\mathcal{O}$ 多 昭 工 少 場 和 参 労 五. 加年 働 L 五 者 た 月 لح ŧ ŧ 0 日 接 لح で 近 考 は L え な 7 5 11 来 れ た か لح 思 う 体 御 此 坊 町  $\mathcal{O}$ で、 時 は 農 は 民 U 組 8 合 て 員 メ を 1 主 デ 体 と が L 行 7 わ れ た n  $\mathcal{O}$ に は 何 日

る か لح 5 先 云 ず う 中省 順 線 町 御 序 を 南 で 坊 あ 駅 下 0 前 た。 保  $\mathcal{O}$ 田広 場 屋 旅 に 集 館 カュ 会 後 6 松 真 原 直 涌 を ぐ 西に 南 行 下 新 薗 日 高 橋 を 紡 渡 績 ŋ  $\mathcal{O}$ 八 正 門 幡 神 前 社 に を 至 日 ŋ 出 西 紡 績 行 横 L 7 に 紀 出 で 小 浜 竹  $\mathcal{O}$ 诵 瀬 ŋ に に 至 出 で、 0 7 解 御 散 坊 署 す

北 年 野 兀 日 周 月 高 + 地 方 氏 七 B 日  $\mathcal{O}$ 狩 午 労 谷 後 仂 輝 八 運 時 動 氏 لح 史 が L Ł 出 た 席 第 是 L 三 非 て 口 調 11 メ べ る 1 7 デ お 思え Ì < 必  $\mathcal{O}$ ば 進 要 北 備 を 野 委 感 氏 員 じ ŧ 슾 7 古  $\mathcal{O}$ い 11 記 る 斗 録 が 土 が で あ 今 あ n 大 島 そ 吉 n 松 12 氏 所 ょ る 蔵 لح  $\mathcal{O}$ 争 日 高 議 合 関 同 係 労 綴 仂 1) 0 組 合 中 に 側 と L 昭 て 和 七

П 断 如 方 が لح さ 面 あ 7 لح て 多 0  $\equiv$ 第 難 て 方 で 面 あ 全 口 を < ₩. つ 襲 た 入 T う 禁 昭 ツ لح ıŀ. 和 云 が Ŧī. う 行 年 間わ 4 に れ 暮 た。 れ ک 眀 隊 け に  $\mathcal{O}$ 別時 7 れは六 地 年 た 執 主 春 側 で 達 あ 4 吏 第 0 0) た と 行 口 云  $\mathcal{O}$ は 失 う 敗が 湯 Ш に 村 鑑 御 2 n 坊 ŧ 駅 月 極 秘 日 前 方  $\mathcal{O}$ が 面裡 は に 0 内 事 き を n 原 村進 L 高  $\Diamond$ な た 家 い 方 L 突 面 農 如 志 民 賀 側 全 に < 村 油 穾

称 す 私 が 聞 地 V 方 た 力 所 士 に  $\mathcal{O}$ ょ 数 る と、 名 を ょ 此  $\lambda$ 0 で 時 ŧ 同 地 行 生 L 側 は لح 農 言 民 う 側  $\mathcal{O}$ 力 を 警 戒 L 田 辺 で あ 0 た カコ 和 歌 Щ で あ 0 た か 自 雷 也 لح

0 時 分 に な る 当 局 0) 干 渉 が 次 第 に 厳た L 大 会なな

## 土地を農民へ

供 ス を 拒 口 む 1 5 لح ガ 컞 う を 状 大 年 能 書 t で す 月 あ る کر に 0 は た 層 昭 民 対 和 立 七 لح は 年 言 激 七 う 化 月 0 L + が て、 九 不 日 隠 相 付 だ 手 朝 は 日 地 新 P 主 聞 カコ カコ 和 ま 5 歌 L 警 Ш 官 版言 に は わ さ ħ え 本 た 移 争 n 0 議 た を 会 云 場 口 Þ 顧 に 使 L た 用 す 文 る を 寺 掲 院 Ŕ 載 た 本 中 堂 で 0 提

5 当 時 0 悪 な 模 様 を 傅 え 7 1 る が 具 体 的 な 事 を 詳 に L な 1 近 < 調 べ て 見 た 11 と思

な Š 7 口 目  $\mathcal{O}$ ₩. 入 禁 止 が 行 わ れ 農 民 が 命 0 綱 لح す る土 地  $\mathcal{O}$ 耕 作 は 不 能 に な つ た が そ n は 争 議 0 解 決

で

種  $\mathcal{O}$ 和 態 解 を 条 項 層 を 悪 作 化 製 さ せ て る 双 に 方 ゞ 示 ま L る。 た。 然 ŧ 地 主 ŧ 農 民 ŧ 頑 と 7 譲 ろ Š لح は せ ぬ 見 カン ね て、 Ш 本 和 歌 Щ 裁 判 長 は

- 原 等 被 告 = 対 ジン従 前 賃 ヲ以 テ 引 丰 続 丰 本 件 土 地 ヲ 使 用 収 益 セ シ メ ル コ  $\vdash$ ヲ 承 諾 ス
- 原 他 本 件 納 分 作 其 料 中 昭 割 和 減 兀 ヲ 年 承 度 諾 ス 割 分 昭 和 五. 年 度 ハ 五. 分 昭 和 六 年 度 ハ 減 免 ス ル コ 1 ヲ 承 諾 ス
- $\equiv$ 割 滯 合 納 ヲ 若 小 作 以 右 料 テ 支 中 納 払 米 昭 フ ス 和 コ ル 六  $\mathbb{F}$ 年 コ 若  $\vdash$ 度 グヲ除 シ ザ 口 丰 タ = ル テ  $\vdash$ ル モ 丰 分 ハ 昭 昭 払 シ 和 和 タ 七 ル  $\vdash$ 丰 兀 九 ハ 被 年 年 度 各 告 分 等 + = ハ 石 於 月 テ 廿 分 + 五 H 割 円 = 利同 分 益 五. 割 年 ヲ シ 失 度 原 ヒ 7 告 石 方 時 + = 五. 持 円 金 参 五 支 額 +請 払 銭 求 フ ヲ

キ 和 六 石 +度 九 円 小 作 割 料 合 ヲ 昭 以 和 七 年 フ 月  $\equiv$ 十 日 限 IJ 原 告 住 所 持 参 納 付 ス ル コ 1 若 シ 納 米 ス ル コ  $\vdash$ 能 ザ ル

几 本 件 土 地 = 付 不 作 場 合 ハ 原 テ 支 告 払 被 告 = 於 テ <u>\</u> 合 検 見 <u>Ŀ</u> 減 協 議 ヲ ナ

ク

ル

異

ナ

丰

五. 於 テ 検 見 申 出 ヲ ナ タ ル = 拘 ラ ズ 検 見 以 前 lχ 取 又 検 見 申 出 ヲ ナ + ザ ル 場 合 /\ 減 免 協

ス

コ

六 被 セ シ テ テ 本 前 契 記 約 第 ヲ 除 項 ス ル 各 /[\ ヲ 作 料 及 F. 将 来 1 小 作 料 ヲ 口 = テ 七 滞 納 3 タ ル  $\vdash$ キ ハ 原 告 等 ハ 何 等

催

七 訴 訟 費 自 弁 1

ナ

ス

 $\vdash$ 

ヲ

得

ズ

昭 る 0) 0 和 兀 で 文 あ 書 る 秋 7 昭 か 亦 5 和 ŧ 数 六 え 年 11 0 7 春 和 ط 第 解 将 に 提 口 兀 示 立 年 Ł 年 入 月 で 結 禁 日 あ 局 īŀ.  $\mathcal{O}$ る。 成 後 記 功 ŧ 載 ĺ を な か 民 < 0 側 が は 何 内 等 容 時 カコ か 解 b 決 方 推 法 そうに 7 を 以 昭 和 7 見 七 え 引 年 た 続 が 月 耕 か 最 作 5 後 に て 月 至 初 11 n た 受 旬 事 入 ま ŧ で れ 容  $\mathcal{O}$ 6 易 n  $\mathcal{O}$ 想 لح カン 像 知 0 5 で

決  $\mathcal{O}$ 日 は 来 た

 $\mathcal{O}$ 和 歌 Ш 県 祭 部 特 高 課 長 網 戸 某 氏 0 奔 走 が 実 を び 昭 和 七 年 七 月 + 七 日 湯 |||村 財 部 安 養 於 7 解 寸

を挙げた。

大

阪 朝 日 高 ょ 日 る 新 亚 野 聞 75 大 和 争 歌  $\mathcal{O}$ 洒 議 Ш 酌 8 版 4 で 七 交 た 月 L き + 感 解 九 慨 寸 日 深式付 け は な 農 民

達

と題し、

追 寸 日 憶  $\mathcal{O}$ 高 式 平 な 野 举 を げ 血. る 12 H 染 が 8 来 7 た 係 争 実 民 に  $\mathcal{O}$ 兀 父 カ 杉 年 Ш 代 日 議 本 士 を  $\mathcal{O}$ 迎大 え小 作 7 争 高 議 5 を か 展 闘 に 歌 l う た 農 日 民 高 歌 農 民 酌 が み颱 交 風 す 杯 過  $\mathcal{O}$ 感 朗 慨 か さ 深 で げ 争 語 議 る 解

紀 州 農 民 運 動 史 上 に ク 口 ズ ア ツ ブ さ る べ き そ 0 日 だ 0 た

犠 五組 を < 昭 0 牲 年 合 づ 掘 湯 和 者 六 が 汳 Ш 兀 月 7 を 藤 村 年 L 出 昭 に 田 7 日 支 は 村 和 L 豆 高 吉 三 部 <u>\( \frac{1}{2} \)</u> を 郡 入 田 年 植 は湯 禁 以 度 Ш 麸 県 下の 止 え 道 村 に 附 年 改 大 端 近 貢 か 修 字 を 村 米 < に財 に に さ三 発 小 部 組 関 作 L 組織 L + 小 権 て  $\mathcal{O}$ 合 確松 員 拡 減 名 立原 大 免 لح 0 を を を 0) 農 叫 富 聞は 要 民 び安 か 求 及 に は れ 罰 乱 志 び ば、一 地 斗 賀 志 金 主 غ に村賀 一側 な 処 の村 方  $\mathcal{O}$ ŋ せ 谷 谷 九 拒 ò П + 絶に 執 支の れ 八 行 部 兀 名の 会う は 御は 力 遂 Ш 所 坊 地 B に 区 口に 主 大 藤 不 裁 は争 能 判治全 議 に 所氏農 日  $\mathcal{O}$ 終 開 本序 をの 0 設 相四 地 幕 た 以 手 支 主 が が 来に部 協 切 会に の棟が 0 実 記 上結 7 刑 録 L 成 加 落 盟し 以 をた さ 3 下 つば れ n < 7 か 十 7 た。 五. ŋ 間 対 0 た。 名 0) 立. t 0 家 な

如 さ Ж 11 Ш < 地 5 L て た。 方 に 涙 漸 裁 캪 0 解 ょ < 紃 六 ろ 4 網 所 年 に 七た 戸 に 当 県 び 開 月 特 0  $\mathcal{O}$ かに て う 高 れは 日 5 課 高 に 長 地 層 時  $\mathcal{O}$ 区 争 日 対 Ш 委 議 高 本 立 員 寸 入 裁 激 長 'n を 判 化 大 解 を 長 L 島 ŧ て、 V  $\mathcal{O}$ 吉 た 0 和 松 て 農 解 相 氏 民 解 調 手 は 達 決 停 は 語 は を で 圳 る。 見 解 主 さら る 決 カュ に لح 5 に 至 思 警 農 0 わ 官 た 村 れ に ŧ 窮 た さ 乏  $\mathcal{O}$ が え 打 で 移 開 あ 兀 0 る カ た 0 政 年 治 + $\mathcal{O}$ \_\_ 斗 七 惰 方 日 争 法 力 は廷 لح 本 意 戦 新 紙 外 t L 全 に 相 関 き Ł 前 西 永 後 歩 < 版 L を 所 尾 7 報 踏 を 和  $\mathcal{O}$ 曳 歌 4

調 結 果 定 で 裁 あ 判 る  $\mathcal{O}$ 判 決 ょ n ŧ) 吾 Þ は ょ ŋ 低 15 条 件 で 解 決 L た が ح れ は 特 高 課 長 が 窮 乏 せ る 農 村 0 現 実 を 正 視 L た

れ に ょ 0 7 法 律 は 現 実 に ょ 0 7 左 右 さ る ۷ b  $\mathcal{O}$ で あ る لح  $\mathcal{O}$ 認 識 を 得

لح 報 U 7 い 吾 は 現 カン 実 < に て さ 則 せ L る 4 農  $\mathcal{O}$ 村 大 争  $\mathcal{O}$ 窮 議 破 は  $\mathcal{O}$ 解 大 決 衆 L 運 た 動 が を 起 此 せ  $\mathcal{O}$ ば 新 必 聞 ず 記 成 事 功 を す 読 る W ځ で 0 何 信 か 割 を 切 得 れ た な 11 t  $\mathcal{O}$ を 感 ľ る

県

特

高

課

長

で

あ

る

事

B

大

島

氏

談

 $\mathcal{O}$ 

調

停

裁

判

ょ

n

Ł

吾

々

は

ょ

ŋ

低

V

条

件

で

解

決

L

た

が

굸

Þ

لح

言

う

言

葉

0

Š

ら停

に者

調

が

荒か ħ あ て る ず 事 い 稿 た が 時 第 置 代 六 に感 あ に た 来 る。 る か ら n そ は  $\mathcal{O}$ 恐 方 6 < 面  $\mathcal{O}$ 昭 関 和 係 七 年 に لح ょ る 言 ŧ え ば  $\mathcal{O}$ 上 満 思 州 わ 事 変 れ 勃 て 発 な 5  $\mathcal{O}$ な 前 年 で 後 あ ŋ 日 此  $\mathcal{O}$ フ 点 ア を ツ 4 シ 小 彐 0 調 嵐 査 が す 玉 る 内 事 を 吹 に き

## 銀 物

先

を

昭 和 三 + 兀 年 月 + 日 紀 州 新 聞 記 載

今昭~ 年和 は そ 八、, 0 後 ДÜ 九年 を 少年~ L 頃 続 け 御 て 坊 7 聞 た 書 い抄 لح 題 L て、 御 坊 0 兀 方 山 噺 を 九 口 程 本 紙 に 載 せ た

は 時 更 に 田 # 舎 洋 う 町 服 L لح 店 た 云  $\mathcal{O}$ 官 b 鉄 公 ħ 筋 署 た 建  $\mathcal{O}$ 御 築 外坊 が に に 完 民 \$ 成間 す 商 郵 る 店 便 لح 局 ŧ 11 B う。 さ 雷 ぎ Þ 12 局 木 下 日 パ 高 ン 病 店 院  $\mathcal{O}$ 建市 役 築 が 所 ٢, あ ŋ い  $\angle$ ま 数 ま 年 た 来 西 急 に 徳 鉄 商 筋 店 建  $\mathcal{O}$ 築 階 が 建 増 が え 竣 7 工来 た。 来 同

 $\bigcirc$ 

あ 戦 次 和 争 第 0 歌 あ 程 長 に Ш  $\mathcal{O}$ ま 11 持 認 中 建 で 間 ち 学 物  $\Diamond$ 木 は 5 在 南 لح 学 海  $\lambda$ 紙 れ は で 中 バ لح ľ ス  $\equiv$ 土 事  $\Diamond$ 会 学 で 業 +戸 社 箵 が 兀 出 田 才 が 0 大 来 銀  $\mathcal{O}$ 0 事 発 7 行 Š 展時 い とし 所 か L 信 た ず で 御 用 7 あ だ 中 坊 +建 五け 0 途  $\mathcal{O}$ 7 た。 を 退 家 5 六 唯 学 並 れ あ 隻 L  $\mathcal{O}$ た 0 中  $\mathcal{O}$ 9 経 石 汽 0) が 官 造 資 船 者 後、 建 本 最 を は 築 ŧ と 初 戸 で 0 L 神 田 多 て 大 戸 本 実 分 会 独 に 格 氏 大 社 立 出 的 で 正元な と て L あ 八ヵど な 7 汽 0 海 船 0 n た。 九00 運 会 年章 業 銀 社 ŋ 戸 頃 行 を  $\mathcal{O}$  $\blacksquare$ 0 開 給 業 実 竣 に 11 仕 氏 工 کے 西 たところ ŧ は で な 洋 手 御 は を 0 建 坊 な た。 S 築 市 カコ ろ が 藤 0  $\otimes$ 5 誠 で  $\blacksquare$ た き た ょ 実 町 カュ 立 Š な 藤 志 ど 氏  $\mathcal{O}$ 井 思 伝 第は は 0 会 中 出 社 0 次 身 0 でも 世 1 人 で 界 さ

と 銀 4 行 L に かた。 売 0 L 却 た 戸 が L 田 た。 銀 新 行 社そ は 屋 n そ が で  $\mathcal{O}$ で 兀 後 き上 事 業 る 銀 不 行 振 t  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 現 た 建 在 80 物 0 が 社 鴻 不 屋 池 用 銀 لح 行 11 な ま に 0 0) 売 0 =n た。 和 渡 銀 l 行 た  $\mathcal{O}$ が 建 物 鴻 池 を 銀 改 行 築 ŧ ま た 経 L ば 営 6 が < う ま <  $\angle$ で 行 仕 カュ ず 事 を L 兀 たこ 十三

昭~が 十四の  $\mathcal{O}$ 八章建 頃 御 年一物 坊 南 を 海 に バ 清 万 ス 五. 交 会 会 千 کے 社 Щ ょ に カュ 移 ぶ  $\equiv$ 社 万 交 円 同 < 年 5 5 Š が で 月 あ 買 南 V) VI 海 取 バ 町 0 ス  $\mathcal{O}$ た。 会 実 社 業 そ 0 家  $\mathcal{O}$ 本 が 社 清 集 交 0 会 な 7 ŧ 0 お た。 後 茶 に を 時 そ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 局 W 後 が だ +緊 1) 五迫 年 L 無 7 駄 解 話  $\mathcal{O}$ 散 夏 を ま L 7 た 建 ま 11 た 物 た は が 五  $\mathcal{O}$ 耘 清 浩 交 L はて

紀 陽 銀 行  $\mathcal{O}$ 所 有 لح な ŋ 建 築 物 所 有 者  $\mathcal{O}$ 変 る لح 六 度 12 及 W で

に ŧ 烕 愭 が あ る な 5 何 を 訴 え る で あろう

 $\blacksquare$ 銀 行 に 0 ヹ い 7 出 来 た 石 浩 建 築 は  $\mathcal{O}$ =銀 行 そ  $\mathcal{O}$ 十七の 土坑河 + 銀 行 で

あ

る

戸

Ш の御  $\mathcal{O}$ 取 坊 兀 士 扱 + 族 11 で 銀 を 浅 あ 行 L た。 ŧ 0 は た 幸 ŧ 岩 と そ 店 ŧ 橋 れ を 啓 لح が設 氏 は置 玉 が 立 0 1 就 き た 銀 任 Ŋ 行 L 株 御 で た。 式 坊 和 슾 で 歌 社は 山今 に 初 市 改め に 組 今 本 和 0 L 店 た 出 を  $\mathcal{O}$ 納 置 は分 き 室 明~の 明<sub>\_</sub>こ 治 ょ 治元ろ 二九う十五に、 八年 年 年~郡 兀 十 役 月 月所 一内 日 日  $\mathcal{O}$  $\blacksquare$ 0 辺 室 事 に と云 で 支 事 店 務 な を 設 初 扱 け 代 11 支 間 店 玉 ŧ 長庫 な に لح は 県 新 和 金 歌庫

銀 角 行  $\mathcal{O}$ 現 を 所 在 建 に て 鰻 た 屋 和  $\mathcal{O}$ が 銀 が あ 行 は 旧 0 ľ た 兀 り、 ま + ŋ で 今 銀 あ 0 行 る 栄  $\mathcal{O}$ 町 あ は 扇 る 湯 地 0 所 所 は ま 御 坊 で き 旧 こく 家 中  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 生 筆 垣 頭 が 続 紀 小 11 竹 て 屋 11 た 0 地 ぞこ 所 で、 を 岩 そ 橋 0) 氏 ろ が 買 家 並 لح 4 0 は て な < 木 造 あ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

広 そ 姿  $\mathcal{O}$ に 頃 な  $\mathcal{O}$ 0 銀 た 行 が 員 は 大\_ 正ヵ角 帯 += 一言に 前 三四垂 年~れ 頃 掛 ま け で で は 事 和 務 を  $\mathcal{O}$ لح 銀 n 行 員 角 が 帯 大 は 方 銀 で 行 あ カ 0 5 支 給 さ れ た。 そ n が Þ が て 沤 織 袴 に 変 ŋ 又

は た 建 が 築 カ 11 ۷  $\mathcal{O}$ ま る 大 好 阪 き 和  $\mathcal{O}$ な 銀 人 佐 行 伯 で لح な 組  $\mathcal{O}$ 和 0 施 歌 て Ш 工 11 本 る で 店 建 t 物 工 費 堂 は は 々 た 大 + 三 る 正 万 4 + の四 円 年 服 ぐ で 5 あ 月 0 い た。  $\mathcal{O}$ で 竣 あ 0 工 工 で、 事 た لح は す 11 官 本 う ベ て 吉 本 右 店 ま 衛 門 な  $\mathcal{O}$ 5 契 氏 約が 粗 末 で 頭 な 取 支 物  $\mathcal{O}$ 置 店 時 で で 0 はあ 建 詳 0 た。 細 7 は  $^{\prime}$ Ł わ宮 か本 5 氏  $\mathcal{O}$ < な は 5 カュ 石 浩 0

銀 先 ず 行 昭2 御 兀 和九 坊 + 初六 支 年年 店 銀 財 لح 行 界 看 が 0 板  $\equiv$ 不 を 況 変 兀 が え 銀 深 刻 行 に لح 越 買 な え 収 ŋ て さ 昭 基 n 和 7 礎 八 解 0 年 散 弱 十 す い る 各 月 地 九 لح  $\mathcal{O}$ 日 に 地 な 方 銀 ŋ  $\overline{+}$ 行 匝 七 は 銀 月 多 行 < Ł 十苦 ま 七境 た三 日 に 解陥 和 散 入 銀 決 0 行 た 議 を 買 L 御 収 て 坊 さ 町 れ 八 で 月 は 昭 +和 五五 目 年 兀 + 月 兀

 $\bigcirc$ 

役 高 銀 創 行 W 業 上 な さ 状 11 態 Š  $\mathcal{O}$ で 資 は 兀 本 + 金 明~三 治量 = n 万 行 円 + 0 1  $\mathcal{O}$ 三重り う 年。も ち 五遙 五 に 月 万 箵 五御本 千 坊の 円 町小 払 さ 東 込 町 11  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 日 地 津 高 方 村 銀 銀 英 行 行 は で 郎 あ 氏は 0 やく を 頭 取か 5 に 御 部 坊に 町 兎 を 角 中  $\mathcal{O}$ 心風 評 に L が あ た 地 0 た。 主 B そ 財 産 ŧ そ 家 を \$ 重 日

Ł 批 兀 方 + 銀 銀 行 行 が 和 重 役 歌 達 Ш は 市 何 に 本 n 店 を 町 B t 5 村  $\mathcal{O}$ تلح 日 那 5 5 衆 لح 7)3 لح 0 いく え た とこ ば 幾 ろ 5 カュ か 都 5 会 資 日 高 本 批 的 方 で  $\mathcal{O}$ あ る 人 Þ 0 に に 信 < 頼 5 べ ŧ あ れ 日 ば 高 親 銀 行 ま は れ 何 7 処 ŧ ま で

注 融 讱 目 界 町 0 に 情 支 同 勢 店 行 ŧ L を は そ 眀 開 創 う る 設 L い L た 同 日 事 態 者 本 戦 達 争 金 が t B 感 づ + 5 カ 次 ば め 万 欧 筈 州 は 千 戦 応 な 五. 争 前 百 쑄 Ł 0 Щ 日 0 لح 本 て + 膨 経 連 兀 脹 済 絡 銀 L 0 して 行 7 H 御 昇 11 ほ 坊 た 期 L 支 に 11 店 際 L 旨  $\mathcal{O}$ カュ 会 申 幹 L L 入 部 そ 7 れ は  $\mathcal{O}$ 発 7 裏 展 11 早 に た。 晩 は 日 少大~ な 正九 高 銀 カン 行 5 0 ぬ年 破 無 綻 理 は が 月 免 あ +n 0 た。 ま 日 11 لح 金 田

明 H 破 カ 連 綻 6 日 は 預 重 意 金 外 役  $\mathcal{O}$ 会 に 払 議 早 Ż 出 が 制 続 来 た 限 1 を た 実 末 昭2に 施 和九至 せ 六章る +年点な ざ る 月 秋 を 八 ۲ 得 日 n な ま 11 日 で 旨  $\mathcal{O}$ 髙 を 銀 不 告 良 行 げ 貸  $\mathcal{O}$ た。 橋 付 本 が 支 災 配 L て、 人 は S ŧ そ 早 تخ カュ に 5 三 に + ŧ こう 兀 銀 に 行 t 御 P 坊 支 ŋ < 店 を ŋ 訪 が 0 れ か 1 な ょ < 11 な ょ 0

預 そこ 金  $\mathcal{O}$ 払 で  $\stackrel{\sim}{\equiv}$ 出 を + 制 兀 限 銀 L 行 た。 御 坊 制 支 限 店 金 は 額 急 は 拁 預 本 金 店 に 口に 連 絡 0  $\mathcal{O}$ き \_\_ 上 +現 円 金 で  $\mathcal{O}$ あ 輸 0 送 た。 を 受 け 7 待 機 L た 明 け て + 月 九 H 日 高 銀 行 は

係 に  $\mathcal{O}$ t 噂 机 押 は 上 雷 L に 寄 波 積 せ  $\mathcal{O}$ た。 4 ょ あ Š げ L に て 町 カ お B 三 11 村 た。 十に 四拡 銀 が 0 行 た。 で は か十 兀 ね 銀 て ک 行 Ł 0 事 危 あ な 6 11  $\lambda$ !! لح 不 前 安 に 夜 本 か 6 店 かれ 5 た 届 預 金 い た 者 数 は + ド 万 Щ ツ لح 0  $\equiv$ 札 + 束 几 を 銀 ワ 行 ザ 御 坊 出 支 納店

۲ W な 大 升 金 が  $\mathcal{O}$ +山 を 銭 見 前 る 後  $\mathcal{O}$ 時 代 で あ 6 る 大 0 丈 数 夫 + لح 万 安 円 心 は L تلح n 何 程 事 大 Ł 金 な で < あ 終 0 わ た 0 カン 知 n ょ Š 0 預 金 者  $\mathcal{O}$ 心 理 な W 7 妙 な ŧ  $\mathcal{O}$ 

Ш 折 L を か 終 L た 日 が 高 銀 0 行 11 は そう に 再 起 は す 行 る かれ に ぬな 至 ら支 な 払 カ V 0 を た 制 限 L た 銀 行 は 預 金 す Ź 者 は な 11 事 実 H. 閉 鎖 L た لح 同 様 で、 多 0

 $\cap$ 

命 あ ま を 0 だ 共 に  $\mathcal{O}$ L 外 南 た に 海 か 信 か لح す 託 思 は カコ -أ أ 日 に 髙 記 銀 憶 行 L  $\mathcal{O}$ 7 姉 11 妹 る 会  $\mathcal{O}$ 社 に 0 ょ 東 う 町 な に t 柿  $\mathcal{O}$ 本 銀 行 両 لح 社 云 う  $\mathcal{O}$ 重  $\mathcal{O}$ 役 が あ 陣 は 0 共 た 通 カン لح 0 人 思 う が 多 L カ 中 0 町 B 南 は 海 n 信 日 託 高 لح 銀 云 う 行  $\mathcal{O}$ 

年 支 ま 頃 店 た 長 行 11 は 員 ま 藤  $\mathcal{O}$ 0 使 井  $\exists$ 0 高 宮 信 认 崎 4 用 が伊 金 原佐 庫 実 因  $\mathcal{O}$ へ 氏 あ 閉 で た 鎖 ŋ 実 に に た 美 ま 和 L 歌 ま 再 1 Ш 口 銀 生 髭 行 を 御 な 蓄 坊 カゝ え 0 支 た。 碁 店 0 が 強 あ か 0 0 た。 た 薄 لح 暗 を V 憶 陰 え 気 て な 11 建 る。 物 で 行 0 員 和 ŧ 歌 少 Щ な 銀 か 行 0 ŧ 昭 和 八、

# 墓地あちこち

九

運が

X 弱 地 時 草 ょ ごろ な で  $\mathcal{O}$ VV لح 水 は ょ て そこ 成 享\_か Š ŧ 岩 保せら に 墓 土 に 0 で を 元年と あ に は 作 ろ 禄立と 環 中は る た か 2 上 ゆ ろ  $\Diamond$ 知た 12 地 لح  $\mathcal{O}$ ら人 名 が n 風 記 Þ を め 好 が 化 録が が 潰 き な L  $\mathcal{O}$ L カゝ あ た 0 恐 2 ۷ 英 頹 る た 5 れ碑 ま 雄 れ < 0) て は L  $\mathcal{O}$ ŧ) だと 江 L 古 < 高 戸 ま V 睡 t 野 思 時 方 0 0 Ш う。 た で、 代 て B 初 せ V # 東 期 いそ る に 京 を かれ 時  $\mathcal{O}$ 多く 4 以  $\otimes$ 体 知 前 VI Ш さ n  $\mathcal{O}$ 私 た め t か 達 顕 地  $\mathcal{O}$ が  $\mathcal{O}$ 所 官 0 はぼ 謂 ょ  $\mathcal{O}$ 5 矢 殆 庶 碑 う ぬ民 張 N もな  $\mathcal{O}$ ど ŋ がな 右 そ で 見 1 名 かは 0 今 がな な 頃 け  $\mathcal{O}$ 所 樣 11  $\mathcal{O}$ め 土 ょ 私 か に に V) ŧ لح 達 墓 生 考 0 0 を لح え 建 先 7 ŧ 7 土 祖 ŧ) حَ る は 11 を な る れ 12 相 貧 は 至 手 田 碑 日 0 に 舎 高た 材 < 寺 11 地 生 が  $\mathcal{O}$ 5 0 多 方 は 活 <  $\mathcal{O}$ 地 0 た脆墓何雑が

墓 に l そ 碑 を て W 語 ŧ) な ろう 詮 P 索 が は さ 7 て は お 4 き、 な 土 に 気 還 分 る  $\mathcal{O}$ ځ V 思 b だ ż ば 0 昻 た ぶ時 る 気 墓 分 地 t を 自 歩 き 5 静回 ま る る。 を心 が お ま 和 け J. に 時 知 恵 Þ 面 Þ 才 白 V 覚 発 Þ 見 権 が 力 あ P る。 富 が 今 しい < 日 は 6 御 あ 坊 0 た  $\mathcal{O}$ 

お

4

どうさ

ん、

正

L

<

は

大

御

堂

本

願

寺

日

高

別

院

 $\mathcal{O}$ 

墓

地

は

余

ŋ

広

な

が

変

わ

0

た

碑

が

多

年

代

順

に

挙

げ

る

保 +九 年 · (一七三 四 0 玉 置 先 生 0 墓 が あ る 碑 は

正 面 玉 に

置 先 生 確

教 院 釈 了 円 居 士

彫 n つ順 け え側 い面  $\mathcal{O}$ 伴面 七に 次  $\mathcal{O}$ 文 句 が あ

لح

+ 先 而寄 三 成 附 生 口 群 干 諱 忌 弱 娶 Ш 門同 某 生 邑 氏 字 等 某 建 氏 豪 碑 娘気 于 秀 姓 御 才 玉 末 堂 有 置 之 子不氏 庭 也欲 傍 屈 其 不 軀 先 庶 幸於 出 歴 短 禄 干 年 命 不 哉 後 紀 口 帰 州 其 享 于 日 姓 保旧 高 命 八里 云 年 考 六 使 生 月 童 亦 蒙然 六  $\exists$ 卒以以 于 践 元 家 蒼 禄 頭 Ŧī. 之 寿 年  $\equiv$ 轍 八 + = 徒 月 多 五 仰 日 釈 其 生 遊 名  $\exists$ 雲 応 驚 同 誓 龍 郡 之 大 御 徳 勢 坊 町 明 不 年 H 夙

于 時 享 丁 九 甲 冬  $\dot{+}$ 月 門 人 寺 江 好 生 識

は享 谪 保 生に代 は 諱が名 漢 なに 字 保 カン 制 え 限 7 が 貰 な寅 うことに カコ 0 た カュ b て、 大 分 現 難 代 1 語い 訳 文 字 をす な ると、 使 0 て 11 る 碑 文 な J. 新 聞  $\sim$ 載 せ る  $\mathcal{O}$ 自 体 無 理 な こと で、 そ

山先当時  $\mathcal{O}$ 某 は仮 氏 0 家 子 え 供 に 寄 達 に 0 称 た。 手 L 習 11 生 玉 来 を 置 秀 教 伴 才 え 七 であ と云う った 先 生 た。 上 は 草 先 豪気 書 祖 が カゝ な 非 . ら 人 常 日 で、 に 高 巧  $\mathcal{O}$ < 禄 人 人 米 で  $\mathcal{O}$ Þ た が 元\_  $\Diamond$ 讃 禄九 嘆 頭 五二 L を 年年 た。 下 八 げ 月 御 る 五. 坊  $\mathcal{O}$  $\exists$ を  $\mathcal{O}$ 御 或快坊 人 L に لح 0 生 娘 せ 主 ず を n 迎 え 郷 早 室 里 < لح  $\mathcal{O}$ 和 御 歌

た が ま だ子 供 が な カン つ 不 幸 ± = 一 二  $\mathcal{O}$ 短 命 で、 享() 保() 八() 年年 六月 六 日 12 歿 Ļ 釈 名 は 応 誓大徳と云うた。

明 年 は + 口 忌 に 当 た る 0 で 菛 弟 が よっ 7 御 堂  $\mathcal{O}$ 庭 に御 墓 を 建 7

子 に を 帰 誤 ると云 訳 え が たとあ あ う る かか れ b ば 知 仲れ 御 め Þ 坊に 気が 骨 於  $\mathcal{O}$ 大体こん ける私塾としては最も古い あ る人物・ な意味か と見える と思う。 が、 **今**の 書 部であろう。 処 道 人為に に 秀 パでたの 0 ٧, み て は で な Š, 0) 碑 文 禄 以  $\mathcal{O}$ 外 た に 8 わ 身 か を 5 屈 ゆ。 す る 然 を L 欲 享 せ 保 ず 頃 旧 弟 里

 $\subset$ 

苦 心 次 L 12 た 古 が、 0 どうし が 宝 暦 ても 年 読 8 七 ぬ 五. 三. 個 所 が  $\mathcal{O}$ あ 鲁. る。 井 鵜 斉 れ と云 は 正 う医 面 に 師  $\mathcal{O}$ で あ る。 0 墓 は 風 化 が 著 高 野 光 男氏 と小 日

亀井卯斉之墓

	7	中去		#-	と刻し、
	忌□也	蟻隼人	就学	先君子	左右
□而記年	墓在口	皆称神也	而師事見	諱源卵齋	両面に、
卢		□□有之誉	光宣先生	紀南日	
	之口	誉也	学医	高人	
	遂	嗟惜	有年	也姓	
	樹樹和風	哉天仮年	功成業口	亀井氏	
	動之教識	而享	]而後帰旧	父号松庵	
	捻□香奉	辛夏五月	栖其為人	母 平	
	経以	<u>-</u>	八也性	井氏	
	叙予開	七日卒	口而不	以貞宣	
		- 于家	- 拒番鋭	李乙丑年	]
		□四十七釈	利和工	於御坊	
		七釈名	而抜口	郷□	
		号教円	抜□□方□	幼而好	
		当年	口門戸四	好学嘗遊□	
		十回	四方	又	

宝暦三年春正月嫡子專達敬誌

当 医 出 で、 年 لح あ は +其 貞 る 字二 回忌  $\mathcal{O}$ 0 が 家 に に 年 読 相 ま は人々 当 一六八 れ る。 ーする が 五に 0 多 即 くく集 でここに ち 生ま 角 ま 井 59, れ卵 墓 た。 齋 をつくる。 神 は 幼 0) 日 時 様 高 か な  $\mathcal{O}$ 名 5 人 少し で、 学 医だと云 問 乱 好 父 暴 きで、 を な解釈だが わ 松 ħ 庵 たが 눌 長じて医 V) 大意はこんなも 享 保 を 母 +修 は 六年(一七三一)四十  $\Diamond$ 平 井 氏 郷 里で 元 のであ 出 医 島 師 る。 に となっ あ 0 七才で亡くな た た。 旧 家 な 平 か 井 な 氏 カコ かの の名

11 お 話 を 伺 た 7 لح 思 1 な が 5 未だ 機 会 「を得 な

ح

0)

子

孫

は

11

まどの

家

カコ

.明ら

かでな

11

が

西

町

0

田

端

勢

郎

氏

が

時

Þ

お

参りしていると云う。

度

田

端

氏

に

詳

L

次 は 時 代 が 大 分 下 0 7 元 禄 時 代 八 六 兀 0 紀 伊 玉 屋 文 右 工 門 0 碑 が あ る。  $\mathcal{O}$ 碑 は 正 面 上 部 に 和 佐 屋 0 家 紋 を 刻

貞 礼 高 高 院 院 松 源 誉 誉 智 和 座 Ш 再 了 興 空 居 褝 定 士 尼

## 玉置先生の墓碑

面に次の碑文を彫りつけた、この墓もその一つである。 「玉置先生墓碑」「順教院釈了圓居士」と二行に刻み、側 いが、やはり田舎と違って変わった墓が多い。正面に 命云 于時 享保十九甲寅冬十月 門人 寺江好生識 年十三回忌 門生等建碑于御堂庭傍 庶歷年不口其姓 八年六月六日卒于家 寿三十二 积名日応誓大徳 明 而成群 娶向邑某氏娘 未有子也 不幸短命哉 享保 里 使童蒙 践蒼頭之轍徒多仰其遊雲驚龍之勢 不曰 寄附干弱山某氏 豪気秀才 不欲屈軀於禄 後帰于旧 先生きえい 字件七 姓玉置氏 其先出于 紀州日高 おみどはん(本願寺日高別院)の墓地は余り広くはな 考生亦然 以元禄五年八月五日 生同郡御坊町 夙

これを現代語で書くと 高の人で元禄九年八月五日御坊に生まれ、早く若山の 草書が巧で人々は感嘆した。御坊の某氏の娘を妻とし げるを快しとせず御坊に帰り、子弟に書道を教えたが 某家に寄った。生来秀才の上豪気で禄米のため頭を下 先生はきをえいと称し玉置伴七というた。先祖から日

御坊市15

享保は今から二百数十年の昔であって、郡内の私塾 だいたいこんな風になる。 忌に当たるので門弟等がよって、御堂の庭に碑を建て 六日病歿した。釈名は応誓大徳である。明年は十三回 たが子がなかった。不幸にも三十二歳で享保八年六月

寛永二年とあるが、これは明らかに嘉永二年の誤りと思 でありわずかに阿尾浦、光徳寺の了義の寺子屋の開設が 所載の私塾、寺子屋をみても、その殆んどが幕末の開設 寺子屋中、伴七の私塾は最も古い。試みに『日高郡誌』 (昭三八・九・二八

とあり、更に別の面には

川瀬九助

明治十四歳巳四月建之



てどうやら判読できた。

歌の主・広蔭は川瀬家の書簡によると、

と五行に彫られていた。

そふこころかな 雲の行方に 夕ぐれの 南ぐさめかねて ながめても広蔭

母平井氏 以貞享乙丑年於御坊郷□ 幼好学嘗遊□又 たものである。

面に亀井卯斉之墓と刻み、側面に次の碑文が彫られてい むのに費したが、どうしてもわからぬ個所があった。下 数年前、畏友高野光勇氏と二人で、小半日も墓碑銘を読 日高別院(大御堂)の墓地にある。碑面の風化が著しく

亀井卯斉は藩政時代、御坊にいた医家である。墓碑は

26

亀井卯斉の墓

先君子諱卯斉 紀南日高人也 姓亀井氏 父号松庵

就学而師事見宣先生 学医有年功成業□而後帰旧栖

なふらになろうか、卯斉の子専達が亡父のために建立し 少し乱暴だが碑文を現代風に訳すると、だいたいこん (昭三九・二・七)

た。享年四七であった。当年は十回忌に相当するので墓 をかさず享保十六年(一七三一)五月二十七日病歿し 神のような名医といわれた。しかし惜しいことに天、年 なったが、名医の誉たかく、常に多くの患者が集まり、 が幼児から学を好んだ。長じて医を修め、郷里で医師と 井氏の出である。貞享二年(一六八五)の生まれである

亀井卯斉は日高の人である。父を松庵といい、母は平

宝曆三年春正月嫡子專達敬誌

之教識捻□香奉経以叙予開

当年十回忌□也 墓在□□□□□之□ 遂樹樹和風動 保辛亥夏五月二十七日卒于家 □四十七釈名号教円 方蟻集人皆称神也□有之誉也 嗟惜哉天不仮年 而享 其為人也性□而不拒番鋭 利和而抜□□方□□門戸四

> ○信体の教を聞て過去りて 桑田嘉七の墓

行くぞ嬉しきみだの浄土へ

にたつ桑田嘉七の墓に刻まれた和歌である。ほかに明治 おみどさん、正しくは大御堂、本願寺日高別院の墓地 ○俗体を教へし主と思いなば 嬉敷立る君が墓かな

二十三年寅十月十五日、有田郡湯浅村俗名桑田嘉七の文

と報恩の情が感じられる。

いう締糸綿類商で、現在の中町、大畑時計店が岡甚の旧 これを建てたのは御坊の阪上甚吉である。阪上は岡甚と 墓銘によると、墓の主は有田郡湯浅村の桑田嘉七で、 夏草の生うるにまかせてある。

年三月、阪上甚吉建之と彫りつけてある。 字があり、正面には善空慈岳禅定門、裏面に明治二十七

墓碑は台座とも高さ三尺ばかりのありふれたもので、

や日高別院のために尽くすところが多かった。かつて阪 岡甚こと阪上甚吉は、浄土真宗に深く帰依し、本願寺

> 取人を誰にすべきかと聞いたところ、甚吉は言下に本願 寺法主大谷某師の名をあげたという。いまでも大御堂の 上甚吉が生命保険に加入したとき、勧誘員は保険金の受

したものである。和歌は幼雅であるが、信仰のよろこび 七の歿後、甚吉はこの信仰上の恩人にむくいるため建碑 縁側に、大正四年十二月、施主、阪上甚吉、年齢六四歳 土真宗に入信せしめた篤信家であったらしい。よって嘉 こ刻んだ擬宝珠が六箇のこっている。 湯浅の桑田嘉七はいかな人か未詳であるが、阪上を浄



川瀬広蔭の墓

とあり、別の面には 釈教 令 霊 んだ墓が目についた。その墓碑はこの辺りの墓地で、ど こでもみかける普通の形式のもので、表に 本願寺・日高別院の墓地を歩いているうちに和歌を刻

た「御坊町誌未刊稿本」には川瀬広蔭のことを という。なお昭和十五年ごろ、故井上豊太郎氏が編纂し 月十九日没、享年二八。詠草や短冊も伝えている。 た釈尼妙照は九代九助の娘で、俗名於安・文久三年八 没、享年四九歳広蔭はその号、教令は法名である。ま

今の海南市名高・中尾長次郎の三男で、川瀬家に入婿 して十代川瀬九助となった。明治七年十月二十二日

と記している 千広に学んで其詠歌は「夕日岡月次集」に出ている。 御坊町東町の人、材木商川瀬家当主の祖父、歌を伊達 (昭四四・六・三)

和に 彫 ŋ, 台 石 に 本家、 佐屋 あ n 側 面 に

佐 屋 本 家 江戸 浅草 並本 町

紀 伊 玉 屋文 右

エ

門

0) 面 元~に 治元 元六 卯四 子三

别

裏 面 12

月 建 立

礼 天二保工 九 ·六月二 +兀 日

とあ る。 有名 な 紀 伊 国 屋 文 左 衛 菛 字 違 1 0) 0 主 紀 伊 国 屋文右 工 門 とはどん な人で あろうか。 これ に 0 て 故

秀 松 博 土 の随筆集 \_ 春秋 ざ つ記 0) 中、「 南 玉 拾 遗 0 条 「紀文の 墓」 に、

紀 今でもそうだが、  $\mathcal{O}$ 決して珍し 玉 |屋とい うとそ 殊 か れ に が 徳 また ĴΠ 時 不思の である。 末期の 議に 現に私 もその家代々の戸 大江 戸には「紀 親戚で、 主が 四、 の国 屋」とい 「文左衛門」 も前 , う 屋 に紀州 とか 一号 が 私らの 市 \_ 文中に 中 宗家から分 衛 ザ ラに 門 とか あ 0 か 名 た。 れ 附 そ け らるる 0 上

0 V 先年 まで浅草雷門 前 の並木 町 で砂 糖 屋 を営んで いた家がやはり 紀伊 玉 [屋文右衛門であ · た。

0)

五代

0

て

来

て、

Ł

 $\mathcal{O}$ 

Š

な

0

たの

後 郷 書 玉 11 紀 て 州 11 る。 御 坊  $\mathcal{O}$ これで見ると紀 本 願 寺 別院 に 碑を建 伊 国 屋 てた。 文右 工 それがこの墓ということになる。 門 は 御 坊 東町 和 佐 屋津村氏 0 分 かれで、 江戸浅草の 商家 で あ 0 た が 死

0 釈 外 変 0 たも  $\mathcal{O}$ で は 和 歌 を 彫 ŋ 0 け た 墓 が 墓 ある。 その 0 は Ш 瀬 氏 0) 墓 で 正 面 に、

敬 令

そ

照

尼 妙

側

面

に

な が めても なぐさめかねて夕ぐも

雨 0 行方にそふ心か な

明~裏 治元面 十八に <u></u>一

建 之 瀬 九

歳と 兀 月 Ш 助

と 彫 それ ŋ 0 に け ć は あ る。 釈 教 令と 尼 妙 照 は 何 れ は Ш 瀬 家 0 方 Þ に 違 V な い が どん な方 カゝ 知 5 ぬ。 ŧ う \_ 基 は 桑 田 嘉 七 0

墓

信 体 0 教を 聞 7 過 去り

仃くぞ嬉しきみだの浄土へ

体を教し主と思いな

俗

嬉敷立る君が墓かな

明治二十三年寅十月の二首の和歌と、側面にの一八九〇年の帰る。

有 治 田 湯 浅 町 寅 俗 + 名 桑 月  $\blacksquare$ + 五. 七 日

正面に

善空慈缶浄心禅足門

裏面に

明治二十七年三月坂上基吉建之

を け 篤 と たも 建 信 あ á. 家 て た  $\mathcal{O}$ で ŧ が 墓 遺 を 0 と見 願 建 0 て 寺 7 え p た V る。 日 る。 坂 高 E 別 湯 基 吉 浅 院 0 氏 0 ために 桑 田 は 岡 嘉 甚 尽くす لح 七 は、 称 L この ところが多く、 た 御 坂上 坊 0 甚吉入 綿 糸 綿 今 信 類 でも 0 商 恩 で、 大御 人で、 堂 . の  $\mathcal{O}$ 坂 大 椽繰畑 上. 甚 の時 吉 計 金 は 具 店 信 などに、 が 仰 そ 上 0) 0 後 恩 坂 で 人 上 あ 桑 甚 る。 田 吉 嘉  $\mathcal{O}$ 有 名 名 を 0) な た 彫 8 り 宗 0

自 内 少 石  $\mathcal{O}$ l 稲 别 荷 院 表 洏  $\mathcal{O}$ 蒀  $\mathcal{O}$ 狩 前 地 野 に ば 泉 狩 カン 溪 り 野  $\mathcal{O}$ 泉 举 五. 溪 げ 文字があ す 0 墓 ぎ た。 が る ぽ 方 のみで、 9 面 んと忘 を 変 え 歿年も建 ħ ょ う。 5 れ たよう 御 碑 坊 0)  $\mathcal{O}$ 年月 に町 建 は ŧ ず 0 て れ 切 b る 西 か Ш 5 墓 沿 ぬ 石 V はに 六 並 七 5 製 材 五. 糎 地 帯 幅  $\mathcal{O}$ つ、 Ξ 七 昭 五. 和 糎 製 の材

5 が め Ħ  $\mathcal{O}$ 道 碑 0 理 か を で、 ず 者 最 墓 に 後 語 ŧ に b た 製 n せ た 材  $\mathcal{O}$ 0 囪 事 は 芝口 板 務 を 所 乾 常 で 訊 楠 氏 いたところ、 で、 た。 私 がこの そん 碑 な を 訪 墓 ね が たの あ 0 たよう は 昨 年 な気がすると、 0 夏で あ 0 た。 案 散 内 々 L あ て 0 < Ш れ 端 た を さ が 分 L かた

が 話 S は き V あ ま か ′ら b 三十 n た。 年 そこで 程 さ かて 関  $\mathcal{O}$ 係 ぼ 者 る。 達 が 昭 \_ か 協 和力し 初点で 議 年等い  $\mathcal{O}$ 末、 頃 で  $\mathcal{L}$ あ 0 た お カ ま 0 西 ŋ Ш した。 0 Ш ざらえをし 床しいことであ た 際 る。 ][[ 底 か 5 土 砂 と と ŧ に 0

れ  $\Box$ 食 氏 3 0) 説 で 墓 は 石 が 古く 河 底 浜 0 落 瀬 ちこん 0) Þ ۷ だ、 上 手 その一つが泉 松 林  $\mathcal{O}$ 中 に 共 溪 同 0 墓 碑であると云うのである。 地 が あ ったら い。 それ が長い 年 月 0 う ち 西 Ш 0) 流

泉 溪 に 0 ても わ カュ 5 め 点 が 多 が 海 南 風 土 記 0) 著 者、 雑賀紀 光氏によると、 備 後 玉  $\equiv$ 原 住 0 画

にに 軸 4 建 が 州 記 7 あ 公 5 L る 0 た れ 招 が ょ た き う に  $\mathcal{O}$ 玉 É 宝 ょ カン 狩は 級 ŋ 野 今 0 泉  $\mathcal{O}$ \$ 溪 所  $\mathcal{O}$ 江  $\mathcal{O}$ لح に 五切 来 L 文字 不 て た り、 明 斯 だ に 界 け 属 不 で が。 す 注 遇 る。 目 0 見 う さ 5 to n れ 0 て に る 墓 11 客 に 碑 る 死 過 は لح L ぎ 如 云 め う 何 に の泉 \$ で 溪 あの 画 家 遺 る 作 0 墓 然の に L ے 0 Š さ に  $\mathcal{O}$ わ 泉 溪 海 L 1  $\mathcal{O}$ 南 墓 市 形 が 鳥 0 Ŀ 居 う ょ  $\mathcal{O}$ 如 L 7 来 自 然 浜 寺  $\mathcal{O}$ 石 に 瀬 涅 0 槃 像 さ 墓 地

磇 最 後 関 に L 昨 た 年 部  $\mathcal{O}$ 分 Ŧī. を 月 借 用 芝 さ L 常 て 楠 Ŕ 氏 6 が 0 てこ 今 昔 0 御 項 坊 を 終 # わろう。 記 لح 題 て、 日 髙 新 報  $\sim$ 寄 せ 6 れ た 随 筀 中 か ら Þ は 1) 御 坊 0

が あ 墓 が Þ 珍 あ ら L n 標 =0 た。 基 1 わ 兼 そ 昨 ŧ ħ L 用 ば た 0 で 0) カュ 2 年 ŧ ボ 板 を ŋ  $\mathcal{O}$ 御 ン 碑 時 墓 室 坊 字 と t 町 戦 源 0 L 中 あ 災 行 宮 バ V) 7 期 で 寺 B 荒 寺  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 上 墓 B ŧ れ 即 に 部 た 場 お  $\mathcal{O}$ 5 ょ で 三 墓 に 役 金 角 あ せ 場 珍 所 剛 形 る。 物 集  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 界 隅 に め を 樹 0 た 見 額 当 に 木 大 ŧ 寺 部 ₩. 0 を 日 にこ に け 指 0 0 を 鉢て た。 導 カ あ 線 0) い L b と た。 今考 板 珍 て わ N 物 碑 ほ L 0 え 板 と を L て てニ 得 有 碑 11 V V することは、 لح な る。 0 と 条 7 V 云  $\mathcal{O}$ う 別 Š 高 線 とに  $\mathcal{O}$ に さぎ 人 を 驚 は が 0 尺 塔 < 角 あ け 前 許 程 旧 婆 0 7 御 身 り、 で  $\mathcal{O}$ 7 11 坊  $\mathcal{O}$ あ ŧ る。 真 に 0  $\mathcal{O}$ 幅 雨 言 お 7 で  $\mathcal{O}$ 五. ر بر ل 宗 墓 は 降 11 を て 標 な る 六 に 物 板 4 で 11  $\mathcal{O}$ あ 碑 語 0 は が に る を る な 御 貧 ŧ 有 か 弱 11 真 苦 0 す な が 言 労 は るこ 或 系 な ŧ 種 は な 統 0 物 ح 他 で カ 0 好 仏 自 あ 板 き 所 に る を に は 碑

日 高 Þ 校 東 舘  $\mathcal{O}$ 後 数 枚 0 田 を 隔 7  $^{\prime}$ 道 0 側 に S L た 墓 0 中 に ŧ, 以 前 三 基 あ 0 た が n は 或 は

旧 湯 |||領 で あ 0 た カ لح 思 わ れ る。 以 下

発

る

見 新 が 春 あ 早 Þ カン t 墓 知 0 れ 話 ぬ が 馬 鹿 に 長 < な 0 た。 そ 0 Š 5 少 L 暖 か に な 0 た 5 ま た 市 内 0 墓 地 を 歩 1 7 4 ょ う。 完 変 わ 0 た

### 御 坊 0 名 木 を 訪 ね

季 を 煮 お n カン 者 おれ は V) る Щ を  $\mathcal{O}$ 苴 が 愛 木 0 そ 色れ 智 はに 者 ŧ は 生 ま 水 活 L を に 7 好 疲 山 ts. لح n 々 た  $\mathcal{O}$ 굸 現 木 う、 代 々 人 断 のい る P ま 心 山 を で لح ŧ سلح は な 限 ħ < 6 私 程 和 め は Þ 仁 تلح 者 カュ に W で な L ŧ 7 埃 智 11 0 者 る ぼ で ŧ かい 測 地 な 1)  $\mathcal{O}$ い 難 P が < 11 ざ Щ ょ な ŧ う 雑 好 B. 木 き < を だ 日 ŧ L 射 愛 す L 水 る。 ŧ に 暖 ŧ か四

に な 0 た。 風 0 な い 0 を 幸 V 町 0 樹 木 を 訪 ね 7 見 よう。

# 大●

院 で 御 象 坊 徴  $\mathcal{O}$ さ 名 木 で そ は  $\sigma$ 御 何 堂 を は お 大 1 公 7 孫 ŧ 樹 大 に 御 ょ 堂 つ  $\mathcal{O}$ て、 公 孫 樹 層 を そ 举 0 げ 存 ね 在 ば を な 町 5 民 め に 印 御 象づ 坊  $\mathcal{O}$ け 町 は 11 そ る。  $\mathcal{O}$ 町 名 が 示 す 如 く 大 御 堂 日 高 别

背 圧 景 L に まこと男 聳 0 え 表 立 門 を 0 性 この くゞ 的 で、 0 巨 て 木 流 は 右 歩 に 逞 境 御 内 L 坊 に V 第 根 足 を を 0) 入 八 名木たるに 方 れ E る ٤ 張 ŋ 東 恥 太い 西 じぬ。  $\overline{+}$ 枝 間 を 兀 方南に北 十 拡 げ、 間 亭 々とし 高 さ  $\tilde{+}$ て 冲 間 天 を 郡 お 内 ۷ 第 を 数 誇 百 る 大 0 伽 町 家 藍 を を

< あ カュ 0 0 た ح 大 ح 公 n 孫 は う。 昭~樹 十□高 五華樹 年~周 四 九 月 米 五 0 ジ  $\bigcirc$ 工 十四 ] ン 台 尺 八八寸)、 風 主 樹 幹 高 が 約二十一 吹 き お 6 米 れ 八(七 て少し 十二尺)、 低 < な 0 た 大 が、 御 堂 以 0 前 棟 は ょ  $\equiv$ ŋ ŧ 米 九 米 + 程 尺) 高 11 近

6 れ 日 高 そ 别 れ 院 カコ  $\mathcal{O}$ b 前 数 身 え 薗 7 坊 樹齢 舎 が が およそ三 椿 原 今 百  $\mathcal{O}$ 五. 椿 + 地 ÷ 车、 区 浄 樹 玉 勢 寺 な 附 お 近 旺 カン 盛で ら、 ある ۷ に 遷 0 た 0 は 文 禄 兀 年  $\widehat{\phantom{a}}$ 五. 九 五. 0) こと ۷ 伝 え

たあ まで 高潮 6 n ゆ ば が押し る天地の この 大公孫 異変と、 よせた。 樹 は、 町家何 安政の大津浪も、近いところ(、名屋浦が居村漂没したと家 百 1の栄枯点 盛 一衰を、 近いところでは幾多市民の生命を奪っ 黙然としてその **かう、** 元和六年(一六二〇) 年輪 に秘めて 1 るの た第一 の大洪水 であ 次世 ŧ 界 戦 町 争  $\mathcal{O}$ Ó 中 空爆 央 11 Ŕ ま 0 そ 日 0 高 他 信 用 町 金 おこ 庫 附 近

### $\times$ $\times$ X

に t 植 たら 物 学 ź に ħ 許 たよう L 11 芝 で、 П 常 当 楠 時 先 珍 生. 樹として、 に 従 え ば、 多く 公 孫 寺 樹 院や は 日 神 本 社 لح 0 中 境 玉 内に 0 4 植えられ に 生 育 Ļ たものであろうと云う。 我 国 は 鎌 倉 時 代、 褝 宗  $\mathcal{O}$ 渡 来

宮 そう 0 間 聞 に で 植 < Ė f わ 0 ま 7 な さ る 11 に三 程 る 町 役 内 郡 で こころ ŧ 内 浄 0 0 寺 玉 寺、 位 Þ 置 でも をしめ 天 性 大抵 寺、 る。 見 カン 善 1 妙 け ま試 るが 寺 み 源 何と 行 手 寺 Ė Į, لح 出 つ 0) ても 店 古  $\mathcal{O}$ い 別 地 報 院 蔵 告書 堂、 0 公 か 一孫 茶 6 樹 免 公 は段 橋 孫 畔 樹 違 0 V 小 巨 に 竹 樹 巨 八 を拾うと きく 幡 社 前 県 下 0 寺 B

郡 業 所 Ш 村 在 皆 瀬 地 下 冏 田 神 寺 院 木 神 又 は 社 名 樹  $\overline{\bigcirc}$ 間 高 t 樹 周 備 地 考) 上

三尺

0

筃

之 原 島 村 村 西 酉 河 垣 原 内 志 加 茂 神 神 社 五. 間 六 七 尺 尺尺 五. 4 胸 IJ 高

海 那 日

草 賀 高

郡

中 Ш

郡

那 車 牟 郡  $\equiv$ 村 尾 Ш 村 尾 Ш 光 車 寺 五 間 六 六 尺尺 余

長 谷 賀 毛 郡 原 狩 坊村 宿 丹 光 生 明 神 寺 社 五. 五. 寸 IJ IJ

と 御 坊 /\ 市 竹 御 八 幡 社 前  $\mathcal{O}$ 公 孫 樹 は 本 三 願 米 寺 七 別 五. 院 (十二尺三寸)、 十 二 間 源 行 兀 寺 は尺尺 八 三 寸 米  $\bigcirc$ IJ  $\widehat{+}$ 尺二 寸 で 大 分 小 < 出 店 Þ 茶

免

橋 畔  $\mathcal{O}$ は t 0 لح ち る

そ

そ

0 カン ŧ ŧ れ う は VI 雄 女 0 株 人 で  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ あ 乳 公 る 孫  $\mathcal{O}$ 0) 如 樹 に で 面 樹  $\dot{\boxminus}$ が 幹 V 見ら のの は れ 部 る が 美 垂 事 n な さ 乳 が 垂 る を 0 ŧ を云 つこ う。 لح で ک あ る。 0 現 象 乳 は 垂 と 多 < 云 公 う 孫  $\mathcal{O}$ は 樹  $\mathcal{O}$ 雌太 株 V に あの 5 枝 わ あ n た る ŋ がか 6 大 御 あ 堂 た

0 樹 何 近 木 Þ 百 7 紋 ŧ 年 て 余 公 そ 孫  $\mathcal{O}$ 聞 樹 n に は 程 大 割 、きく 見 合 いれ 違 え は成 る な長 いが見 ば か ŋ 尤 1 と云 0 ŧ 成 昔 長 かわ を られ 遂 る げ だ 絵 た そ け ŧ 5 あ 0 事」 0 とし て、 0) て 例 藩 ょ 政 え かろう。 t 末 あ期 る に か 0 < 5 5 そ  $\mathcal{O}$ れ た ま 紀  $\angle$ 信 伊 ず 名 る所 义 ىل 絵 は  $\mathcal{O}$ で 挿 き 絵 ぬ で に は L て 外

## X

X

X

場 ポ

1 で 野 あ ツ 球 0 5 Þ た テ L = 11 ス ス ポ B バ ]  $\vdash$ ツ ? 0 な  $\vdash$ か 0 ン と た 昔 0 い 御 ろ 坊 い 0 ろ 子 新 供 L に 11 は ス ポ 1  $\mathcal{O}$ ツ を 御 堂 覚  $\mathcal{O}$ え 広た い現 庭代 B  $\mathcal{O}$ 子 小 供 竹 に 八 は そ 幡 社 れ 0 程 境  $\mathcal{O}$ 内 は لح 唯 は あ  $\mathcal{O}$ る 楽 ま L 11 11 が 遊 ス び

0 話  $\mathcal{O}$ 0 は 懐 ず 4 V で 思 山 い 中 出 不 は 艸 氏 昨 に 年 語 芝 る П 常 楠 先 生 が 今 昔 御 坊 世 記  $\mathcal{O}$ 中 で L 4 ľ 4 追 懐 L て お 6 れ た し  $\mathcal{O}$ 間 何 カ

لح そう 語 0 だ、 た とを 僕 5 指 Ł す 子 供 あ  $\mathcal{O}$ そこで 頃 は ょ 銀 < 杏 彼 を 処 で 0 遊 た W 記 だ 憶 t は 0 な 1 ね そう 云 え ば 御 堂 0 公 孫 樹 が 銀 杏 0 な 6 め 雄 株 で あ る

藍 と  $\mathcal{O}$ 11 地 0 で 時 感 あ 慨 深 VI 貌 を L た。 굸 わ ば 11 ま  $\mathcal{O}$ 中 车 拾 以 上  $\mathcal{O}$ 御 坊 生 れ 0 人 Þ に لح つ 7 は、 こと は 幼 11 日  $\mathcal{O}$ 夢 0 地 で あ ŋ 揺

## X X

0 著 曽 7 随 御 筆 堂 道  $\mathcal{O}$ 成 直 寺 ぐ゛ 前 0 中 に 町  $\mathcal{O}$ 公 旧 孫 家 樹 和× 佐 لح 屋 題 に 生 て、 ま れ 美 L 幼 1 少 年 文 期 を を 物  $\mathcal{O}$ て 境 お 内 6 を れ 游 75 場 て 育 0 た 故 津 村 秀 松 博 士 は そ

で 11 あ ま 時 0 津 村 秀 松 晩 博 年 士 は لح そ 書  $\mathcal{O}$ 傑 11 て n ŧ た 知 随 る 筀 人  $\mathcal{O}$ は 頫 材 少 とし 11 だろうが て、 常 12 郷 津 村 里 御 博 坊 士 は B 確 日 カン 高 に 0 地 近  $\mathcal{O}$ 代 紹 御 介 坊 が に 生 0 لح W 8 だ 最 5 れ Ł た。 傑 出 以 L た 下 少 人 材 L < 0

X

生 家 は 本派 本願 寺 派 0 表 0) 真 正 面 に あ る。 家 を 踏 4 出

そ 0 時  $\mathcal{O}$ ま ۷ カン 町 0 子 別 院 供 とは、 0 游 粛 浅 地 か 5 で あ め 0 交 た。 游 関 小 係 学校すらこ に あ 0 た。 0) 日 境 高 内 Ш にあ 原  $\mathcal{O}$ 0 外 た に 0) は せ だ 広 ば か 場 うら、 0 直 な ぐそこが 見 V 様 御 に 坊 ょ 别  $\mathcal{O}$ 0 町 院 だ。 て で は、 は 私 別 院 0 私  $\mathcal{O}$ 少年 境 は 内

そこ

で

子

期が

は 種 0 寺 小 屋 で 育 0 たの だと謂 える。

が そ 別 気 時 秋 半  $\mathcal{O}$ 院 が 代 か ば 傍 0 こら冬に らに 表 を通じ を蓋うている。 門 [を] は 又 て か 幾 け 入 &つかの ハるとす その Ć は、 庇 真夏にはその 護に 銀杏落 Ś, 寄生木が栄えてい 、そこに 馴 葉を集め れ 天に 青 その 葉 冲 の下に藁 恩 す て来てはどんどの 愛に る。 る大銀杏 親んだ私には、 余程 むしろやござを布 , の が 年代 あ る。 山を築 , を経 肌 この たも 目 1 0 1 黙々 ので 荒 て火にあたった。 て、 1 あ 老 たる銀 大勢で寝ころ つろう。 幹 か 杏 5 0) 四方八 は 大樹 幾 0 0 んだり、 が まり 方に ŧ 生 0) みの 兀 延 大 季を び 乳 た 親 H 房 大 通 代 た が 枝 ŋ 垂 ŋ ĺ のよう れ 小学 小枝 て、

この 文 は ね じ 柏 慎まだ少し先があるが 公孫 樹 に 縁 の深 いところでとどめる。

した。

Ш 県 0 発 行 風 0 変 「指定史蹟名勝天然物 った柏槙 の老樹は、 Þ 記 は 念概 ŋ 別 要」 院 0 に、この 境 内、 白 大 亜 樹 0 0 小 ことを じ W ま ŋ L た 経 蔵  $\mathcal{O}$ 前 0 方 に あ る。 昭\_ 和九 人三 年章 頃 和

歌 幹 周 六 尺九 寸, 根 口 り一丈、 左程 0 大木にあらざるも 幹 は勿 論 細 枝 に 至る ま で 悉 < 拗 れ 0 せ る 奇 態 実 に 珍

とあ

地

á. ある 全くよくもこうま で根 元 カン 5 梢 まで 悉く ね じ れ たも のだ。 これ に つ 1 て昔 か 5 次 0) よう な 奇 怪 な 伝 説 が ک 0

そも る。 た 0 英主 Ш して ŧ 直 春 直  $\mathcal{O}$ 光 0  $\mathcal{O}$ 日 陰 魂 肖 高 火 が像 別 が を 院 ひそ置 飛んでくるごとに、 は か し 日 てい 高 · 鬼 0 火と る。 豪族 そ な 丸 れ 0 Ш その て 元 雨 城 主 柏 山 0 湯 槙 夜 0) Ш は 城 B 家 「ぎい 累 墟 風代 を 出  $\mathcal{O}$ 0 ・ぎい」 て、 夕 氏 寺 日 天 西 と悲 高正 円  $\mathcal{O}$ 寺 田 L 昔 圃 0 V [をころころ. 豊臣南征軍 豊 後 声をあげながらねじ 身 で、 今も 転  $\mathcal{O}$ 'n た 同 な 8 家 悲 が 代 6 惨 Þ れてゆ 0 な 0) 最 位 寺 期 牌 を を 8 遂 訪 ねげ 同

### さ き 0 士 0 麗 筆 は またこの 老柏槙をも描

院 0) 境内 に は、 老 銀 杏 0 外 にも 私には 色々と記 念 0 樹 木 が あ る。 老銀 杏の 左 手 数十歩 のところに、 ح 頃

で 子 う 境 あ 供 幹 内 カ る。 b  $\mathcal{O}$ 0 頃枝 枝 春 だ  $\mathcal{O}$ لح を 先 私 V か 5 は う 身 き 枝 れ 寺 集 ま 等 僧 そ 8 に  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 7 叱 小 木 V 5 枝 5 た Þ 枝 は n  $\mathcal{O}$ \_ 先 な  $\Delta$ 0 ク が き 謂 き 5 わ Ł ば 0 私 ま 老 ま 0 小 で 木 猿 為 が が  $\mathcal{O}$ 念 0 あ ょ 入 面 る 遊 に う ŋ 動 大 ĺ 円 に ま 八き な た 木 曲 これ が 近 カン 藤 ŋ 頃 . ら < は そ が ħ  $\mathcal{O}$ ね 目 とも 木 0 立 きっ 7 々 0 に て 11 私 よじ る 0 衰 遊  $\neg$ 弱 捻 登 てド L 友 0 じ た 0 て、 達  $\mathcal{O}$ t で、 木  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 7 喜 垂 とい 々 れ لح そ 下 う珍 人 L  $\mathcal{O}$ が て 頃 る 戱 あ 木 は 大 Ł つ n た あ 波 とも ŧ る。 と に、 0

V て V

謂

え

ょ

Š

ず 商 年か津描 木 程 村 久 博 昔 兵 L 士 小 衛 枝  $\mathcal{O}$ 0 氏 明〜が 懐 治 生 L 二十七、十七、 11 W ま だ 0 岩 、 、 <sub>五</sub>る 章 国 ŧ 八年が 屋 年。  $\mathcal{O}$ 頃 ŧ  $\Delta$ 先 E ク 早 Þ 々代 ŧ ŧ 口 か 衰 生 健 弱 は 在 等 甚 難  $\mathcal{O}$ 0) だ ょ L 尽 う L カコ 力 < ろう。 で で まさに あ 危 る 期 を L 枯 体 脱 死 か す せ  $\mathcal{O}$ L ることが 当 柏 W とし 槙 時 は か たことが、 5 できた。 老 衰 気 あが味 尽  $\mathcal{O}$ 0 た。 き た ね が ľ 0 ک で 柏 0 あ ろ 時 う は は 町 カコ  $\mathcal{O}$ 気 荒 今 息 カゝ 6 雑 Þ 六 わ

惜 に H 其 高 0 將 別 1 院 て 徒 別 癈 有 院 枯 柏 焉 樹 に 翠 枝 乃 生雲 幹 募 が 同 施 々奇 描 心 喜 11 捨 態 た 柏 培 可 之 観 養 槙 蓋 之 不 义 後 知 其 日 軸 繞 経 幾 以 が 星 あ 石 檀 霜 0 て、 使 也 画 信 徒 工 虎 岩 翠 渓 -雲写 本 道 兵 者 衛  $\mathcal{O}$ 詩 が ある。

日

<

余 是 以 作 .. 之 歌  $\Box$ 

托 不 剪 容 根 二<sup>1</sup>凋 誠 祀 17 十<sub>元</sub>枯 意 凡 地 伐 絶 浄 呼 蒼 常 古 木 接 中法 幾 年

翁 黽 勉 周 縁 旋 仙 筵

明 免 治 九年 年。 一 真 月 好 因

溪 道 者 撰

柏 槙 0  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ て 老 詩 我 樹 は が  $\mathcal{O}$ 平 易 枯 死 0) を か虎 借 5 如 < L みわ 、 ざ 喜 わ ろ こんだ。 ず 捨 下 を 募 手 翠 っな て解 لح 回説 虎 生の 溪 の要 道 法は を あ 0 講 る ر ح U ま たい は あ 别 げ思 0 え 機 ば 会に 樹 昔 勢  $\mathcal{O}$ 述 を 人 盛は よう。 ŋ 心 か 掛 えけ が L た 炒 か L そ か 0 0 姿 を 絵 薪 に に ŧ 写 な 詩 5 め を

杜.●×

が W 深 だ V 11 た S は L 0 た 寛 4 な لح 永 を た 覚 八 御 ۷ 年 え 坊 え、 さ  $\mathcal{O}$ せ 町 六三一) で に 唯 は 古 芦 0  $\mathcal{O}$ 11 原 文 オ  $\mathcal{O}$ لح 献 T 上 ۷ B シ を 里 V ス 雁 わ 伝 で が れ に あ 渡 ょ る 0 そ n た 0 ば そ と 頃 は 紀 う。 州 田 W 井 徳 ŧ 畑  $\prod$ 1) 家 生 か  $\mathcal{O}$ 6 V 第 浜  $\mathcal{O}$ 0 代た 瀬  $\mathcal{O}$ 方 林 面 藩 相 主 は は 南 カン 帯 龍な 院 0 n 苩 頼 遠 原 宣 望 で、 公が が き 薗 い 御 此 処 殿 0 に 見 近 薗 る < 別 人 邸 ま  $\mathcal{O}$ で を 心 潮 営

カゝ を そ な 兀 V)  $\mathcal{O}$ V 五. 後 ろ 尺 延 < 築 宝 き 元  $\mathcal{O}$ あ 年 樹 げ が 六 あ 元 七 る 営 が  $\mathcal{O}$ 余 地 御 ŋ か 殿 大 b が きな 八 取 幡 毀 木 た 社 は を れ な 運 営 跡 地 た。 が そ 今 0 か ま 6 に 数 な え 0 て三 7 い た 百  $\mathcal{O}$ を  $\equiv$ 十 氏 年 子 昔 が に 願 な V る。 出 7 そ 払 W 下 な げ 関 を う 係 かけ 5 敷 カュ

が 向 る あ か る 0 て 0 で 右 公 孫 番  $\mathcal{O}$ 松 樹 大 =き は 米 雌 な 巨 株 五. 樹 で 乳 + は 境 垂 尺 が 内 七 を あ <del>寸</del> 出 る。 た ` 八 次 左 は 幡 の 三 戎 筋 神  $\mathcal{O}$ 米 社 公 لح 孫 八 宿 樹 + で、 弥 神 尺 社 往 前れ · 寸 0 は 松 樹 0 で 三 周 順 三 に 米 米 な 兀 七 ŋ, 十 五 \_ + <u>+</u> = 後 方 0) 尺 \_\_ 森 尺 兀 に 兀 4 欅 4  $\mathcal{O}$ 別 米 次 院 11 0 で そ 五. 正 れ 七 面 ょ ŋ 尺 拝 殿 大 4 前 分

か私れ に が 樹 何 は 通 下 見 る れ を に 当  $\mathcal{O}$ 逍 ŧ L カュ 遙 7 す 御•i 0 カ 筋 る に め 内 が は で 觡 少 細 L か 0 な V 季 た ŋ 渞 節 0) が が 樹 0 通 早 0) 種 じ 1 が て が シ・森だ。 あ い る。 これ 案 لح 大 外 1 事 どこ う 雑 に 草 あ L のが 7 た 鎮 な تلح 11 守 ŧ < t  $\mathcal{O}$ 落 な 0 杜 5 11 だ。 葉 に 0 ŧ が で 散 あ る n 物 敷 椎 好 11 き  $\mathcal{O}$ 木 7 に を V 後 見 る。 ろ カン 0 け 植 林 ぬ 物 中 0 に は 関 踏 どう す 4 る 入 V) 知 0 う 7 識 訳 を 見 た。 ŧ ろ た う ぬだ

### 坊●町 学●た 校● ブ●緑

が n  $\mathcal{O}$ を 木名 は 木 そ な n J. 大 程 若 袈 裟 11 Ļ に 取 大 あ 木 げ で る Ł لح な 11 私 な W تلح لح コ ブ シ は き 0 لح 洣 惑 が る に 相 違 な しい 誰 が 植 え た カコ 知 6 め

前 b だ 寒 H ń た 11 が 間 誰  $\equiv$ 月 此 カン 処 咲 初  $\mathcal{O}$ 旬 数 11 小 7 說  $\mathcal{O}$ 年 ア 空 カュ 来 ツ 御 映 ぱ 坊 画 11 11 で  $\mathcal{O}$ に、 う 勤 題 間 め 名 に を に あ 散 ŧ  $\mathcal{O}$ つ 清 0 花 て に 浄 ゆ  $\mathcal{O}$ 至 可 Ś 命 憐 0 は て、 な そ 短 紬 n か 白 御 だ <  $\mathcal{O}$ 坊 て け 花  $\mathcal{O}$ に が春 لح 開 は 層 云 く小 う 憐 学 れ  $\mathcal{O}$ 校 が が あ  $\mathcal{O}$ 深 あ ۷ コ 0 春 ブ 印 た が シ 象 来 カコ 的 コ カン 6 で ブ な 始 Ł シ بخ ま あ  $\mathcal{O}$ る 花 思 ٢ 0 わ 私 命 ず は ŧ 溜 思 実 息 0 に が 7 短 出 11 る。 全 ま < だ ア う 年す

## X X

句

コ 時 ブ 記 シ  $\mathcal{O}$ に 説 < 11 7  $\mathcal{O}$ ろ 植 で 物 学 的  $\mathcal{O}$ لح は 切 知 5 X L カン L 0 地 方 で は 比 較 的 少 い  $\mathcal{O}$ で は な い か 思 三  $\mathcal{O}$ 俳

あ  $\mathcal{O}$ 同 高 U さこ、 春 0 花 で ŧ 丈 には 季 節 達 ŧ す る 季 節 落 だ 葉 が 喬 木 で、 桜  $\mathcal{O}$ 如 枝 き 数 俗 多 0 に ぼ 岐 さ れ が な 新 葉 7  $\mathcal{O}$ ょ 出 X 前 無 数 0 花 を 梢 頭 樹 間 に 開 云

Þ

プ シ 0) コ 近 難 < に L 架 照 か コ る る ブシよ 電 ے 線 は  $\mathcal{O}$ 元 邪 気 魔 を に な せ る 0 لح لح 為 せ 自 で  $\otimes$ あ信 7 ろを 声 ٠ 5 , 持 援 7 0 昨 言 لح 年 葉 だ私 だ っは け た精 で カ ŧ 全 杯 贈 < 声 無 援 惨 l لح て ŧ 11 何 る لح  $\mathcal{O}$ だ ŧ が 云 11 様 世  $\mathcal{O}$ 0 な 中 1 は 程 無 枝 情 を な 払 ŧ わ  $\mathcal{O}$ コ

## ば・ × 出

そ二  $\check{\ \ }$ 樹 0) は め 抱 樹 え が は 姿と云 تلح لح 藤 いれ 田 う 程 町 カュ 巨 11 0 藤 ら、 きか 高 井 さと云 った 大 か 体 5 は、 樹 御 周 坊 Ξ 伐 れ  $\sim$ 太さと云 米 延 てし 程 び る  $\mathcal{O}$ ŧ ま 長 V 0) 0 V た今となっ であ 出 全く 島 0 堤 申 たろう。 0) Ĺ ち 分 て ょ 0 は う な そ計 سک い名木で 中 れ 算 の 方 な 5 う 法 岡 あ ŧ 本 0 ばな た 多 目 V 吉 が、 が 氏 0) 今次 0) 樹 邸 尚 لح 本戦 内 L 家争 に て 00 あ 人犠 は 0 さ 々 牲 とな L  $\mathcal{O}$ て 話 あ 巨 カン ŋ 2 らて 木 推伐 日 云 す 5 0 う n に た。 当 凡

た

6

近 に と ŧ < 偉 例 観 に え 0 で 樹 ば た あ 令 美 ا ك 0 浜 た 千 町 ほ ば 年 和  $\mathcal{O}$ か لح 田 ぼ りで 云 御  $\mathcal{O}$ わ 崎 な n 神 て 社 1  $\mathcal{O}$ 乗り る。 そ n 物 だ なったも  $\mathcal{O}$ が な 樹 カン 直 周 0 寸.  $\mathcal{O}$ た 樹 丈 時 高 凡 尺 代 そ 七 +寸 日 高 川間高 筋 に さ 及五 か 5 び間 御 坊広小 さ 々 ^ 出 لح な る L \_\_ 旅た 株 人 日 で は 高 ₽  $\blacksquare$ 圃 根 0  $\mathcal{O}$ 口 真 樹 1) 中 を に、 眺 丈 五 8 た 聳 え る 高 姿は さ 町 七 洵 間

命 を 聞 < 処 0 に たも ょ る 0 だとも لح 過 ぎ る 云 うし 明っと 明治二十二年 旧 陸 地 測 0 量 大 部 洪  $\mathcal{O}$ 水 五.  $\mathcal{O}$ 万分 لح 0 濁 地 流 形 に 図 押 に i Ł 流 独 さ 立 た 樹 幾 とし 多  $\mathcal{O}$ 7 人 記 Þ 載され が 7  $\mathcal{O}$ 樹 る。 12 す が 0 て 危 うく

であ L る 0 カン لح 藤 L 聞 田 11 き、 わ 領 う れ に 鍬 る あ ま  $\mathcal{O}$ か 0 5 た。 ば 柄 目 ほ どの ところ 約 0) 樹 百 は 樹を が 年 想 前数 植 像 に 代 する え な 前 た。 る。  $\mathcal{O}$ 程 頃 老 樹 現  $\mathcal{O}$ では لح 代 き  $\mathcal{O}$ な 尚 地 カュ 本に 0 氏 地 た。 0 所 をも 祖 そもそ 某 と は 井  $\Diamond$ ŧ 7 戸 尚 端 転 本 に 居 家 う L は た。こ そ ば 0) . め \_ 初 れ め、 を が 寬 植 V え 政 ま る 兀  $\mathcal{O}$ 年 栅 卯  $\mathcal{O}$ 0) 北 家 極 お 無 月 ょ 病息災 (一七 そ

カ な ぅ゙ ば 不 土 地 8 断 4 ŧ は 注 肥 他 連 え 縄 て  $\mathcal{O}$ 木 をい る カュ 較 け  $\mathcal{O}$ ~ 枝 そ を 百 七、 伐  $\mathcal{O}$ る こと 成長 八 + を年 は 厳の お 禁間 そ しに 1 驚 が 異 わ ず 的 何 かな L に成 ろ 広 正長 を 月 11 の遂 田 福 げ 圃 柴の 中 で  $\mathcal{O}$ みそ 日 をれ 射 で Ł の岡 申 樹水 L か家 分 5 で な < 得 は る のの お 樹 が 負 を 慣 け 神 に で木 水 あの ŧ

<  $\mathcal{O}$ 省木後 の 昭~ 献 供 和丸 納 出 一四 九四 f を す 年 ることに よ頃 う ょ ようさ なっ れ 我 た。 が 玉 そ 律 が 第 L 気  $\bigcirc$   $\stackrel{\cdot}{-}$ 7 岡次 或 る本 世 日 界 ż  $\bar{\lambda}$ 戦 遂 争 は で、 に あ 大 た あ 事 5 6 なゆ 名 \_ 木 る 人息 ŧ ŧ 伐 0 子 5 を さえ ħ 犠 た 牲 がお に 玉 戦 以に 0 外 差 7 L で 1 上 あ る げ 0 たこと る さ は る 人 لح あ を 気 介 前 ほ L ょ

樹勢が旺盛であったにかゝわらず、 中味が朽ちて殆ど空洞になっていた。

今も岡 本家にはこの 名木の名残として、当時の海軍大臣米内光政から貰った次のような感謝状が蔵せられている。

今次大東亜戦争二唿 謝 状 一際シ金 品 ノ 御 寄附ヲ辱ウシ

感 謝二堪へズ茲ニ深厚ナル謝意ヲ表ス

米内光政

尚

例え日 本 が敗れたとは 云え、 洵に 名木 0 最後にふさわし い最後では ない か。

昭昭 和三十四年二月二十六日夜)

(おわり)

# あとがき

- る事に 0 本文中、 まま 6掲載 より資料としての 被差別 7 V 部 ま 落表現や差別に ょす。 価 値を損 な つながる記 V) また歴 述、 史的 貴賎語 研 究 と思わ 0) 資にすることを妨げることになるの れ る言葉が含まれ ていますが、 を考慮 修正 当等を加え 原 文
- で 御 、ある。 坊 聞 書 抄 は 昭<sup>~</sup> 和二十七年 年八月から 昭 和 三十 兀 年 ま で 途 中 中 断 は あ る が、 紀 州 新 聞 に 投 稿 L た ŧ 0)

その ろが ~「つ」 間に掲載 になっ 期 間 てい 中 に、 たり、 新 聞 紙 0 面 活字の しも随 分変わったが、 大きさや漢字が 当時の 2旧字か 新 . ら 聞のままを書写した。 新 漢字に変わったり、 っ を使うべきとこ

- 昭 和 二十七年と云えば のことを知る私よりも二十才以上 私 は 丁度十才 で小学四年生、 一高 齢 前の方も 随 四分少なくなり り、 に六十年 大概の人は を経過 知ら している。 ないのでは 御 坊 な 駅 が か。 開 業 l た
- 父の 今までは 新 聞 スクラップブックが見つか 字一字指で打ち込んでい たが、 ったの 今 回 を機会にパソコンに起こしてみた。 は手書きでなく活字なので、 無精を決めての C R を試 して見

た。

幾ら伸び 結果 は ば 五. L + ても 年 前 文字が 0 古新 聞、 識別できるほど鮮明にスキャナー出来ない。 紙 面が黄色く、その上スクラップブック (D) 変換 両 面 率 に は 糊で貼り付けてい 60%位だった。 る 0) で波 打

カコ るが 紙質 0 機械 良 い本であれば大い に任せてしまうと残念ながらそうはいかない。 に利用出来そうだ。 ところがこつこつとキーをたたいて入力すると 頭 記

平成二十三年六月三十日(木)

# 清水 章博